

160
1291

明治二十三年七月

改正諸罰則大全

松榮閣藏版

No 4690/23

明治二十三年七月

改正諸罰則大全 全

松榮閣藏版

CZ
711
~~0184~~
0183

緒 言

一本書ハ現行法律規則中苟モ罰令ニ係ル者
テ博搜精索可成完全ナランヲ企テ編輯シタル
者ナリ然レモ固ト微力者ノ編纂ニシテ尚ホ或ハ
誤脱ナキヲ保シ難シ看官幸ニ恕焉

一現行中ノ法令ニシテ一部分ノ廢改加除アル者ハ
直ニ各本條ニ就キ之ヲ訂正シ而シテ其餘下へ何
年何號布告達令ニ依リ云々ト付記ス

明治二十三年七月

編 者 識



改正諸罰則大全目次

- 烟草規則
- 測量標規則
- 內國船難破及漂流物取扱規則
- 外國形日本船輸出入稅未納內外貨物回漕規則
- 火藥取締規則
- 葉子稅則
- 藥用阿片賣買并製造規則
- 檢疫停船規則
- 富籤賣買者等處分
- 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則
- 古物商取締條例
- 戶籍法
- 度量衡改定規則
- 登記法
- 取引所條例
- 鳥獸獵規則
- 徵發令
- 大藏省證券條例
- 株式取引所條例
- 海上衝突豫防規則
- 海底電信線保護万国聯合條約罰則

一十一頁
 十一頁
 十九頁
 二十三頁
 二十八頁
 三十二頁
 三十四頁
 三十四頁
 三十四頁
 四十一頁
 四十五頁
 四十六頁
 四十七頁
 四十七頁
 五十三頁
 五十七頁
 五十七頁
 六十九頁
 六十九頁
 六十八頁
 七十四頁
 八十二頁

(一目)

(二目)

- 爆發物取締罰則
- 版權條例
- 墓地及埋葬取締規則違犯者處分
- 保安條例
- 米商會所條例
- 米商會所并株式取引所収稅規則
- 遺失物取扱規則
- 賣藥印紙稅規則
- 鐵道犯罪罰則
- 傳染病豫防規則
- 電信條例
- 裁判所呼出遲不參罰則
- 蠶種檢査規則
- 牛馬賣買規則
- 危害品積込規則
- 脚本樂譜條例
- 郵便條例
- 西洋形船舶檢査規則
- 專賣特許條例
- 船燈信號器製造販賣規則
- 醉元用酒類製造規則
- 西洋形日本船各開港場出入規則

八十五丁
八十五丁
八十九丁
九十二丁
九十四丁
百三丁
百四丁
百六丁
百八丁
百九丁
百十三丁
百廿一丁
全丁
百廿二丁
百廿四丁
百廿五丁
百廿六丁
百五十三丁
百五十五丁
百五十九丁
百六十丁
全丁

(三目)

- 請願規則
- 石油取締規則
- 船稅規則
- 民事訴訟用印紙規則
- 銃砲取締規則
- 車稅規則
- 集會條例
- 酒造規則
- 酒造稅則附則
- 營業稅則
- 實屋取締條例
- 證券印稅規則
- 獸醫免許規則
- 種痘規則
- 信號器製造取締
- 獸類傳染病豫防規則
- 所得稅法
- 新聞紙條例
- 出版條例
- 寫真版權條例
- 醬油稅則
- 船燈製造取締

百六十一丁
百六十三丁
百六十五丁
百六十七丁
百七十丁
百七十三丁
百七十四丁
百七十八丁
百八十三丁
百八十五丁
百八十七丁
百八十八丁
百八十八丁
百九十五丁
百九十六丁
百九十八丁
全丁
二百一丁
二百五丁
二百十一丁
二百十一丁
二百十五丁
二百十六丁
二百廿丁

(四目)

○地租條例	二百廿四丁
○藥品營業并藥品取扱規則	二百廿八丁
○特別輸出港規則	二百廿九丁
○議會并議員保護規則	全丁
○決闘條例	二百三十丁
○府縣會議員選舉規則	二百三十九丁
○徵兵令	二百四十六丁
○賣藥規則	二百五十一丁
○登記印紙規則	二百五十九丁
○航路標識條例	二百六十二丁
○國稅滯納處分法	二百六十三丁
○衆議院議員選舉法罰則	二百六十六丁
○全罰則補則	二百七十三丁
○商標條例	二百七十六丁
○特許條例	二百七十九丁
○意匠條例	二百八十二丁
○市町村會議員選舉罰則	二百八十五丁
○衆議院議員選舉罰則補則ヲ府縣會議員選舉法ニ適用ノ件	二百八十九丁

改正諸罰則大全目次終

改正諸罰則大全

福富恭禮編纂

大政官第七十二號布告

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁錮及禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ビ科料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未滿ヲ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若シハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ビ咎可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ビ數罪俱發ノ例ヲ用ヒズ

第六條 法律規則中罰令アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニヨツテ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

但始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

●烟草稅則明治三十一年四月勅令第二十號

朕烟草稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ヒシム

烟草稅則

第一條 烟草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

(一) 烟草製造人

葉烟草ヲ買受ケ刻烟草又ハ卷烟草ヲ製造スル者

烟草仲買人

(二)

葉烟草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ烟草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者
製造烟草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ烟草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者
烟草小賣人

製造烟草ヲ烟草製造人又ハ烟草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 烟草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者
未丁年瘋癲白痴又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 烟草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ證約スル
爲メ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

證約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス
證約金 營業場一箇所毎ニ 五十圓以上
五百圓以下

烟草製造人此稅則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ犯則ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金ノ一部若ク
ハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 烟草營業者烟草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管廳ニ申出
鑑札ヲ受置キ之ヲ携帯シ又ハ携帯セムシヘシ

第五條 鑑札ヲ受クル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

烟草營業鑑札料 一枚ニ付金廿錢

烟草仕入鑑札料 一枚ニ付金十錢

烟草出賣鑑札料 一枚ニ付金十錢

第六條 烟草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

烟草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

烟草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

烟草小賣營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金五圓

第七條 烟草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之
ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第八條 烟草製造人烟草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ烟草印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 製造烟草ハ一定ノ包装ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條 烟草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造烟草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ
其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙
稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得且印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル烟草ヲ本邦ニ輸入スル
トキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 烟草耕作人烟草仲買人ハ其所持スル葉烟草ヲ烟草製造人又ハ烟草仲買人ニアラザル者
ニ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十三條 烟草製造人烟草仲買人ハ烟草耕作人又ハ烟草仲買人ニアラザル者ヨリ葉烟草ヲ買受借
受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉烟草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十四條 烟草仲買人ハ烟草製造人ニアラザル者ヨリ製造烟草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但
質流又ハ抵當流ノ製造烟草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ烟草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條 烟草耕作人ニアラザル限ハ自用ノ爲メタリトモ烟草ヲ製造スルコトヲ得ス

(三)

質流又ハ抵當流ノ製造烟草ヲ買受クルハ此限ニアラス

(四)

烟草耕作人ニ限リ自用ノ爲メニ烟草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス
第十七條 烟草小賣人ハ烟草製造人又ハ烟草仲買人ニアラサル者ヨリ製造烟草ヲ買受借受讓受シ
ルコトヲ得ス

第十八條 烟草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造烟草若クハ包裹ノ解錠毀損シタル製造烟草ヲ所持
シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造烟草又ハ包裹ノ解錠毀損シタル製造烟草ヲ烟草營業者ヨリ買
受クルコトヲ得ス

第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス
第二十一條 烟草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十二條 烟草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ検査ス
ルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ烟草營業ヲ爲シタル者ハ遁脱ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ
仍ホ其烟草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金
ニ處シ仍ホ其烟草及器械ヲ沒收ス

第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル
烟草ヲ沒收ス

第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ヲニ記載ヲ爲サスシテ脱稅ヲ謀リ又ハ脱稅シタル者八十
圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第二十六條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓
以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉烟草ヲ烟草製
造人烟草仲買人ニアラザル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造烟草ヲ烟草仲買人ニアラサル者ニ
賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯
罪ニ係ル烟草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條 烟草自用者ニシテ葉烟草若クハ無印紙ノ製造烟草又ハ包裹ノ解錠毀損シタル製造烟
草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ賣渡シ又ハ消糜シタル者ハ其代金ヲ追徴ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 烟草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

第三十三條 烟草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第三十四條 烟草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
第三十四條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

附則
第三十五條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地
ニ烟草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

第三十六條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル烟草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者ハ後見
人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

第三十七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル烟草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ證約狀ヲ管
廳ニ差出スヘシ

(五)

(六)

第三十八條 此稅則施行以前ヨリ烟草仲買人烟草小賣人ノ所持スル卷烟草ハ烟草製造人ニ委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻烟草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻烟草ハ其所持人ニ於テ烟草製造人ニ委託シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

大藏省令第三號 明治廿一年四月廿六日

今般勅令第二十號ヲ以テ烟草稅則改正ニ就キ右施行細則左ノ通相定ム

烟草稅則施行細則

第一條 稅則第二條ニ依リ烟草製造又ハ烟草仲買營業ノ免許ヲ願出ツル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出スヘシ但免許ヲ受ケタル後異動ヲ生ジタルトキハ其時々管廳ニ届出ヘシ

第二條 稅則第三條ノ證約金額ハ證約者ノ雇人器械ノ員數及ヒ其建物ノ坪數ニ應シ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

北海道廳長官府縣知事必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ノ員數坪數ニ拘ハラズ證約金額ヲ増減スルコトアルヘシ證約ノ手續及ヒ證約狀ノ様式ハ別ニ之ヲ告示スヘシ

第三條 烟草製造營業免許ヲ受ケタル者ハ其營業ニ關スル家屋倉庫ノ圖面製造器械ノ種類箇數及ヒ雇人、弟子、職工ノ數(職工ハ其住所ニ)ヲ其府縣ノ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但異動ヲ生ジタルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第四條 稅則第二條但書及ヒ第三十六條ノ場合ニ於テ左ニ掲クル者ハ後見人ト爲ルコトヲ得ス

一公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者

一身分限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條 稅則第三十六條第三十七條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第六條 烟草營業者其營業場外ニ住居スルトキハ其家屬又ハ雇人中ニ於テ營業上自己ノ代理人タルヘキ者ヲ豫メ定メ置キ之ヲシテ其營業場内ニ常住セシムヘシ但代理人ノ氏名ハ租稅檢査員派

所ニ届出ヘシ

第七條 稅則第四條ノ仕入出賣ヲ爲スコトヲ得ル家屬雇人ハ其營業者ト同居常住ヲ爲ス者ニ限ル

第八條 烟草印紙ノ種目ハ左ノ如シ

黑色	一枚	二厘
淡赭色	一枚	三厘
黄色	一枚	四厘
赭色	一枚	六厘
萌黄色	一枚	八厘
淡青色	一枚	一錢
茶褐色	一枚	一錢二厘
淡紅色	一枚	一錢六厘
桔梗色	一枚	一錢八厘
橙黄色	一枚	二錢
老綠色	一枚	二錢四厘
濃青色	一枚	三錢

(七)

(八)

淡黑色	一枚	三錢二厘
黃綠色	一枚	四錢
嬌栗色	一枚	四錢八厘
紫色	一枚	六錢
朱色	一枚	六錢四厘
赤色	一枚	八錢

第九條 製造烟草ノ包裝每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

刻烟草每一包(函)ニ付

百匁入
八十匁入
六十匁入
五十匁入
四十匁入
三十匁入
二十匁入
十五匁入
十匁入
五匁入

卷烟草每一包(函)ニ付

二百本入
百本入
五十本入
二十本入
十本入
六本入

第十條 稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種烟草一束毎ニ各之ヲ紙袋入り、又ハ紙包入

リトシ其包裝ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニシテ之ヲ固着貼用印紙ヲ破毀セザレハ烟草ヲ取り出スヲ得サル様ニ密封スヘシ
製造烟草每箇ノ^{量目}定價、氏名、住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ其包裝ノ表面ニ記入スヘシ

第十一條 烟草印紙ハ數枚連貼スルコトヲ得

第十二條 製造烟草每一箇ノ定價錢位ニ滿タサル端數ナルトキハ四捨五入ノ例ニ依リ二厘印紙ヲ貼用スヘキモノトス

第十三條 毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス

第十四條 烟草營業者ハ既ニ用ヒタル烟草印紙又ハ其包裝ヲ所持スルコトヲ得ス又何人ニテモ之ヲ賣買シ若クハ讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 烟草營業者ハ商品見本トシテ每種刻烟草五匁紙卷烟草十本葉卷烟草五十本ニ超ヘサル包裝ヲ切抜キ之ヲ店頭ニ陳列スルコトヲ得

第十六條 稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ノモノヲ用ヒ黒肉ヲ以テ其包裝封緘ノ要部ト印紙ノ彩紋トニ掛ケテ之ヲ押捺スヘシ

第十七條 烟草製造人製造スル烟草ハ其自用ニ供スル者ト雖モ總テ烟草稅則ニ從フヘシ

第十八條 烟草製造人、仲買人ニシテ葉烟草ヲ買入レ又ハ預リタルトキハ壹俵壹「カマス」又ハ壹束毎ニ其葉ノ種類、量目、及ヒ^{買入}預リ^{レタル}番號、年月日^{買入}預リ^{タル}主ノ住所、資格、氏名ヲ記シタル票札ヲ附ケ置クヘシ

第十九條 烟草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ烟草ヲ藏置スルコトヲ得ス但葉取リ葉拵又ハ賃卷ノ爲ニ烟草ヲ職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

(九)

第十九條 烟草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ烟草ヲ藏置スルコトヲ得ス但葉取リ葉拵又ハ賃卷ノ爲ニ烟草ヲ職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

(八)

淡黒色	一枚	三錢二厘
黄綠色	一枚	四錢
嬌栗色	一枚	四錢八厘
紫色	一枚	六錢
朱色	一枚	六錢四厘
赤色	一枚	八錢

第九條 製造烟草ノ包裝每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

刻烟草每一包(函)ニ付

百匁入
八十匁入
六十匁入
五十匁入
四十匁入
三十匁入
二十匁入
十五匁入
十匁入
五匁入

卷烟草每一包(函)ニ付

二百本入
百本入
五十本入
二十本入
十本入
六本入

第十條 稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種烟草一束毎ニ各之ヲ紙袋入り、又ハ紙包入

リトシ其包裹ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニシテ之ヲ固着貼用印紙ヲ破毀セサレハ烟

草ヲ取り出スヲ得サル様ニ密封スヘシ

製造烟草每箇ノ^{量目}定價、氏名、住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ其包裹ノ

表面ニ記入スヘシ

第十一條 烟草印紙ハ數枚連貼スルコトヲ得

第十二條 製造烟草每一箇ノ定價錢位ニ滿タサル端數ナルトキハ四捨五入ノ例ニ依リ二厘印紙ヲ

貼用スヘキモノトス

第十三條 毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス

第十四條 烟草營業者ハ既ニ用ヒタル烟草印紙又ハ其包裹ヲ所持スルコトヲ得ス又何人ニテモ之

ヲ賣買シ若シハ讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 烟草營業者ハ商品見本トシテ每種刻烟草五匁紙卷烟草十本葉卷烟草五十本ニ超ヘサル

包裝ヲ切替キ之ヲ店頭ニ陳列スルコトヲ得

第十六條 稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ノモノヲ用ヒ黒肉ヲ以テ其包裝封緘ノ要

部ト印紙ノ彩紋トニ掛ケテ之ヲ押捺スヘシ

第十七條 烟草製造人製造スル烟草ハ其自用ニ供スル者ト雖モ總テ烟草稅則ニ從フヘシ

第十八條 烟草製造人、仲買人ニシテ葉烟草ヲ買入レ又ハ預リタルトキハ壹俵壹「カマス」又ハ壹

束毎ニ其葉ノ種類、量目、及ヒ^{買入}預リタル番號、年月日^{預リ}主ノ住所、資格、氏名ヲ記シタル票札ヲ

附ケ置クヘシ

(九) 第十九條 烟草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ烟草ヲ藏置

スルコトヲ得ス但葉取り葉拵又ハ賃卷ノ爲ニ烟草ヲ職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第二十條 烟草營業者又ハ烟草耕作人葉烟草又ハ製造烟草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

(〇一)

第二十一條 烟草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 葉烟草ノ種類、番号、荷造ノ區別、個數量目、荷數、荷主ノ氏名住所

一 製造烟草ノ種類、包裝ノ區別、個數、荷主ノ氏名、住所

第二十二條 烟草製造人ハ烟草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎ニ之ヲ携帶シ印紙買入人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ
一 印紙買渡ノ年月日

一 印紙ノ種類枚數

一 賣捌人ノ氏名住所

第二十三條 輸出製造烟草ノ檢査ヲ受ケントスルモノハ種類、個數、定價、印紙、稅額ノ仕譯書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ願出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造烟草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦同シ

第二十四條 稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第二十五條 送狀ヲ添付セサル烟草荷物ハ租稅檢査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルコトアルヘシ

第二十六條 代替ノトキ若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキハ管廳ニ届出左ノ期日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ
一 代替書換ハ六十日間

一 其他ノ書換再渡ハ十日間

第二十七條 烟草稅則及此規則ニ掲グル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第二十八條 烟草營業者廢業ノ節ハ租稅檢査員派出所ニ届出其製造器械ニハ當該官吏ノ封印ヲ受クヘシ

第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第二十八條第三十一條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ烟草營業者包裝ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フベシ

第三十一條 從來免許ヲ受ケテ烟草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條及ヒ第三條ノ届出ヲ爲スヘシ

測量標規則 明治二十一年七月 勅令第五十八號
朕測量標規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

測量標規則

第一條 陸地測量部及水路部ニ於テ測量標設置ノ爲メ敷地ヲ要スルトキハ官有地第三種第一項ノ土地ニ在テハ其所轄廳ニ通知スヘシ

宅地ニ非サル民有地ニ在テハ之ヲ買上ケ又ハ相當ノ借地料ヲ給シ一時之ヲ借入ルヘシ其所有者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但測量標敷地ヲ買上ケントスルニ當リ其所有者借地料ヲ要セス永渡貸地ト爲サントシ望ムトキハ格別トス

(一) 第二條 測量主任官ハ測量標設置ノ場所ヲ測定シ測旗及假杭ヲ樹立スル爲メ必要ナルトキハ前條ニ掲グル官有地又ハ民有地ヲシテ牆垣籬柵等ノ設ケアルモ之ニ立入ルコトヲ得此場合ニ於テハ主任官タルノ證票ヲ携帶スヘシ

(二一)

所轄處所有者又ハ管理人ノ所在遠隔ニシテ其證票ヲ示ス能ハサルトキハ施行ノ後直ニ之ヲ通知スルコトヲ得

測量施行ノ爲メ規標ヲ樹梢ニ附設スル場合ニ於テハ宅地内ト雖モ之ヲ施行スルコトヲ得

第三條 測量施行ノ際障礙アル竹木ハ第一條ニ掲クル民有地ニ在テハ相當ノ代價ヲ給シ之ヲ伐除スルコトヲ得

第四條 測量施行ノ爲メ牆垣籬柵等ヲ毀壞シ又ハ植物菓物ヲ損害シタルトキハ陸地測量部及水路部ニ於テ之ヲ賠償スルモノトス但其所有者ハ三十日以内ニ申出ヘシ

第五條 測量標ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 測旗及假杭ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 疎虞懈怠ニ由リ測量標及測旗假杭ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ又ハ獸類ヲ繫キ又ハ繩索ノ類ヲ懸ケ又ハ貼紙シ戲書シ又ハ登攀其他惡戯ヲ爲シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●內國船難破及漂流物取扱規則 明治八年四月 第六十六號布告

內國船難破及漂流物取扱規則別冊之通相定候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候事但本年同日ヨリ浦高札ハ廢シ候事

(別冊)

內國船難破及漂流物取扱規則

第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ屬スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ個條ニ從テ取扱フヘシ

第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管廳ヨリ區戶長其他用掛リ等ノ内ヲ以テ適宜ニ浦役人ヲ申付置クヘシ

第三條 諸通船難風ノ爲メニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見付次第直チニ浦役人ニ報知シ且ツ浦役人ヨリ指圖無之ニ速ニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ

但シ救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立タル者ヨリ頼談無之内ハ猥リニ船中ノ物品ヲ積ミ移スヘカラス

第四條 浦役人ハ難船ヲ見付或ハ其報知ヲ得ルキハ速カニ其乗組人及ヒ船體積荷ヲ救助保安スルノ手立ヲ盡スヘシ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受ケ候節ハ板木半鐘等打鳴ラシ八數ヲ呼聚メ且ツ近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出サシムヘシ

第五條 少人數ニテ救助シ得ヘキキハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛ラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ、早速人數ヲ退散セシムヘシ

第六條 保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最モ安全ニシテ且ツ便利ノ場所ニ之ヲ置クヘシ尤モ小屋掛ヲ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲ爲シ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ

第七條 難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直チニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知スヘシ

第八條 難船物ヲ保安スル者ハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣ハスヘシ

(三一)

第一 海面ニ漂流スル物品ハ其二十分一

第二 海中ニ沈没スル物品ハ其十分一

第三 川面ニ漂流スル物品ハ其三十分一

第四 川底ニ沈没スル物品ハ其十五分一

但シ其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ケナシ

(四一)

第九條 浦役人ハ救助ノ爲メ集マリタル人數及ヒ救助ノ爲メニ出シタル小舟現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ之レニ就テ盡力シタル證據顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃錢等ヲ割渡スヘカラス

第十條 保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ沙入り水濡レ等ノ爲メニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ之ヲ入札拂ニ爲スヲ得ヘシ

但シ本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルベク丈ケ最寄ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニテ之ヲ爲シ且ツ其物品ノ目錄及ヒ買入ノ證書並ニ其附直段ノ第三番迄ヲ取置クヘシ

第十一條 保安物ヲ賣拂タルキハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲載シタル諸費用ヲ其船主荷主ヨリ

出サシムヘシ

第一 保安料

第二 救助ノ節働人足賃及ヒ小舟賃

第三 保安物ノ爲メニ取設タル小屋掛ケ入費及ヒ番人ノ賃錢

第四 乗組ノ者怪我人有之節其療養入費

第五 同前ノ者溺死スルキ其搜索入費

第六 同前ノ者溺死ノ節埋葬入費

若シ物品賣拂金高諸費ノ高ヨリ少キキハ其高金限り出サシメ不足ノ分及ヒ賣拂フベキモノモ之

レナキキハ第十五條ニ照準シテ處置スヘシ

第十二條 左ニ掲載シタル諸入費ハ之ヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨリ出サシメ其一分ハ之ヲ其管

内民費トナスヘシ

第一 難船取扱中浦役人ノ日給

第二 浦方ニ於テ難破ノ爲メニ費シタル薪炭蠟燭及ヒ筆紙墨代

第三 浦方ヨリ官廳其外等ヘ發シタル電信郵便及ヒ飛脚賃

第四 救助人溺死シタルキ其搜索入費

第五 同前ノ者死傷スルキ治療埋葬入費

第十三條 難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必用品代料又ハ歸郷旅費等ヲ貸遣ハ

シタルキハ證書取置キ第十九條ノ通り精算書中ニ記載シ追テ本人ヨリ償却セシムヘシ

第十四條 大難船ノ節諸費用割賦ノ儀ハ(船体皆破沈没乗組人ノ死去及積荷ノ大損害ノ生シ荷主船主立會決算ヲ要スル等ノモノ)現場ノ救助方ヲ除ク

ノ外各船ノ處置ハ其管廳ニ申立テ其筋出張官員ノ差圖ヲ受クヘシ尤モ小難船ノ處置ハ二名以上

ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上之ヲ決スルヲ得ヘシ

第十五條 船體積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其救助ノ爲メニ許多ノ雜費相

掛リ候トモ船主荷主ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘキ

ニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署押印シ管廳ヘ差出スヘシ

第十六條 危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲メ盡力シテ死傷ニ至ル者アルトキハ

必ス管廳ヘ届出ツヘシ其事實ノ輕重ニヨリ相當ノ賞譽或ハ手當金ヲ給スヘシ

(五一)

第十七條 總テ浦役人及船長合議ノ上處置シタルキハ其事柄ヲ詳細ニ記シタル證書二通ヲ作り之

レニ連署押印シ其一通ヲ船長ヘ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保チ置クヘシ

第十八條 二名以上ノ浦役人合議ノキハ其内一名ハ必テズ他村ヨリ出スヘシ

(六一) 第十九條 難船救助ニ属スル諸費用ハ二名ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上
ナ作リ之ニ難破明細書ヲ添ヘテ管廳ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ

但シ精算取調ノ節ハ成丈ケ船主又ハ荷主ノ立會ヲ要スヘシ

第二十條 前條ノ精算書ハ管廳ニ於テ速カニ調査ヲ遂ケ不審ノ廉無之キハ早速下ケ渡スヘシ然ル
上浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金致サスヘシ若シ其
即時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫スヘシ

但シ民費ノ分ハ其管廳ヨリ取立浦役人へ下渡スヘシ

第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦證文ヲ願出ルキハ二名以上ノ浦役人立會
ノ上船長及ヒ乗組ノ者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日記アルモノハ之レニ照
ラシ各々符合スルキハ浦證文ヲ作リ連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫ヲ以テ管廳へ届出ヘシ

但シ浦證文中左ノ個條ヲ載スヘシ

第一 難破ニ逢ヒタル場所其時日及ヒ風波ノ模様

第二 破損ノ個所

第三 打荷ノ種類個數並他ノ積荷ノ種類

第四 船號及ヒ免狀ノ番號並ニ船主船長ノ本貫苗字名乗組人數

第五 荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫

第六 仕出シ地及ヒ仕向ケ地ノ港名

第七 乗組ノ内死傷有之キハ其本貫苗字名年齢

第二十二條 軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡力シテ救助スベシ且ツ其難破ノ
大小ニ拘ハテズ其旨ヲ直チニ管廳へ報知スベシ

第二十三條 前條ノ救助ニ属スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直チニ受取ルヘシト雖モ總テ
管廳ノ指揮ヲ受クベシ

但シ第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與ヘシ

第二十四條 貢米及ヒ其他ノ官物ヲ積入候船難破ニ及ヒ候節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管
廳へ申立ノ上其指揮ヲ受クベシ

但シ郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所へ郵便行囊ヲ至急引渡スヘシ

第二十五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五十錢ヨリ多カラス十錢ヨリ少ナカラスナル者トス
難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リテ同シカラスト雖モ各管廳ニ於
テ適宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置クベシ

第二十六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スルキハ右損失ヲ其者ヨリ償
却セシムヘシ若シ其災厄人智ノ前知スヘカラス人力ノ豫防スヘカラスナルニ出ルコト瞭然明證ス
ルトキハ此限ニ在ラズ

第二十七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没ト偽リ窃ニ賣買スル者
ハ律ニ照シテ處分ス可シ

(七一) 第二十八條 凡テ難船ノ節救助ニ託シテ積荷船具其他ノ物品ヲ窃盜或ハ掠奪スル者又ハ其窃盜掠
奪ニ與スル者又ハ其本犯ヲ隱匿スル者又ハ窃盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照ラシテ處分ス
ヘシ

以下漂着ノ部

第二十九條

凡ソ原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキ漂着船ヲ見附ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知スヘシ浦役人ハ其調書ヲ作り之ヲ其管廳ヘ届出ヘシ

(八一)

第三十條

乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ精細ニ書記シ漂着物ハ其品名個數等精細ニ書記ルシ其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及ヒ船政所ヘ六十日間張出スヘシ尤モ漂着物ノ代價二十圓以上ト思量シ或ハ二十圓以下タリモ必要ノ品柄ト思量スルキハ其管廳ヨリ三府五港ノ管廳及ヒ税關ヘ報告シテ張出ヲ爲シ或ハ新聞紙ニ載セテ公告スヘシ

第三十一條

漂着物ノ持主知レタルトキハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分一ヲ取揚主ニ與ヘ其現品ハ持主ニ返還スル事

但シ持主ノ情願ニヨリ現品賣拂ヒ其代金ニテ受取ルヲ得ヘシ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主ニ與ヘ一半ハ官ニ收ル事

但シ三ケ年以内ニ其持主知レタルトキハ官ニ收メシ部分ハ下戻スヘシ

第三十二條

乗組人無之漂着船ノ持主知レタルキハ左ノ區別ニ循ヒ處置スヘシ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ十分ノ一ヲ見附主ニ與ヘ其船ハ持主ニ返還スル事

但書ハ前條第一項ニ同シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分ノ一ヲ見附主ニ與ヘ其餘ノ二分ハ官ニ收ムル事

但書ハ前條第二項ニ同シ

第三十三條 前二條ニ記スル場合ニ於テハ律例得遺失物ノ條ト抵觸スルヲナカル可シ

第三十四條

凡ソ漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條ニ照シ浦役人ノ與印シタル証書ヲ以テ代價ノ全部中ヨク之ヲ償却スヘシ

第三十五條

洋中ニ於テ難破イタシ桅樁其他ノ船具ニ取附キ海岸ニ漂着致シ候者有之節ハ浦役人ヨリ一通リ取調ヘ相當ノ保護ヲ加ヘ置キ直チニ管廳ニ届出其指揮ヲ受ク可シ尤モ本人歸郷ノ旅費其他ノ手當等貸遣ハシ候節ハ第十三條ノ通り追テ本人ヨリ償却セシムヘシ

第三十六條

凡ソ漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルヲナク其物品ヲ私カニ使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照シテ處分スヘシ

第三十七條

暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚クルキハ此規則は第十九條以下ニ照準シ其代價十分ノ一ニ過キサル取揚料ヲ遣ハスヘシ(明治十年三月第二十九號布告ニテ改正セラル)

第三十八條

前條ノ場合ニ於テ取揚タル材木巨大ニシテ領置ニ不便ナルモノハ官之ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト看做シ材主ノ有無ニ從ヒ處分スヘシ(明治十一年十月第三十二號布告ニテ追加セラル)

外國形日本船輸出入税未納内外貨物回漕規則

外國形日本船輸出入税未納内外貨物回漕規則 明治八年三月 第二十號布告

外國形日本船輸出入税未納内外貨物回漕規則

外國形日本船輸出入税未納内外貨物回漕規則 明治八年三月 第二十號布告

(別冊)

外國形日本船輸出入税未納内外貨物回漕規則

第一條

日本郵船會社其他日本船ニテ日本沿海廻漕免許ヲ得タル外國形船舶ニ限リ自今國內各開港場間ニ輸入税未納ノ外國貨物並ニ貨主外國人ニテ輸出税未納ノ內國貨物廻漕差許候就テハ從來内外交渉密賣買ノ儀ハ嚴禁ノ處尙ホ右ニ類スル所業有之候テハ不相濟儀ニ付廻漕規則ヲ設クルヲ左ノ如シ

第二條 凡ソ外國形ノ日本船舶ハ都テ出入港手數並ニ諸貨物船積船卸共各開港場ニ於テハ税關ノ所轄トス

(九一)

第一條

凡ソ外國形ノ日本船舶ハ都テ出入港手數並ニ諸貨物船積船卸共各開港場ニ於テハ税關ノ所轄トス

第三條 前條ノ船滯港中ハ稅關ヨリ監吏乗勤スヘシ

(〇二)

第四條 前條ノ船貨物ヲ船積シ或ハ船卸スルハ日出ヨリ日没マテニ限ルヘシ若シ夜中竊ニ貨物ヲ積卸スルハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

但日没ヨリ日出マテハ船中ノ艙口ヲ固封シ置クヘシ若シ勝手ニ開封スルハ其船長或ハ其會社ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第五條 甲港ヨリ乙港ニ廻漕スル前條ノ船ニ未納稅内外貨物ヲ積入レ乙港ニ輸送セント欲スルハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書(各稅關ニ用フル積送差出書式)ニ貨物ノ品種個數記號番號元價等詳細相認メ積送ノ儀稅關へ願出貨物檢査濟ノ上積送免狀ヲ受ケ積入ルヘシ若シ此手數ヲ經スシテ積入ルハ其現品ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タル者ハ必ス右免狀ヲ點視シ之レニ照ラシテ其品ヲ積入ルヘシ若シ無免狀ノ貨物ヲ船積セハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長へ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ

第六條 甲港ニ碇泊スル外國船ヨリ都合ニヨリ直チニ貨物ヲ船移シ乙港ニ積送ラント欲スルトキハ其貨主或ハ其引受人ヨリ船移廻漕ノ差出書(各稅關ニ用フル船移書式)ニ貨物ノ品種個數記號番號等詳細相認メ船移ノ儀稅關へ願出右免狀ヲ受ケ船移スヘキ儀ナレハ其船長或ハ會社タル者ハ右免狀ヲ點視シ之レニ照ラシテ其品ヲ船移スヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スルハ其現品ヲ沒收シ且ツ其品價同額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第七條 前條ノ船船ヨリ輸出稅未納內國貨物ヲ外國船へ積移スルコトヲ許サス若シ密ニ之ヲ船移シ又ハ船移セント謀テハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收シ且其會社或ハ其船長ニ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ

第八條 前條ノ船貨物積入レ甲港ヲ出港セント欲スルハ其船長或ハ其會社ヨリ第一號ノ如ク積

送貨物ノ總目錄二枚(一枚ハ甲港稅關へ送キ一枚ハ乙港稅關へ送ス)ヲ認メ稅關へ差出シ出港免狀ヲ受ケ出港スヘシ若シ此手數ヲ經スシテ出港スルハ總目錄ニ記載スヘキ品價同額ヲ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

但シ汽船ハ出港前一時帆船ハ出港前二十四時ヲ隔テ、此手數ヲ爲スヘシ

第九條 前條ノ船甲港ヨリ乙港ニ通港中風順ニヨリ不開港場へ入津スルモ輸入稅未納ノ外國貨物或ハ貨主外國人ニシテ內國品ヲ船卸スヘカラス若シ船卸スルハ密商スルト否トヲ問ハス其現品ヲ沒收シ且其品價同額及ヒ金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第十條 前條ノ船乙港ニ入港セハ其稅關へ第二號書式ノ如ク未納稅内外貨物ノ輸入總目錄一通ヲ差出スヘシ尤モ此手數ハ入港下碇後休日ヲ除キ四十八時間ニ爲スヘシ此時間ヲ過ルハ一日毎ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第十一條 前條ノ輸入貨物總目錄中若シ誤脱アルヲ覺知セハ休日ヲ除キ二十四時間ニ更正スルコトヲ得ヘシ若シ此期限ヲ過キ更正スルハ金十五圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第十二條 前條ノ輸入貨物總目錄ヲ甲港ヨリ既ニ廻達アラシ積送貨物總目錄ニ照會シ過不足アルハ其事由ヲ糾明シ條理判然セサルハ不足ノ貨物ハ甲乙兩港間ニ於テ密商セシ者ト看做シ其品物同價ノ金額并ニ金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ若シ貨物過ナルハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ヲ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

(一ニ) 第十三條 前條ノ船入港手數ノ上未納稅内外貨物ヲ陸揚スルハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書(各稅關ニ用フル輸入書式)ニ貨物ノ品種個數記號番號元價等詳細相認メ陸揚ノ儀稅關へ願出貨物檢査濟ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸セハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タルモノハ右免狀ヲ點視シ之ニ照ラシテ其品ヲ船卸スヘシ若シ無免

(二二)

狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸シ若シクハ船卸セント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長ヘ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ

但外國貨物ハ輸入税上納ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ

第十四條 前條ノ船舶便利ニ依リ此規則ニ關係スル貨物ヲ互ニ船移スルキハ稅關ヘ願出免許ヲ受クヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スルキハ其現品ヲ沒收シ且ツ其品價同額ヲ罰金トシテ雙方ノ船長或ハ雙方ノ會社ニ課スヘシ

第十五條 各港稅關ハ祝日祭日及ヒ日曜日ヲ除クノ外毎日午前十時ニ開キ午後四時ニ閉ス可シ故ニ此規則ニ揭示シタル時限ト稅關ノ開閉時限トヲ計リ以テ其期限ヲ愆ルヘカラス

第十六條 此他會社或ハ船長タル者貨主又ハ代人ニ與スルト否トヲ問ハス故ラニ税金ヲ脱セント謀リ若クハ其他諸般ノ方畧ヲ以テ脫稅ヲ謀ル者アレハ金一千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ課スヘシ若シ其事過失ニ出テ犯則ニ涉ル者アレハ此規則ニ照ラシテ罰スヘシ

第十七條 總テ事犯則ニ涉ル者其二犯俱發スル者ハ重キニ就テ處分スヘシ

第十八條 若シ此規則ヲ變更スルコトアレハ一ケ月前之ヲ布告スヘシ

外國船乘込規則 明治九年三月三十號布告

外國船ニ乘込旅行セントスル者取締ノタメ左ノ通規則相定候條此旨布告候事

外國船乘込規則

第一條 外國船ニ乘込旅行セントスル者ハ出船當日或ハ一日前其屬籍住所姓名及ヒ何國人所持船何號ニ乘込何港迄赴ク旨ヲ具シタル届書ヲ其出船スル地ノ廳ニ差出シ乘船證書ヲ受クヘシ

第二條 乘船證書ハ一人一枚タルヘシ

第三條 乘船證書ヲ受取ルニハ一枚ニ付手数料トシテ金十錢ヲ納ムヘシ (九年第六十一號ニテ金二十五錢ヲ金十錢ト改正セラル)

第四條 乘船證書ハ每人親ヲ出願シテ受取ルヘシ代人ヲ以テスルヲ許サス

第五條 乘船證書ハ着港上陸ノ上其地警察官吏ニ返付スヘシ其途中一時上陸例ヘハ橫濱港ヨリ長崎港ニ碇シタル時便ノ爲メ時上陸スル者ハ其地臨檢警察官吏ニ其證書ノ檢閱ヲ受クヘシ

第六條 乘船證書ハ一度ノ出船ニ用フルモノトス故ニ途中ヨリ上陸スル歟又ハ事故アリテ乘込ヲ止メ更ニ他ノ船ニ乘込カ又ハ同船タリトモ他日航海ノ便ニ乘込ム時ハ最初受取タル證書ハ其出船スル地ノ廳ニ納メテ更ニ證書ヲ受取ルヘシ

第七條 乘船證書ヲ所持セスシテ乘船シタル者ハ上陸ノ節違式ニ照ラシテ處分スヘシ

第八條 開港場アル地方廳ニ於テハ外國船ニ乘込ントスルノ届書ヲ差出ス者アル時ハ第一條第四條ノ手續ニ相違ナキヤヲ檢閱シ別紙雛形ノ證書ヲ直ニ本人ニ相渡シ手数料ヲ領収スヘシ

第九條 右地方廳ハ兼テ船場ノ要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港毎ニ若干員ヲ臨檢セシメ内國人ノ乘船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々檢閱シ若シ證書ヲ所持セサル歟又ハ其證書最前ノ出船ニ請取リタルヲ其儘再用シタル歟ヲ視認メタル時ハ詳カニ其所由ヲ取糺シ證書所持セサルモノハ乘船證書ヲ受取ル手續ヲナサシメ或ハ其乘込ミヲ止ム證書ヲ再用スル者ハ違式ニ照シテ處分スヘシ

第十條 警察官吏乘船證書ヲ臨檢シ着港上陸者ノ分ハ之ヲ領収シ一時途中上陸者ノ分ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

(三二)

火藥取締規則 明治十七年十二月三十一號布告

火藥取締規則別冊ノ通制定ス

但從前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

(四二)

(別冊)

火藥取締規則

第一章 總則

第一條 凡火藥劇發火藥棉火藥 ナイトログリセリン、ダイナマイト、雷汞、其他劇發火藥ノ物品ハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但烟火マツ
チノ類ハ此限ニアラス

第二條 火藥類火藥劇發火藥、雷汞、其他劇發火藥ノ物品ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳東京府ハニ願出免許鑑札ヲ受ク可シ
但營業者ハ一管内二十五人以内トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限リ陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條 管轄廳東京府ハニ於テ火藥類ノ検査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官
チシテ之ヲ検査セシムルコトアル可シ

第五條 戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥類ノ拂下ヲ停止シ内務卿ハ其賣買運搬ヲ
停止スルコトアル可シ

第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非ザレハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可ラス

第二章 賣買

第七條 營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ證書アレハニ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届
出ヘシ

第八條 營業者ニ非シテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其
賣渡證書ヲ取り置ク可シ

第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限リ火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス
但十六歳未満若クハ白痴瘋癲ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス

第十條 火藥類ヲ買受ケントスル時銃獵若クハ烟花製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示
シ銃砲用ノ爲ニスル者ハ所轄警察署ノ許可証ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用ニ供
スル者ハ其省ノ許可証ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工其他職業用ニ供スル者ハ其旨趣及種類
數量并使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可証ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ
超ルコトヲ許サス(十九年勅令第六十七號ニ
テ本條各項改正セラル)

小銃用 火藥 三百目 雷管 五百個

船舶設備銃砲用 大砲一門ニ付 火藥五十發分 導火管類 七十個
小銃一挺ニ付 火藥百發分 雷管 百五十個

烟火製造用 火藥 五貫目

坑業土工其他職業用 火藥 二百貫目
劇發火藥 三十貫目

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量並使用ノ場所等ヲ詳記シタル書面
ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ直ニ陸海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ受クルコ
トヲ得

(第十條) 火藥類ヲ買受ケントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者
ニ示シ銃砲用ノ爲ニスル者ハ所轄警察署ノ許可証ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ
射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可証ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコ
トヲ許サス

(五二)

小銃用 火藥三百目 雷管 五百個
船舶設備銃砲用 大砲一門ニ付 火藥 五十發分 導火管類 七十個
小銃一挺ニ付 火藥 百發分 雷管 百五十個

烟火製造用 火藥 五貫目

坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ヲ買受ケントスル者ハ其旨趣及種類數量並ニ使用ノ場
所ヲ記シ所轄警察署ノ許可証ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ

第十一條 營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可証ヲ受取リ火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數
量ヲ超ルコトヲ許サス

第十二條 營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ
翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第三章 貯藏

第十三條 火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得
營業者ハ前項制限ノ外火藥十貫目劇發火藥一貫目雷管導火管類一万个迄烟火製造人ハ火藥五貫
目劇發火藥五百目迄ハ管轄廳東京府ハノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

第十四條 火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ
第十五條 火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置並ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ添ヘ管轄廳東京府ハ

第十六條 火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス
第十七條 火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱汽船ノ通スヘキ河
湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ

第十八條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵釘石瓦ヲ露ハ
ズ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ二間以上ヲ隔テ、高サ六尺

第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材本草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可ラス又五十間以内ニ於テ
火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦葺ノ傳送管ヲ施シ若クハ發火質ノ物品ヲ蓄積ス可カス

第二十條 坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスル者ハ第十
七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳東京府ハニ願出許可ヲ受ヘシ但第十條制限以
上ノ火藥類ヲ貯藏セントスルモノニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ其距離ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 烟火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ又五貫目以
上ノ火藥類ヲ置ク可ラス

第四章 運搬

第二十二條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及水陸通路ノ
名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可証ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬畢ラハ直ニ之ヲ返納ス可シ若シ其警察署

管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ

第二十三條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鐵釘鉄輪ヲ用ヒサル木製銅製若クハ亞鉛製ノ器
ニ入レ其外部ハ筵包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小

旗陸路ニハ曲尺縱二尺廣二尺五寸水路
ノ小船ニテ曲尺縱三尺五寸廣五尺ヲ建テ護送人ヲ附ス可シ但船積スル時ハ明治六年八月第二十九十二
號布告危害品船積法ニ從フ可シ

第二十四條 火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ看守人ヲ附ス可
シ

(七二)

シ

第五章 罰則

(八二)

第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタルモノハ軍用品ニアラスト雖モ刑法第五百十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第六十條ヲ適用ス

第二十六條 刑法第五百五十八條第五百五十九條第六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第四條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 營業者此ノ規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

●菓子稅則 明治十八年五月 第十一號布告

菓子稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セス

(別紙)

菓子稅則

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人 菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子卸賣人 菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子小賣人 菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條 菓子營業者ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料 一枚ニ付金二十錢

仕入鑑札料 一枚ニ付金十錢

出賣鑑札料 一枚ニ付金十錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓

(九二)

(〇三)

雇人二人アル者 一箇年 金五圓(二十一年勅令第八號ニテ八ノ下以下ノ二字ヲ削除)

雇人一人アル者 一箇年 金三圓(二十一年勅令第八號ニテ本項ヲ追加)

雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

卸賣營業稅

雇人十八以上アル者 一箇年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓

雇人二人アル者 一箇年 金五圓(二十一年勅令第八號ニテ八ノ下以下ノ二字ヲ削除)

雇人一人アル者 一箇年 金三圓(二十一年勅令第八號ニテ本項ヲ追加)

雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者 一箇年 金七圓

雇人二人アル者 一箇年 金三圓(二十一年勅令第八號ニテ八ノ下以下ノ二字ヲ削除)

雇人一人アル者 一箇年 金貳圓(二十一年勅令第八號ニテ本項ヲ追加)

雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ分タス之ヲ台算スルモノトス露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半分ハ其年一月一日後半分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者

ハ其營業鑑札ヲ受クル時ノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムヘシ

第一期 一月一日ヨリ六月三十日 日迄賣上金高ニ係ル分 其年八月三十一日限

第二期 七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年二月二十八日限

第十二條 菓子製造者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ヘシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラズ

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條 菓子製造稅額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム(二十一年勅令第八號ニテ改正セラル)

第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十六條 (二十一年勅令第八號ニテ削除セラル)

第十七條 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰

(一三)

第十八條 第十二條第十三條ノ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シ又ハ第十五條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(二十一年勅令第八號ニテ改正ス)

第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セズシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借買賣又ハ讓受讓渡シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科

料ニ處ス(二十一年勅令第八號ニテ本條中一及四第十四條ノ)
帳簿ニ記載ヲ怠リタル者ノ文字ヲ削除セラル)

(二三) 第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル者ハ其營業者ヲ處罰ス
明治二十一年勅令第八號ノ改正追加ハ同年七月一日ヨリ施行ス

●藥用阿片賣買并製造規則明治十二年八月
第二十一號布告

明治三年八月布告阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事

但施行ノ時日ハ迨テ内務省ヨリ可相達事

藥用阿片賣買並製造規則

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ其内國產若クハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ

地方廳ヲシテ阿片卸賣特許藥舖ニ之ヲ拂下ケシムヘシ(二十年勅令第五十二號ニ
テ改正但書削除セラル)

第三條 地方廳ヨリ拂下ケル阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ貼付スルモ

ノトス(二十年勅令第五十二號
ニテ改正セラル)

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ量リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ内務省

ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ内務省ニ返納ス可シ

第五條 特許鑑札ヲ受ケタル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告

ス可シ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速カニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受ケタル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置ケ可

シ

第七條 特許ヲ受ケタル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度該地方廳ニ申立テ其拂下ヲ請フ

ヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケヲ請フヲ得(二十年勅令第五十二號
ニテ改正セラル)

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スル者ハ其量目并ニ其住所姓名及ヒ年

月日(病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副長ノ姓名)ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之

ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ユヘカラス

但シ病院及ヒ醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買ス

ルコトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ユヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖并一般藥舖ニ於テ一切之ヲ

賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買人ノ住所姓名並ニ一匁以下賣

捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤モ一匁以下ノ分ハ平常其明細ヲ簿記

シ置キ臨時取調ノ用ニ供ス可シ

但シ管轄廳ハ其一通ヲ内務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必スシモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其

明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

(三三) 第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ

經由シテ内務省ノ免許鑑札ヲ受クベシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由

(四三)

シ内務省ノ買上ケテ願フヘシ右買上ケテ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルヲ許サス
但内務省ニ於テ其品位薬用ニ適セサルモノトスルキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿
片ハ其廳ニ預リ置クヘシ(二十年勅令第五十二號ヲ以テ但書追加ス)

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歳ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト
雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒ子」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條 内務省ニ於テ買上ケ及ヒ拂下ケル阿片ノ「モルヒ子」含量ハ買上ケ品ハ百分中ニ九分以
上拂下ケ品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス

第十六條 此規則ニ違反スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片買上ケ若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ
百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

●檢疫停船規則 明治十二年七月二十九號布告

明治十二年七月二十八號布告海港虎列刺病傳染豫防規則別冊ノ通更正シ檢疫停船規則ト改稱候條
此旨布告候事

(別冊)

檢疫停船規則

第一條 日本政府ハ虎列刺病ノ蔓延ヲ防カンカ爲メ茲ニ左ニ掲ケル規則ヲ開港場ニ施行スルヲ
布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ命スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス

第二條 中央衛生會ニテ決スル處ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ受ケ能ク職任ニ堪ユヘキ日本
又ハ外國醫士化學士及ヒ相當ノ助役ヲ以テ地方檢疫局ヲ設置スヘシ而シテ其局員ノ數ハ其港入
船ノ多寡ニ應シテ増減アルヘシト雖モ檢疫一切ノ事務ヲ速ニ整理スルニ差支ナキヲ以テ足レリ
トスヘシ

都テ此地方檢疫局ハ中央衛生會ノ管轄ニ屬スヘシ

第三條 政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定メ且虎列刺患者ヲ容ルヘキ病
院並ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ病院ヲ建設シ且遺骸ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施行スヘキ場
所並ニ停留セラレタル人ノ爲メ都テ必需ノ具ヲ備ヘタル屋舎ヲ設置スヘシ

第四條 檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前檢査ノ爲メ之ヲ停止シ地
方檢疫局ノ人員少ナクモ二名ヲ派出シテ之ヲ檢査スヘシ但シ右局員ノ内一名ハ必ス醫士タルヘ
シ而シテ船長醫士或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ尋問ニ對シ都テ之ニ應答シ又所定ノ式紙
ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ調印シテ差出スヘシ船長ハ檢疫官吏ノ求ニ應シ船内
ノ各部ヲ開キ檢査ヲ受クヘシ但シ船中船客及ハ乗組人ニテ占居シタルキ又ハ他ノ事故ニ
依テ病毒ニ感染シタル恐アルキハ其檢査ヲ受クヘシ

檢疫官吏ハ該船ノ航海日記ヲ査閱シ乗組人及ヒ船客ノ人名錄ヲ船内現在ノ人員ト引合ハスヲ
得ヘシ

第五條 虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及ヒ其他ノ手續ヲ
以テ該船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラス又有病ノ船舶若クハ其疑アルモノト直チニ交通セ
ス且航海中眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船内ニ發セシモノ無キ旨ヲ證明シテ檢疫官吏ヲ満足セ
シムルキハ該船ハ直チニ入港スルヲ得ヘシ

(五三)

第六條 船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタル者ナシト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ
テ該艦ハ檢査ヲ經ス入港スルヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サ、ルキハ檢疫停船規則ニ從
フヘシ

第六條 船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタル者ナシト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ

來ルカ又ハ其航海中直ニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内ノ人員ハ其港ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル港ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期滿シテ迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルモ差支ナキヲ認ムルモ此限ニアラス
右七日ノ期該船來着ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルモハ消毒法ヲ行ヒシ上速カニ船客ノ上陸ヲ許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ殊ニ危険ナリト見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘシ

消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速カニ陸揚スルヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルモハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港前七日以內艦内ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸セシヲナク又ハ病毒感染ノ恐レナク且航海中艦内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發セシヲナキ旨ヲ明告スルモ直ニ入港スルヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サ、ルモ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ

第八條 船舶來港ノ上其艦内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルモハ檢疫官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ

船舶來港前病毒消滅シテ而シテ檢疫官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ

消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルモハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル程消毒法ヲ反覆施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日以上アルモハ最初定メタル時限ニ違スル迄停船セシムヘシ

患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第九條 前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來着スルニ方リ其乗組ノ患者未タ癒エサレハ其容體ニ依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ已ニ死シテ遺體ノ處置未タ濟マサルモハ其爲メニ設ケタル場所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬スヘシ患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニテモ病毒感染ノ恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用ノ人ト船中ヲ取締ル可キ人トノ外都テ船内ノ人員ハ其人ノ爲メ特ニ設クル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行フヘシ船内ニ殘リタル人員ハ船内ニテ消毒法ヲ受クルカ又ハ交代シテ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十條 有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫處置ヲ受ケサル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スヘシ

第十一條 定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ着港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルヲ得ヘシ而シテ政府ハ右ノ郵便物ヲ運送配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設クヘシ

第十二條 病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必要品ヲ受クルヲ得ヘシ
病院或ハ停泊ノ船内ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫局ニ於テ定メタル方法ニ從フヘシ

(七三)
避病院ニ關係ナキモ醫業ニ達シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請ニ由テ診察協議スルヲ得ヘシ

(八三)

患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルヲ得ズ

第十三條 船中ニ於テ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スルヲナキキハ停留セラレタル人ヲ船中ニ停メ置クヲ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衛生上ノ見込ニ從ヒ特ニ陸地ニ設ケアル避病ノ場所ニ移サル、トアルヘシ

第十四條 檢疫停船規則施行ノ港ニ來着スル船舶ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎列刺ノ源因ナラント思考スル疑似ノ病徵ヲ發スル者アルキハ其患者ハ病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士ニ於テ其病症ヲ診斷スルニ充分ノ時間ヲ終ル迄停留セシムヘシ但其時間ハ四十八時ニ過クヘカラス而シテ地方檢疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ内其場合ニ適スル條款ヲ實施スヘシ

第十五條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中ニ檢疫所ノ設ケアル無病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ検査ヲ經且ツ必要ト認メタル消毒法ヲ行ヒ船用品或ハ貨物ヲ積入ル、毎ニ地方檢疫局ヨリ指示スル方法ニ從フヘシ

又該船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルキハ該船又ハ其乗込人及ヒ物品ヲ處置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但シ該船内ヨリ上陸スル者アルキハ他船ニテ到着シタル人ニ行フヘキ同一ノ處置ヲ爲スヘシ

第十六條 船舶ノ検査ハ其來着後成ルヘク速カニ施行スヘシ若シ來着後十二時間ヲ過キテ検査ヲ爲サ、ルキハ入港スルヲ得ヘシ但シ其遲延天氣惡キカ爲メカ又ハ避ケ難キ事情アルカ爲メカ又ハ船長若クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐偽ニ出ツルカノキハ此限ニ在ラス其場合ニ於テハ其遲延シタルノ事故終リタルキ検査ヲ爲スヘシ

第十七條 地方檢疫局ヨリ指圖シタル消毒法ハ檢疫官吏之ヲ施行シ其船ノ士官及ヒ船員之ヲ補助スヘシ但消毒法ハ之ヲ命シタル時ヨリ成ルヘク二十四時間ニ完了シ而シテ其入費ハ船主又ハ其責アル者ヨリ辨償スヘシ

第十八條 檢疫停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發シタル船舶ハ直ニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘシ
然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タルキハ檢疫官ハ地方檢疫局ニテ必要ト考斷スル丈ケノミノ消毒及ヒ検査ノ方法ヲ反覆施行スヘシ

第十九條 虎列刺病既ニ流行スル港内ニ來着スル船舶検査消毒法患者及ヒ死者ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシ右ヲ施行スル爲メノ豫備ハ政府ニ於テ爲スヘシト雖モ船及ヒ人員停留ノ規則ハ休止スヘシ

第二十條 第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ景狀地方檢疫局ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危險ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルキハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施スヲ得ヘシ其場合ニ當リテ地方檢疫局ハ直ニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ寫ハ請求ニ依リテ地方檢疫局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用途ニ付與スヘシ

第二十一條 検査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ナクシテ往クヲ許サズ

第二十二條 前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠クヘカラサル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨償スヘシ
第二十三條 此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ム者ハ犯ス毎ニ二百圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用途又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ムキハ每犯罰金五百圓ニ至ルマデ増加スルヲアルヘシ
此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ辨償セサルモノアルキハ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ

(九三)

但シ罰金ハ科セサルヘシ

(〇四)

此規則ヲ犯シ停留場ヲ脱去スル者ハ(船又ハ人)罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムヘシ

●富鐵賣買者等處分 明治十五年五月二十五號布告

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富鐵賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及ヒ富鐵ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡富鐵賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富鐵ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトナ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富鐵ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富鐵ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富鐵ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

●虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則 明治十五年六月三十一號布告

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査左ノ通制定ス

第一條 凡ッ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢査官ノ檢査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非サレハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スヘカラス

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ檢査官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フヘシ

但檢査官ニ於テ必要ト認ムルトキハ其船舶ヲ四十八時間以内其指定スル場所ニ碇泊セシメ十分ノ消毒法ヲ施スコトヲ得(ナ八年第二十九號布告ニテ但書追加)

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢査官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシムヘシ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢査官ノ適當ト認ムル場所ニ送致スヘシ其死者ハ若シ緣故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢査官ハ其乗組人船客ニ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分スヘシ

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定スヘシ

(一四)

●古物商取締條例 明治十六年十二月二十五號布告
古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス

(別冊)

古物商取締條例

(二四)

第一條 古物商トハ古道具、古本、古書畫、古着、古銅鐵、鍍金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ袋物屋小間物屋籠甲屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタル時ハ警察官ニ於テ其ノ物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓主ヲ詳ニスルヲ得タル時ハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタル時ハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴瘋癲者及ヒ雇人(雇主ノ家ニアル者)ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其證人タル時ハ此限ニアラス官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキヲ證明スル證人二名以上アルニ非テサレハ之ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ無代價ニテ物品ヲ取戻サルコトアルヘシ

第六條 古物商ハ營業者タルト否トテ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居室ノ外ニ於テ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込タル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取りタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ檢査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届人ノ之ヲ擔當スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルキト若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタル時ハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若シ届出スシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二百圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商

(三四)

ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ
一物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形狀(徽章番號編

(四四)

柄摸様損所ノ類ヲ云フ價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二日出前日没後ハ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルヲ得ス

三營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出し其檢査ヲ受クヘシ

六住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直ニ之ヲ完納セシム若シ完納セサル者ハ留置セラル、コアルヘシ

第十九條 古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取り又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トナ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徵シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ預置シテ一年ノ後官沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事(東京府ヲ除ク)縣令ニ於テ便宜取設

ケ内務卿ニ届出ツヘシ

●戶籍法明治十九年九月
内務省令第十九号

明治四年四月四日布告戶籍法第五則出生死去出入等届出方及明治五年正第四號布告第八項寄留者

届出方左ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

戶籍法

第一條 出產アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第二條 死者アリタルトキハ埋葬以前ニ届出ヘシ

第三條 失踪者復歸シ又ハ其行方知レタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第四條 廢戶主療病改名往復身分變換其他願濟ノ上戶籍ニ登記スヘキ事項ハ其許可ノ指令ヲ受領シタル日ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第五條 前數條ニ記載シタル事項ハ戶主ヨリ届出ヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ親族二人以上又ハ其事ニ關係アル者ヨリ本籍地戶長ニ届出ヘシ但本籍地外ニアルトキハ現在地戶長ニ届出且同時ニ本籍地戶長ヘ届書ヲ發送スヘシ

第六條 他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ他人ノ所有地若クハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戶長ニ届出且同時ニ本籍地戶長ヘ届書ヲ發送スヘシ

第七條 寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ其他ニ於テハ地主又ハ家主義ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戶長ニ届出ヘシ

第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戶主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第九條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

(五四)

●度量衡改定規則 明治九年二月
第十七号布告

度量衡三器別紙種類表ノ通改定候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事

(六四)
(別紙)

度量衡改定規則

第一條 三器改定ニ付各地方ニ三器製作所並ニ賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發買爲致從前ノ升座秤座ハ同日ヨリ廢止候事

第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月廿五日マテニ右改所へ差出シ檢査ヲ請クヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察スヘキ事

但シ改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ

第三條 製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事

但シ尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ目盛致シ升ハ半鳥半等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

第四條 尺度秤量ノ目ヲ盛直シ升ノ緣鐵弦鐵ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所へ差出スヘク秤量ノ緒紐ヲ附ケ替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候義不相成候事

第五條 舊新器共檢印アルヲ賣捌度者ハ必ス賣捌所ニ可差出事

但シ秤ノ錘皿又ハ升ノ緣鐵弦鐵等ヲ取離シ古鐵トシテ賣買スルハ苦シカラス

第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキ事

●登記法 明治十九年八月
法律第一號

朕登記法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登記法

第一章 總則

第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ヲ爲ス者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ登記所ニ登記ヲ請フ可シ

己ニ登記ヲ受ケタル地所建物船舶ニ變更ヲ生シ又ハ亡失破壞シタルトキハ其物件ノ所有者ヨリ登記ノ變更又ハ取消ヲ請フ可シ (二十年七月法律第一號ニテ本條改正ス)

第二條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ハ始審裁判所長之ヲ監督ス可シ

第三條 登記事務ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス治安裁判所遠隔ノ地方ニ於テハ郡區役所其他司法大臣指定スル所ニ於テ之ヲ取扱ハシム

第四條 登記所ノ位置及其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム

第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス

第六條 登記簿ニ登記ヲ爲サル地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第七條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ニ付キ登記スヘキ概目左ノ如シ

第一 地所ハ郡區町村名、字、番地、地目、反別若クハ坪數、地券面ノ價格

第二 建物ハ郡區町村名、字、番地、地目、構造ノ種類、建坪造作ノ有無

(七四)
第三 西洋形船舶ハ汽船、風帆船ノ區別、船名、番號、登簿、噸數、公稱馬力、汽機、及汽鐘ノ種類端船其他必用ノ所屬品

- 第四 日本形船舶ノ船名、番號、積石數、間數、端船其他必要ノ所屬品
- 第五 登記ノ理由
- 第六 金額
- 第七 質入書入ハ其期限及利息
- 第八 所有者及登記ヲ受クル者ノ氏名住所
- 第九 一筆ノ地所又ハ一棟ノ建物ヲ區別シ賣買讓與質入書入ヲ爲ストキハ其事實
- 第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ質入ト爲シ質入ニ爲シタルモノヲ書入ト爲ストキハ其事實
- 第十一 登記ノ年月日
- 第八條 登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏直ニ前條ノ概目ヲ審査シテ登記簿ニ登記シ本人ニ之ヲ示シ又ハ讀聞セタル上本人ヲシテ署名捺印セシメ且之ニ署名捺印スヘシ
- 第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差留假差留假處分及地所建物ノ收益差押ニ付テハ裁判所ノ命令書ニ依リ登記簿ニ其記入ヲ爲ス可シ
- 前項ノ記入ハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス
- 第十條 登記ハ第一條第二項第十五條第二項第十六條第十七條及第十八條ヲ除クノ外契約者雙方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス(二十年法律第一號ニテ改正ス)
- 第十一條 登記ノ謄本又ハ援書又ハ一覽ヲ要スル者ハ其登記所ニ出頭シテ之ヲ請求スルコトヲ得
- 第十二條 登記官吏ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得
- 第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣之ヲ定ム

第二章 賣買讓與

- 第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ
前項ノ場合ニ於テ其物件質入書入中ニ係ルトキハ買受人讓受人ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ
- 第十五條 家督相續ニ因リ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキハ雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ
死亡者失踪者若クハ離縁戶主ノ遺留シタル地所建物船舶ヲ相續スル者登記ヲ請フトキハ親屬又親屬ナキトキハ近隣ノ戶主二名以上連署ノ書面ヲ差出シ且證明書類アルモノハ之ヲ示ス可シ
- 第十六條 行政官廳ノ公賣處分ニ依リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者登記ヲ請フトキハ落札違書及其代金完納ノ證書ヲ示スヘシ
- 第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登記ヲ請フトキハ其指令ノ本書若クハ違書ヲ示ス可シ
- 第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲シタルトキハ其官廳ハ第七條ノ概目ヲ示シテ登記ヲ求ム可シ
- 第十九條 裁判執行上ノ糶賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者アルトキハ裁判所ノ命令ニ依リ其登記ヲ爲ス可シ
- 第二十條 地所船舶ノ賣買讓與ニ因リ地券鑑札ノ下附若クハ書換ヲ請フ者ハ登記濟ノ證ヲ受シハシ(二十年法律第一號ニテ改正セラル)
- 第三章 質入書入
- 第二十一條 地所建物船舶ノ質入書入ニ付登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ
貸借ノ爲メニ非スシテ義務ヲ果ス可キ保證ノ爲メ地所建物船舶ヲ質入書入ト爲シ其登記ヲ請フ

若モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

(〇五)

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重子テ書入ト爲ストキハ第二債主ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ書入ト爲リタル地所ヲ質入ト爲シ又ハ質入ト爲リタル地所ヲ書入ト爲ストキ亦同シ

第二十三條 質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付キ數個ノ登記ヲ爲ストキハ其登記ヲ請フ日時ノ前後ニ因リ登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

第四章 登記料及手数料

第二十五條 地所建家船舶賣買ノ登記ニ付テハ其買受人左ノ賣買代價ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ヲ納ム可シ

賣買代價

登記料

五圓未滿
五圓以上
十圓未滿
十圓以上
二十五圓未滿
二十五圓以上
五十圓未滿
五十圓以上
百圓未滿
百圓以上
二百圓未滿
二百圓以上
三百圓未滿
三百圓以上
四百圓未滿
四百圓以上

五錢
十錢
二十五錢
一圓
二圓
三圓
四圓

四百圓以上
五百圓未滿
五百圓以上
七百五十圓未滿
七百五十圓以上
千圓未滿
千圓以上
千五百圓未滿
千五百圓以上
二千圓未滿
二千圓以上
五千圓未滿
五千圓以上
一萬圓未滿
一萬圓以上

五圓
六圓
七圓
八圓
九圓
十圓
十二圓

以上五千圓マテ毎二圓ヲ增加ス

第二十六條 地所建物船舶讓與ノ登記ニ付テハ其讓渡人讓受人ニ於テ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其讓受人ヨリ登記料ヲ納ム可シ

第二十七條 地所建物船舶質入書入ノ登記ニ付テハ其質入人書入人ハ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ半額ヲ納ム可シ但一件ニ付キ金五錢ヨリ下スコトヲ得ス

第二十八條 第二十一條第二項ノ登記ニ付テハ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第二十九條 第九條第一項ノ記入ニ付テハ其價格ノ定マリタル物件ハ其價格又其價格ノ定マリサル物件ハ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第三十條 左ニ掲クル者ハ手数料トシテ金五錢ヲ納ム可シ
ヒ每一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納ム可シ但一件ニ付キ金五錢ヨリ下スコトヲ得ス

(一五)

第一 登記事件ノ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ者ハ每一件
第二 登記ノ謄本若クハ拔書ヲ請フ者ハ每一枚

(二五)

第三 登記ノ一覽ヲ請フ者

第三十一條 左ニ掲クルモノハ登記料及手数料ヲ要セス

第一 官廳ノ請求ニ係ル登記

第二 公立ノ學校病院、公園及養育院ニ係ル登記

第三 社寺、堂宇及墳墓地ニ係ル登記

第四 人民共有ノ用惡水路溜池敷、堤敷、井溝敷及公衆ノ用ニ供スル道路ニ係ル登記

第三十二條 登記所ニ於テ第二十五條第二十六條第二十八條第二項及第二十九條ニ從ヒ届出タル

價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其事件ニ關係ナキ者三名ヲ選ビ之ヲ評價人ト爲シテ其價格ヲ評定

セシム可シ

第三十三條 評價人ノ評定シタル價格届出ノ價格ヨリ増加スルトキハ其評價ニ關スル費用ハ其登

記料ヲ納ムル者之ヲ負擔ス可シ若シ其價格届出ノ價格ト同價又ハ低下ナルトキハ該費用ハ其登

記所ニ於テ之ヲ支辨ス可シ

第三十四條 評價人ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十五條 評價人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金二十錢ヨリ五十錢マテヲ給ス可シ

第五章 罰則

第三十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脱シ及之ニ通謀シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ

處ス

第三十七條 本法ニ依リ罰金ニ處スル者ハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

附則

第三十八條 明治十年第二十八號布告船舶賣買書入質手續同十三年第五十二號布告土地賣買讓渡

規則同十四年第三十號布告地券證印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十九條 地所賣買讓與荒地起返開墾歟下年期明等總テ地券下付書換ニ係ル手續及其手数料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十條 登記所ノ登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ登記ヲ請フ物ハ地所建物ハ其所

在地船舶ハ其定繫場ノ戶長ノ證書ヲ以テ其所有者タルコト及其物件ニ故障ナキコトヲ示ス可シ

第四十一條 本法ハ明治二十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●取引所條例 明治二十年五月 勅令第十一號

朕取引所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

取引所條例

第一章 總則

第一條 取引所ハ商業上ノ取引ヲ便利ニシ市價ヲ平準ニシ商業上公正直實ノ風ヲ養成シ商業上ノ

慣習ヲ統一維持シ須要ノ報道ヲ傳播シ及取引所會員ノ間ニ生スル爭論ヲ仲裁スルヲ以テ目的ト

シ商業上便宜必要ノ地方ニ於テ其地方ノ商人農商務大臣ノ特許ヲ得テ設立スルモノトス

第二條 取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ハ重要ノ商品公債證書證券株式等ニシテ創立員又ハ取

引所ノ出願ニ依リ農商務大臣ノ認可シタルモノニ限ル

第三條 取引所ヲ設立スルニハ東京大坂ニ於テハ三十人以上其他ノ地方ニ於テハ十五人以上會員

タルヲ得ヘキ者創立員トナリ地方官廳ヲ經テ農商務大臣ニ願出ヘシ

(三五)

第四條 取引所ハ其賣買取引スヘキ物件ニ就キ之ヲ各部ニ分チ又ハ數物件ヲ合セテ一部トシ農商

務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

(四五)

第五條 取引所ノ創立ニ係ル費用及之ヲ維持スルニ必要ナル費用ハ會員之ヲ負擔スヘシ
取引所ハ前項ノ費用ヲ補充スル爲メ賣買取引ニ就キ相當ノ手数料ヲ領収スルコトヲ得其手数料
ノ割合ハ役員之ヲ議定シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
前項ノ手数料ハ之ヲ分配スルヲ得サルモノトス

第六條 農商務大臣ハ取引所ヲ監督シ地方長官ヲシテ之ヲ監視セシメ其賣買取引法律命令ニ違反
シ或ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ其全部又ハ幾部ヲ停止若クハ禁止シ其賣買取引ニ
關涉シタル役員ヲ罷免シ仲買人ノ營業ヲ停止若クハ禁止シ及會員ヲ一時若クハ永久ニ除名スル
コトヲ得

第七條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ規約ヲ改正セシメ又ハ決議及處分ヲ停止禁止
若クハ取消スコトヲ得

第八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ニ對シ委員ヲ命シ其一般ノ事務ヲ監察シ取引所
ニ關スル法律命令ノ施行ヲ監視シ且其役員ノ集會ヲ整理セシムルコトヲ得

第九條 取引所ハ毎日一定ノ時間ニ於テ商業上ノ集會ヲ開キ其時間外ハ賣買取引ヲ爲スコトヲ許
サス

第十條 本條例施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十一條 取引所ノ賣買取引ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 會員

第十二條 會員タルコトヲ得ル者ハ其取引所所在ノ地ニ居住スル商人ニシテ會員タルノ義務ヲ盡
スコトヲ得ル者ニ限ル會員ニ非サレハ取引所ニ集會シ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 會員タル者ハ身元保證金三百圓以上三千圓以下ヲ差出スコトヲ要ス

第十四條 左ニ掲クル者ハ會員タルコトヲ得ス

- 一 婦女及未丁年者
- 二 公權剝奪若クハ停止中ノ者
- 三 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
- 四 第六條第十五條ニ依リ除名セラレタル者

第十五條 會員ニシテ不當ノ舉動ヲ爲シ爲メニ取引所内ニ於テ紛擾爭論ヲ醸スカ法律命令及規約
ニ違反シタル不正ノ契約ヲ爲スカ又ハ故意ニ其商業上ノ責任ヲ果サ、ルトキハ役員ノ決議ヲ以
テ百圓以内ノ過怠金ヲ科シ一時若クハ永久ニ之ヲ除名スルコトヲ得

第三章 役員

第十六條 取引所ニ役員ヲ置クコト左ノ如シ

- 一 理事長
- 一 常置委員

第十七條 役員ハ一箇年ヲ以テ任期トシ會員中ヨリ投票ヲ以テ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘ
シ但理事長及理事ハ會員ノ決議ニ由リ會員外ヨリ撰舉スルコトヲ得役員任期中ト雖モ其職務ヲ
盡サ、ルカ又ハ不正ノ所爲アルトキハ會員ノ決議ヲ以テ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ退職セシムル
コトヲ得

(五五)

第十八條 理事長及理事ハ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サス

第十九條 役員ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經其業務ニ關シ規約ヲ定ムルコト

ヲ得

第四章 仲買人

(六五)

第二十條 取引所ニ仲買人ヲ置ク仲買人ハ他人ノ委託ニ由リ賣買取引ヲ爲スヲ以テ業トシ自己ノ爲メニ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 仲買人ノ營業ハ一部ニ限リ數部ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第二十二條 仲買人ヲラント欲スル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ受ケタルトキハ免許料金五十圓ヲ納ムヘシ

第二十三條 仲買人タルヘキ者ハ會員ニシテ營業保證金一千圓以上二萬圓以下ヲ差出スコトヲ要ス
第二十條 仲買人ニシテ第十五條ニ掲グル所爲アルトキハ役員ノ決議ヲ以テ二百圓以内ノ過怠金ヲ科シ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトヲ得但營業ヲ禁止スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條 仲買人自ラ取引所ノ賣買取引ニ從事スヘシ代理人又ハ手代ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十六條 仲買人口錢ノ額ハ役員會議ニ於テ議決シ農商務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

第五章 賣買取引

第二十七條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ直取引及定期取引ノ二様トス其方法ハ農商務省令及取引所ノ規約ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニヨリ農商務大臣ハ取引所外ニ於テ取引所ノ賣買取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スヲ禁止スルコトヲ得

第二十九條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ヲ以テ公定相場トス

第六章 仲裁

第三十條 取引所ニ於テ爲シタル賣買取引ニ關シ爭論ヲ生スルトキハ役員ニ申告シテ仲裁ヲ受クヘシ但代言人ヲ出スコトヲ得ス

第三十一條 前條ノ場合ニ於テハ常置委員ノ多數決ヲ以テ其爭論ヲ仲裁スヘシ

第三十二條 法律上ノ見解ニ關スルモノヲ除クノ外前條ノ仲裁ニ對シテ裁判所ニ上訴スルコトヲ得ス

第七章 罰則

第三十三條 第五條第三項第九條第十八條第二十條及第二十五條ヲ犯シ又ハ第二十七條ニ依リ農商務省令ヲ以テ定メタル賣買取引法ニ違ヒ賣買取引ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十八條ニ依リ農商務大臣ノ禁止シタル賣買取引ヲ爲シ又ハ第二十九條ノ公定相場ヲ偽リタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本條例ハ明治二十年九月一日ヨリ施行ス但米商會所條例及株式取引所條例ハ米商會所及株式取引所ノ營業滿期ヲ待ツテ廢止スルモノトス

●鳥獸獵規則 明治十年一月 第十一號布告

鳥獸獵規則別紙ノ通改正候條此旨布告候事

(別紙)

鳥獸獵規則

(七五)

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノ爲メニスルヲ遊獵トス

第二條 銃獵免狀ナキ者ハ總テ銃獵スルヲ禁ス但有害ノ鳥獸ヲ除クカ爲メニハ地方官ノ便宜ヲ以

ヲ臨時ノ免許ヲ與フヘシ

(八五) 第三條 銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名年齢ヲ詳記シ東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳ニ差出スヘシ

第四條 免狀ハ其効一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若クハ授受スルヲ禁ス

第五條 免狀ヲ願受クル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムヘシ

一 職獵稅

金壹圓

一 遊獵稅

金拾圓

第六條 水火盜難其他ノ事故ニ依リ免狀ヲ毀失スル時ハ速カニ東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳ニ届出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受ル者ハ更ニ税金ヲ納ムルニ及ハスト雖モ手数料トシテ金二十五錢ヲ納ムヘシ

第七條 左ニ記列シタル者ニハ免狀付與セサルヘシ

一 十六歳未滿ノ者

一 白痴瘋癲等ノ者

一 故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者

第八條 左ニ記列シタル場所ニ於テハ銃獵ヲ爲スヲ禁ス

一 都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所

一 銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所

一 禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃ニ挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ
一 作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ構内

但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第九條 獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ルヘシ軍銃ヲ用フルヲ禁ス

但開拓使管内ニ限リ和銃玉目十匁以下ヲ用フルヲ得ヘシ(明治十年第八十五号 布告ニテ但書追加ス)

第十條 銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期トス是時限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景况ニ依リ己ムヲ得ス此期限ヲ伸縮スルハ其理由ヲ農商務省ヘ届出ヘシ

第十一條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第十二條 凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ携帶スヘシ出獵中警察官吏區戸長村役人等免狀ヲ看シト請フ者アルハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスルハ第八條所示ノ如キ制札ヲ立テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲ爲スヘシ

第十四條 凡テ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科スヘシ

第十五條 銃獵ヲ生業トスル者ニアラスシテ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵スル者ハ五十圓ノ罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期內銃獵ヲ禁スヘシ

第十六條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ證據ヲ取り訴出ルハ犯人罰金ノ半ヲ賞トシテ與フヘシ

第十七條 第十四條第十五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナカラス二十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第十八條 開拓使管内ニ入り鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ規則ニ遵フヘシ(明治十年十二月第八十五号 布告ニテ本條追加ス)

● 徵發令 明治十五年八月 第四十三号 布告

徵發令別冊ノ通制定ス

(九五)

(別冊)

徵發令

(〇六)

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但シ平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官

二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長

三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官長官艦隊司令官分遣艦隊長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發スヘキモノノ種類ニ依リ徵發區(會社モ之ニ准ス)ヲ定ムルヲ左ノ加シ

一 第十二條第一項ハ 府縣

二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區

三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ 町村

四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ汽車ハ 會社

第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付スヘシ

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルヲナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應スヘキ便宜ノ方法ヲ豫定スヘキモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フヲナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フモハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルモハ直ニ之ヲ使用スルヲ不得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證書ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發スヘキモノノ左ノ如シ

一 米麥秣藜鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭

二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具

三 人夫

四 宿舍庭園及ヒ倉庫

五 飲水石炭

六 船舶

七 鐵道汽車

八 演習ニ要スル地所

九 演習ニ要スル材料器具

第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲グルモノノ外徵發スヘキモノノ左ノ加シ

但シ平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルヲ不得

一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具

(一六)

- 二 職工礦夫洗濯人ノ類
- 三 被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ繙帶具
- 四 水車搗杵ノ類
- 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受クヘキモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル廨署
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及ヒ其所属館
- 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
- 五 陸海軍將校並ニ同等官現住ノ家屋
- 六 博物館書籍館
- 七 病院盲啞院棄兒院
- 八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
- 九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條 第十三條第二項ニ掲グル者ハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ存ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルヲアルヘシ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルヲ許サス廨園倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍廨園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給スヘシ但シ駐軍三日以上ニ至ルモハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辦トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルヲアルヘシ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲グルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ船船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ属スル瀝車其属具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

(四六) 第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境内ニ在テハ全ク明渡サシムルヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送價ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ區戸長ニ届出ヘシ其届出ハ徵用済引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セシキハ無効トス

一 西洋形船 七日間

二 地所 評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トテ各個ニ分別シテ徵用シタルキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルキハ第三十二條ノ例ニ係ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但シ此ノ場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上グルキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ預定ヲ要スルキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ付キ供給者ト熟議調和セサルキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定價

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルキハ其乗載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定價

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定價ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

(五六) 第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ

損料トス但シ船橋及ヒ舢船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

(六六) 第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス
第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代
價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルモハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルモ
限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ
賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルモハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ準シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス
第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルモ

ハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノ
ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サ
ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ル
モノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ
出シタルモハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劍官ヲ附加ス

●大藏省證券條例明治十七年九月
第二十四號布告

大藏省證券條例別紙ノ通制定ス

(別紙)

大藏省證券條例

第一條 大藏省證券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス

第二條 大藏省證券ハ無記名利付定期拂ニシテ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ仕拂ヲ爲ス者トス

第三條 大藏省證券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政官ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 大藏省證券ハ百圓五百圓千圓五千圓一萬圓ノ五種ニ別チ其仕拂期限ハ三ヶ月六ヶ月九ヶ
月ト 但其仕拂期日ハ各證券面ニ記載スヘシ

第五條 大藏省證券ハ何人ニテモ授受賣買スルヲ得

第六條 大藏省證券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱ハシムヘシ

第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請
求スヘシ但仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス

第八條 大藏省證券ハ其仕拂ノ期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕拂フヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキ
ハ一切仕拂ヲ爲サ、ルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス

第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ證券ノ引換ヲ請
フヘシ但其券面金額記號番號及ヒ主要ノ印部ヲ檢査シ其真正タルヲ證認シ得ヘキ者ニアラサレ
ハ引換サルヘシ

(七六) 第十條 大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セシトキハ其事由並ニ券面ノ金額仕拂期日記號番號及
ヒ所有セシトキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其

證券ノ授受賣買引換及ヒ仕拂ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手

額ヲ以テ届出ヘシ

(八六)

第十一條 亡失セシ證券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スル保證人二人以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ任拂フヘシ

第十二條 大藏省證券ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

●株式取引所條例明治十一年五月第八号布告

明治七年十月 第七號布告株式取引條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

(別冊)

株式取引所條例

第一章 株式取引所創立及開業ノ事

第一條 株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債證書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行并諸會社ノ株券等ヲ賣買取引スル所ナリ而シテ之ヲ創立セントスルモノハ其創立願書ヘ其地方長官ノ與書ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出シ農商務卿ノ允許ヲ請フヘシ

第二條 此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立スルニハ其發起人少クとも十名以上ニシテ其資本金額ハ十萬圓以上タルヘシ而シテ其資本金總高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ右發起人總員ニテ出スヘシ(十三年第五十七号布告ヲ以テ資本金二十萬圓ヲ十萬圓ト改メラル)

第三條 農商務卿ハ此創立願書ヲ受領シテ其許可スヘキヤ否ヲ考案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セサルコトアルヘシ

第四條 發起人右創立許可ヲ受クルニ於テハ諸般ノ規程ヲ議定シテ創立證書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ與書證印ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出スヘシ但創立證書及定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ遅クとも三ヶ月間ニ差出スヘシ若シ右期限内

ニ差出ヤ、ルキハ其許可ハ無効ニ屬スヘシ

第五條 右創立證書及定款申合規則ハ左ノ主旨ニ從ヒ各取引所ノ便宜ニ依テ之ヲ制定スヘシ然レモ必ス此條例ノ旨趣ニ抵觸スルヲ得サルヘシ

創立證書ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同決定シタル綱領ノ條件及ヒ其責任ノ有限或ハ無限ヲ明記シ必ス之ヲ遵守踐行スヘキ旨ヲ政府ニ對シ保證スルモノナリ

定款ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同其取引所ノ便宜ヲ商量決定シテ互相確守スヘキ約束條款ヲ記載スルモノナリ

申合規則ハ賣買取引ニ付賣買主双方ノ間ニ於テ取引所ニ對シ確守スヘキ規定ヲ記載スルモノナリ

第六條 農商務卿ハ右創立證書及定款申合規則ヲ檢按シテ不都合ナシト思考スルニ於テハ之ニ與書證印ヲ加ヘ免狀ト共ニ之ヲ其取引所ニ下付シテ開業ヲ許スヘシ

但爾后取引所ノ都合ニヨリ其創立證書及ヒ定款申合規則ヲ改正加除セントスルキハ其時々農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第七條 取引所ハ開業前ニ於テ其營業保證ノ爲メ資本金高ノ三分二以上ニ當ル現金又ハ公債證書(農商務省ヨリ指定スル價格ヲ以テ)ヲ農商務省ニ差出シ預置クヘシ

但シ開業免狀ヲ得タル後滿五ヶ月ニ至リ猶本文ノ手續ヲナサス又ハ開業セサルコトアルトキハ其免狀ハ取消タルヘシ

(九六)

第八條 取引所ハ開業ノ日ヨリ滿五ヶ年ノ間其營業ヲ保續スルヲ得ヘシ右滿期ニ至リ尙ホ營業セント欲スルキハ更ニ允許ヲ受クヘシ

第九條 取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀并ニ創立證書ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商

業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第二章 株主并ニ株手形ノ事

(〇七)

第十條 各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定ノ株式トナシ株手形ヲ製シ其株主タルモノヘ之ヲ交付スヘシ

第十一條 株主ハ其取引所ノ營業時間ハ何時ニテモ其金員及ヒ諸帳簿ヲ檢閱スルヲ得ヘシ

第十二條 株主ハ何等ノ事故アルトモ其取引所解散ノ期ニ至ラサル間ハ其株金ヲ取戻スヲ得ス

第十三條 株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓渡シチナスヲ得ヘシ

第十四條 株主タルモノハ其取引所ノ役員ヲラサル時間ハ何時ニテモ仲買人タルヲ得ヘシト雖モ仲買人トナリタルキハ仲買人ノ規則ヲ遵守スヘシ而シテ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スヘシ

第三章 仲買人ノ事

第十五條 丁年ニシテ仲買人ニナラント欲スル者ハ次條ニ定ムル身元金ヲ差入レ取引所ノ承認ヲ得タル上仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケ其認許ヲ受クヘシ(十三年第二十號布告ニテ改正セラル)

仲買人ハ他人ノ委託ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノダメニ爲ストヲ問ハス取引所ニ對シテハ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ(十三年第二十號布告ニテ追加)

第十六條 株式仲買人ノ身元金ハ二百圓以上金銀仲買人ノ身元金ハ千圓以上タルヘシ(十三年第二十號布告ニテ改正)

第十七條 仲買人ハ丁年者ニ限ルヘシ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其負債ノ義務ヲ免レタル實證アルニ非サレハ入社ヲ許サ、ルヘシ

第四章 役員ノ事

第十八條 取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取

肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ス

第十九條 取引所ノ肝煎ハ五名以上トシ株主ノ總會ニ於テ取引所ノ定規ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ頭取一人ヲ推舉シ其住所姓名年齢等ヲ農商務卿ニ具申シテ其認許ヲ受クヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルヲアルヘシ支配人以下ノ役員ハ頭取肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主ニオラサル者ヲ撰任スルヲ得(十三年第二十號布告ニテ本條ヲ改正追加ス)

第二十條 取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルヘシ

第二十一條 頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 頭取肝煎ハ其仲買人賣買上ノ差違レテ解キ違約者ヲ處分スルノ責任アリトス

第二十三條 取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規定ヲ設ケ之ヲ定款中ニ記載スヘシ

第五章 一般ノ規程

第二十四條 外國人ヲ取引所ノ株主并仲買人ト爲スヲ得ス

第二十五條 取引所ニ於テ株式賣買取引ヲナス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルヘシ(十四年第二十八號布告ヲ以テ削除)

第二十六條 取引所ノ役員タルモノハ其取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヘカラス

第二十七條 取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他ノ銀行并ニ諸會社(官許ヲ經タル合本會社)ノ役員タルヲ得ス

第二十八條 取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サズ又

(一七)

第二十九條 取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サズ又

之ヲ賣買スヘカラス

(二七)

第三十條 政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ營ムヘカラス但本條ニ掲載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノハ農商務卿ニ於テ其賣買ヲ許可スルヲ得(十三年第五十七號布告ニテ但書追加ス)

第三十一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保証ノ爲メ農商務省ヘ預クヘキ公債證書ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持スヘカラス

第三十二條 取引所ハ諸證據金ヲ使用スヘカラス又貸附金ヲナスヘカラス

第三十三條 取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トナシ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ取引所ニ於テ其責ニ任スヘシ(十五年第六十四號布告ニテ改正ス)

第三十四條 取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行并諸會社及ヒ新立會社ノ株式ヲ賣買スルノ依頼ヲ受ルト雖モ其事情ニヨリ之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第三十五條 取引所ノ諸願伺届又ハ諸證書約定書及往復ノ文書等取引所一般ニ關スル事件ハ頭取肝煎等コレニ記名調印スヘキハ勿論ナレモ必ス其取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ捺スヘシ

第六章 賣買取引ノ事

第三十六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必ス現物ノ受渡シヲ爲スヘシ但三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスヘカラス

第三十七條 凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲナシ其定期ニ係ルモノハ約定金高百分ノ五宛ニ下ラサル證據金ヲ賣買双方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限中相庭ノ高低等ニヨリテハ追證據金增證據金

等ヲ差入シムルヲ得ヘシ

第三十八條 約定取引ノ期限ニ至ツテハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡シノ手續ハ政府又ハ諸會社ノ成規ニ照シ之ヲ履行スヘシ

第三十九條 約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ヘシト雖モ其期日ニ至レハ必ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條 賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ(十五年第六十四號布告ニテ改正ス)

第七章 手数料ノ事

第四十一條 取引所ニ於テ賣買者双方ヨリ領收スヘキ手数料ハ取引所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ(十八年第七號布告ニテ改正ス)

第四十二條 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルヲ得ヘシ

第八章 検査ノ事

第四十三條 農商務卿ニ於テ要用ト思考スルキハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或ハ其地方長官ヘ達シテ其取引所ノ業体及ヒ金銀其他諸帖簿等ヲ検査セシムルヲアルヘシ

第九章 帖簿ノ事

第四十四條 取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第四十五條 取引所ニ於テ製造使用スル處ノ諸帖簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務省ヘ届出ツヘシ

(三七)

第十章 諸報告ノ事

(四七) 第四十六條 取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退并株主仲買人ノ姓名等農商務卿ノ指命スル處ニ從ヒ時々報告ヲナスヘシ

第十一章 納税ノ事

第四十七條 此取引所ハ退テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

第十二章 罰則

第四十八條 取引所ノ役員及株主並仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主并仲買人ノ此條例ニ背戾シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戾セシメタル實證アルモハ役員并ニ本人トモ其事ノ輕重ニ依リ三十圓ヨリ少ナカラス千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第四十九條 官員検査ノ節取引所役員及仲買人等簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辨ヲ爲サ、ル者アルモハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(十五年第六十四號布告ニテ改正ス)

第五十條 取引所ノ規約ニ背犯シタル役員及株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止ルモノトス(十五年第六十四號布告ニテ但書共追加ス)

但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ユルヲ得ス

●海上衝突豫防規則明治十三年七月第三十五號布告

明治七年一月第五號布告海上衝突豫防規則別冊ノ通改正シ來九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

海上衝突豫防規則

總則

第一條 此規則中蒸氣船ト雖モ帆ニテ走り蒸氣ヲ用ヒサル時ハ帆前船ト看做シ蒸氣ヲ用ユルモハ

帆ヲ用フルト用ヒサルトノ差別ナク總テ蒸氣船ト心得ヘシ

燈火

第二條 各船日没ヨリ日出マテノ間ハ天氣ニ拘ハラス第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ記載スル燈火ヲ掲クヘシ決シテ他ノ燈火ヲ用フヘカラス

第三條 蒸氣船ハ航海中必ス左ノ燈火ヲ掲クヘシ

(甲) 前橋又ハ其前面ニ於テ船体上二丈ヨリ低カラサル所ニ亮明ナル白燈一個ヲ掲クヘシ若シ船幅二丈ヲ超ルモハ船体上其船幅ヨリ低カラサル所ニ之ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ二十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ左右舷外ヘ十方位ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ニ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ五里(海里ニテ算ス)以下之ニ做ヘシノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(乙) 右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丙) 左舷紅燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丁) 右舷紅ノ燈ニハ燈火ヨリ前ニ少クモ三尺出テタル屏風標ノ隔板ヲ其燈火ノ内側ニ當テ、裝置シ右舷燈ハ左舷ニ在ル船ヨリ見ヘス左舷燈ハ右舷ニ在ル船ヨリ見ヘサル様ニナスヘシ

(五七) 第四條 蒸氣船他船ヲ引テ航行スル時ハ兩舷燈ノ外ニ亮明ノ白燈二個ヲ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ、縦ニ連掲シ獨走ノ蒸氣船ト區別スヘシ此燈火ハ獨走ノ蒸氣船ニ掲クル白燈ト同製ナルヲ

用ヒテ同所ニ掲クヘシ

(六七)

第五條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク事變ノ爲ニ運用自由ヲ得サル時ハ夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ニ掲クル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ但此紅燈ハ晴天ノ暗夜ニ少ナクモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ又晝間ハ直徑二尺ノ黒球若クハ黒色形象三個ヲ前橋ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ

海底電信線ノ布置又ハ引揚ニ從事スル船ハ蒸氣船ト帆前船トノ差別ナク夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球形三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ノ白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲シ其燈火ハ上下ノ二個ヲ紅色トナシ中央ヲ白色トナシ期紅燈ハ白燈ト同一ノ距離ヲ照スヘキモノヲ用フヘシ又晝間ハ前橋ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ直徑二尺ヨリ少カラサル形象三個ヲ六尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲シ其上下ノ二個ハ紅色球形ヲ用ヒ其中央ノ一個ハ白色縱菱形ヲ用フヘシ

本條ノ燈火及形象ヲ掲クル船ハ運用自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避ル能ハサルヲ標スルモノト他船ニ於テ心得ヘシ但危難ニ罹リ救助ヲ要スル船ハ第二十七條ノ難船信號ヲ用フル者ト心得ヘシ(十八年第二十七號布告ニテ本條各項改正ス)

第六條 帆前船ハ自ラ走ルト他船ニ引カル、トノ差別ナク白燈ヲ除クノ外第三條ニ記載スル蒸氣船ノ燈火ヲ掲クヘシ決シテ白燈ヲ掲クヘカラス

第七條 小形船ニ於テ天氣ノ模様ニ依リ綠紅ノ二燈ヲ掲ケ置キ難キモハ綠燈ハ右舷ニ紅燈ハ左舷ニ於テ何時ニテモ標スヘキ様甲板ニ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クモ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ各燈ヲ他船ヨリ最モ見ヘ易キ様各舷ニ標スヘシ但此時綠燈ハ左舷ヨリ見ヘス紅燈ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ

此綠紅ノ燈ヲ置違ヒナク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ノ燈籠ハ綠色紅燈ノ燈籠ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且成規ノ隔板ヲ之ニ備ヘ置クベシ

第八條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最モ見ヘ易クシテ船體上ヨリ二丈ヲ超ヘサル所ニ白燈一個ヲ掲クヘシ○此燈火ハ直徑六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常ニ不同ナク最モ光明ノ光ヲ發シ少クモ周回一里ノ距離ヨリ見ユル様ニ爲スベシ

第九條 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用ユル燈火ヲ掲ケス唯橋頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スベシ

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲クヘシ

第十條 甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船航行中ハ必スシモ他船ニ用ユル燈籠ヲ掲クルニ及ハス然レモ燈籠ノ代ニ一面ハ綠色ノ硝子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠一個ヲ手近ニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クモ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其燈籠ヲ標スヘシ但此時ニ綠光ハ左舷ヨリ見ヘス紅光ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ

右漁船及ヒ小船碇泊シタルカ或ハ網ヲ卸シタルモハ光明ナル白燈一個ヲ標スベシ且ツ便宜ニ從ヒ度々閃光ヲ發シ又晝夜ニ拘ハラス霧中號角ヲ用フルモ苦シカラス(十八年第二十七號布告ニテ本項改正ス)

(七七)

第十一條 他船ニ追越サレントスル船ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ標シ又ハ閃光ヲ發スヘシ霧中信號

第十二條 蒸氣船ハ漁船ヲ音響ノ妨碍物ナキ所ニ裝置シ且ツ輔其他ノ機械ヲ以テ發聲スヘキ霧中

(八七)

號角或ハ尋常ノ霧中號角及ヒ號鐘ヲ備フヘク帆前船ハ同標ノ號角及ヒ號鐘ヲ備フヘシ但此汽笛

(十八年第二十七號布) 告ニテ本項改正ス

號角及ヒ號鐘ハ善ク其用ニ適セサルヘカラス

霧中又ハ降雪中ハ晝夜ノ差別ナク本條ニ記載セル信號ヲ左ノ如ク用フヘシ
(甲) 蒸氣船航行中ハ汽笛ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ
(乙) 帆前船航行中ハ號角ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷

開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受タルキハ三聲ヲ連發スヘシ
(丙) 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク航行中ニ非レハ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ號鐘ヲ鳴ス

霧中速力

第十三條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク霧中及ヒ降雪中ハ程好キ速力ヲ以テ走ルヘシ

航法

第十四條 二艘ノ帆前船互ニ近寄りテ衝突ノ懼アルキハ一方ノ船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避ク

ヘシ

(甲) 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(乙) 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(丙) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シカラサルキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

(丁) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シキキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

(戊) 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十五條 二艘ノ蒸氣船正シク真向又ハ殆ソト真向ニ行逢フテ衝突ノ懼アルキハ兩船共航路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正ク真向又ハ殆ソト真向ニ行逢フテ衝突ノ懼アルトキニ限リ應用スヘク各其航路ヲ保チテ必ス替リ行ク時ニ應用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ至當ノ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ殆ソト真向ニ行逢ヒタル時即チ晝間ハ我船ノ橋ト他船ノ橋ト一直線又ハ殆ソト一直線ニ見ユル時夜間ハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ一時ニ見ル時ニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我航路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユル時又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スル時又ハ我船ノ前面ニ綠燈ナクシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ナクシテ綠燈ヲ見ル船又ハ綠紅ノ兩舷ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ル時ハ應用スヘカラス

第十六條 二艘ノ蒸氣船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ懼アルキハ我右舷ニ他船ヲ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十七條 帆前船ト蒸氣船ト互ニ近寄り衝突ノ懼アルキハ蒸氣船ヨリ帆前船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條 總テ蒸氣船他船ニ近寄り衝突ノ懼アルトキハ速力ヲ緩ニシ又ハ時宜ニ依リ停止シ且後退スヘシ

第十九條 蒸氣船此規則ニ遵テ航路ヲ取ルキハ左ノ汽笛信號ヲ以テ他船ニ其航路ヲ通知スルヲ得

(九七)

短聲一發 我船ノ航路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船ノ航路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船一杯ノ速力ニテ退却ス

(〇八)

此信號ヲ用フルト否ヲサルトハ隨意タルヘシ但シ此信號ヲ用ヒタル時之ヲ用ヒタル船ハ必ス其信號通りニ其航路ヲ取ラサルヘカラス

第二十條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク他船ヲ追越サントスルキハ以上ノ規則ニ拘ハラズ總テ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 總テ蒸氣船狹隘ノ水路ヲ通航スルニ當リ無難ニ通行シ得ルキハ其航路ノ中流ヨリ其船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十二條 以上ノ規則ニ依リテ兩船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルキハ他船ニ於テ其航路ヲ保守スヘシ

第二十三條 此規則ヲ遵守スルニ就テハ航海上百般ノ危險ニ心ヲ配リ且危險切迫シテ此規則ヲ遵守スル暇ナキ特別ノ場合ニ於テハ臨機ノ處置ヲ以テ之ヲ避クルニ注意スヘシ
懈怠ノ責

第二十四條 此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ノ怠リ又ハ海員ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ノ怠リヨリ生シタル事件ニ於テハ船主船長乗組人員各其責ヲ免ル可カラサルモノトス
別則

第二十五條 此規則ハ各地方官ニ於テ特ニ制定シタル港川其他内海ノ航行規則ノ施行ニ干渉セサルモノトス

第二十六條 此規則ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラル、船ニ増掲スル列位燈火及ヒ信號燈火ニ付各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ニ干渉セサルモノトス

難船信號(十八年第二十七號ニテ難船信號ノ本項ヲ追加ス)

第二十七條 危難ニ罹リ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船ハ左ノ信號ヲ用ヒ同時又ハ別々ニ施行スヘシ

スヘシ

晝間信號

(一) 凡一分時毎ニ一砲發チナスコト

(二) 万國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ標スルコト

(三) 方形旗ノ上又ハ下ニ球若クハ之ニ類似スル物ヲ掲タル遠隔信號ヲ標スルコト

夜間信號

(一) 凡一分時毎ニ一砲發チナスコト

(二) 船上ノ發焰タール桶油燈等ヲ燃焼スルノ類

(三) 各色各種ノ星火ヲ發射スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツ、數分時毎ニ打揚クルコト

罰則(十四年第三十三號布告ニテ本則追加ス)

第二十八條 凡船舶合格ノ燈籠及信號器ヲ所持セス若クハ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(十八年第二十七號布告ニテ第二十七條ヲ第二十八條ニ改正)

但甲板ナキ漁船燈甲板ナキ小船ハ此限ニアラス

附則(十八年第二十七號布告ニテ本則追加ス)

西班牙國フィニステル岬以北ノ歐洲沿海ノ漁船及小船ニノミ左ノ規則適用ニ付該地方航行ノ諸船ニ於テ之ヲ心得ヘシ

(一八)

(甲) 登簿噸數二十噸以上ノ漁船航行シ及次ノ各項ニ記載シタル燈火ヲ掲クルヲ要セサル時ハ他ノ航行路ト同様ノ燈火ヲ掲クヘシ

(乙) 流網ヲ用ヒ漁獵ニ從事スル船ハ其船ノ最モ見エ易キ場所ニ於テ二個ノ白燈ヲ掲ケ其燈火ノ縦距離ハ六尺以上十尺以下ヲ隔テ又横距離ハ其船ノ龍骨ト平行線ニ量リ五尺以上十尺以下

(二八)

ヲ隔ツヘシ但此二個ノ白燈ハ下ニ掲クルモノナ上ニ掲クルモノヨリ前方ニ置キ且晴天ノ暗夜ニ周回諸方三里以上ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丙) 釣絲ヲ垂レ釣魚ニ従事スル船ハ流網ヲ以テ漁獵ニ従事スル船ト同一ノ燈火ヲ掲クヘシ

(丁) 漁獵ニ従事スル船其属具ノ岩礁其他障物ニ固着セル爲メ其所ニ駐留スル時ハ碇泊船ト同様ノ燈火及霧中信號ヲ用フヘシ

(戊) 漁船及甲板ナキ小船ハ何時ニテモ本條ニ依リテ掲クヘキ燈火ノ外ニ閃光ヲ發スルハ苦シカラズ曳網爬網其他曳網ノ類ヲ用ヒ漁獵ニ従事スル船ニ於テ閃光ヲ發スル時ハ總テ其船ノ後部ニ於テスヘシ但曳網爬網其他曳網ノ類ヲ船尾ニ繫キタル時之ヲ船首ニ於テ發スルハ此限ニ在ラス

(己) 漁船及甲板ナキ小船碇泊中ハ日没ヨリ日出マテノ間少クモ周回諸方一里ノ距離ヨリ見ユヘキ白燈ヲ掲クヘシ

(庚) 霧中又ハ降雪中ニハ網ニ繫キタル流網船及曳網爬網其他曳網ノ類ヲ用ヒ漁船ニ従事スル船及釣絲ヲ垂レ釣魚ニ従事スル船ハ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ霧中號角ト號鐘トヲ迭ニ鳴ラスヘシ

●海底電信線保護萬國聯合條約罰則(明治十八年七月第十八號布告)

海底電信線保護萬國聯合條約罰則別冊ノ通制定ス

但施行ノ日ハ退テ布告スヘシ(明治二十一年四月勅令第二十一号ヲ以テ同(別冊)年五月一日ヨリ施行スル旨公布セラレタリ)

海底電信線保護萬國聯合條約罰則

第一條 條約第二條ヲ犯シタル者ハ刑法第六十四條ノ例ニ照シテ處斷シ其未ダ遂ケサルモノハ

刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

其疎虞懈怠ニ因ル者ハ電信條例第五十九條第二項ニ照シテ處斷ス

第二條 疎虞懈怠ニ因リ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者ハ其船舶ノ初メテ到着シタル地ノ管轄廳(外國ニ於テハ其地駐在ノ領事館)ニ二十四時以內ニ届出ヘシ之ヲ届出サル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 自己ノ生命或ハ船舶ヲ保護スル爲メ已ムテ得スシテ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者亦前條ニ依テ届出ヘシ之ヲ届出サル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 條約第五條第一項第二項第三項及第六條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
條約第五條第一項ヲ犯シ因テ他ノ船舶ヲシテ海底電信線ヲ切斷損壞ニ至ラシメタル電信船ノ船長ハ一等ヲ加フ

第五條 條約第十條ニ依リ書類ヲ見ント要求スルトキ之ヲ示スコトヲ拒ミタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ暴行脅迫ヲ以テ拒ミタル者ハ刑法第三百三十九條ニ照シテ處斷ス

第六條 此罰則ニ掲ケタル罪ヲ犯シタル者ハ犯人所属ノ船舶定繫港又ハ其船舶所在地ノ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

●爆發物取締罰則(明治十七年十二月第三十二号布告)

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

(別冊)

(三八)

爆發物取締罰則

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人

(四八)

ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫致唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止マル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供スヘキ器具ヲ製造輸入販賣譲與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ラントスル人ニ告知スヘシ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未滿ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ

官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ所斷ス

● 版權條例 明治廿年十二月勅令第七十七號

朕版權條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

版權條例

第一條 凡ソ文書圖書ヲ出版シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其文書圖書ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條 出版條例ニ依リ文書圖書ヲ出版スル者ハ總テ此條例ニ依リ其版權ノ保護ヲ受ルコトヲ得

第三條 版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前製本六部ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ント欲スル者ハ其由ヲ内務省ニ通知スヘシ

第五條 版權登錄ノ文書圖書ニハ其保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ

登錄ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付ス

登錄ヲ經タル文書圖書ハ内務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條 版權ハ著作人ニ屬シ著作人死後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

(五八) 講義若クハ演說ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲シタルモノ、版權ハ講義者若クハ演說者ニ屬シ若シ筆記者ニ於テ講義者若クハ演說者ノ許諾ヲ經テ出版スルトキハ筆記者ニ屬シ筆記者死後ニ在テ

(六八)

ハ其相續者ニ屬スルモノトス
翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス
官廳學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ版權ハ其官廳學校等ニ屬スルモノトス

數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シタル文書圖書ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但編纂者ト原著作者講義者演說者又ハ其相續者トノ關係ハ相互ノ約束ニ依ル

第八條 版權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第九條 版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其再度下付ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但手數料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第十條 版權保護ノ年限ハ著作作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス
若シ版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍ホ三十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス

數人ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス
官廳又ハ學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書并著作死亡ノ後ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ各號毎ニ其出版ノ月ヨリ起算ス但其都度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省畧スルコトヲ得

第十二條 版權ノ保護ハ其文書圖書ヲ改正増減シ又ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ

又ハ冊數ヲ分合スルカ爲メ變更スルコトナカルヘシ

第十三條 特ニ世ニ有益ナル文書圖書ニシテ版權年限間ノ利益其著作出版ノ勞力ト費用トヲ償ハサルノ事情アルモノニハ版權所有者ノ願出ニ依リ內務大臣ニ於テ仍ホ十年間版權保護ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第十四條 文書圖書ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルトキハ其由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並其所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者ノ出テサルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニヨリ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙又ハ雜誌ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說記事又ハ小説ハ其編輯者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ刊行ノ月ヨリ二年内ニ之ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲シ出版スルコトヲ得ス
其二年ヲ經ルト雖ヒ已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條 版權所有ノ文書圖書ヲ偽版シタル者ハ其版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

(七八)

第十七條 偽版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其發賣頒布ヲ差止ムル

コトヲ得但審理ノ末偽版ニアラスト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條 偽版ニ關スル損害賠償ノ責ハ偽版者ノ相續者ニ及フモノトス

(八八)

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スル版權所有ノ文書圖書ヲ翻譯シ増減シ註解附録繪圖等ヲ加ヘ若クハ其未タ完結セサル部分ヲ續成ノ出版スル者及本條例第十五條ニ違フ者ハ僞版ヲ以テ論ス他人ノ講義又ハ演說ヲ筆記シ其許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條 翻譯書ノ版權ハ其翻譯者ニ屬スト雖モ其原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ僞版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但其既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此限ニアラス

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲メ故ヲニ版權所有ノ文書圖書ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又ハ氏名社號屋號等ノ類似シタル者ヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十二條 作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖書ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖書ヲ翻刻スル者亦僞版ヲ以テ論ス

第二十三條 文書圖書ヲ寫眞ト爲シ因テ其版權ヲ犯ス者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十四條 内國ニテ版權所有ノ文書圖書ヲ外國ニ於テ僞版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十五條 僞版ノ訴アリテ其僞版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條 僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ其原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

第二十七條 僞版者及情ヲ知ルノ印刷者販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若クハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但被告者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

僞版ニ係ル刻版及印本ハ其何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シ其既ニ販賣シタルモノハ其賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖書ト雖モ之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十九條 第三條ノ手續ヲナサスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖書ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第三十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖書ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十二條 現行ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル版權ノ年限ハ現行條例ニ據リ計算スルモノトス今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

● 參照

○ 關係法令

太政官第二十五號布達明治十七年十月

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クハモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

(九八)

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

(九) 第四條 區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニテサレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス
但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ
ナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タルモノニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シ
タルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

内務省乙第四十號達明治十七年十一月

本年第二十五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事

第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル

但已ムコトヲ得サル事情アリテ之レヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地
高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニ
テモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍墓地ト墓地ニ非サル
地トノ境界ヲ云フニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存ス
ヘカラス

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民幅濶ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火
爐烟筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 擴穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋
藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戸長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳替等ノ
碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ限ニ非ス

第拾壹條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戸長ノ認許
證ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルキハ醫師ノ檢
案書ヲ差出シ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ產婆ノ死産證ヲ差出シ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ
乞フヘシ

變死ニ係ルキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

(一九)

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ捺印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

(三九)

第十二條 區戸長ハ前條ノ屠畜證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス
第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戸長ノ認許證ヲ編纂シ毎三ヶ月所轄警察署ノ檢閲ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戸長役場ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條 此標準ニ據リ難キモノハ其事情ヲ具シ伺出ヘシ

保安條例 明治二十年十二月勅令第六十七号

朕惟フニ今ノ時ニ當リ大政ノ進路ヲ開通シ臣民ノ幸福ヲ保護スル爲メニ妨害ヲ除去シ安寧ヲ維持スルノ必要ヲ認メ茲ニ左ノ條例ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

保安條例

第一條 凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ

內務大臣ハ前項ノ秘密結社又ハ集會又ハ集會條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯結通信ヲ阻遏スル爲ニ必要ナル豫防處分ヲ施スコトヲ得其處分ニ對シ其命令ニ違犯スル者罰前項ニ同シ

第二條 屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁教唆者及情ヲ知りテ參會シ勢ヲ助ケタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

集會者ニ兵器ヲ携帯セシメタル者又ハ各自ニ携帯シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ

第三條 內亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ文書又ハ圖畫ヲ印刷又ハ板刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收スヘシ

印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ル、コトヲ得ス

第四條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ內亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタルノ後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍五年以下ノ監視ニ付ス

監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ執行ス

第五條 人心ノ動亂ニ由リ又ハ內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ內閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其一地方ニ限リ期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルコトヲ得

一 凡ソ公衆ノ集會ハ屋內屋外ヲ問ハス及何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス豫メ警察官ノ許可ヲ經サルモノハ總テ之ヲ禁スル事

二 新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行スルヲ禁スル事

三 特別ノ理由ニ依リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帯運搬販賣ヲ禁スル事

四 旅人出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設クル事

(三九)

第六條 前條ノ命令ニ對スル違犯者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金

(四九)

ニ處ス其刑法又ハ其他特別ノ法律ヲ併セ犯シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス

第七條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●米商會所條例 明治九年八月
第百五號布告

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度者ハ會社規則取調可願出旨明治七年^{十二}月^{十二}第百三十八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條例別冊ノ通相定メ候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

(別冊)

米商會所條例

第一條 緒言

第一節 米商會所ハ米穀流通ノ爲メ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ協同結社之ヲ創立セントスル者ハ農商務卿ノ免許ヲ請フヘシ

第二節 農商務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可スルト否トノ權ヲ有ス

第三節 米商會所營業ハ五ヶ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶之ヲ保續セント望ム者ハ更ニ其趣ヲ申立農商務卿ノ免許ヲ請フヘシ

第二條 會所創立ノ手續

第一節 米商會所ヲ創立スルニハ發起人十人以上ニシテ資本金ノ總額三万圓以上タルヘシ

第二節 資本金ハ百圓ヲ以テ一株ト定メ發起人總員ニテ必ス資本金總高ノ半額以上ニ當ル株數ヲ所持スヘシ

第三節 會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ從來米穀聚散ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名調印シ區戸長ノ與書ヲ得會所創立證書及定款申合規則等ヲ添ヘ之ヲ地方官廳ヘ差出スヘシ

但創立證書中株主ノ責任ニ於テ有限或ハ無限ナルコト明記スヘシ (十二年第四號布告
ニテ本項ヲ追加ス)

第四節 地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且其目的ノ利害障礙ノ有無ヲ識別シ又會議所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其集議ヲ取り併セテ之ヲ參酌シ相當ト思量スルハ意見書ヲ添ヘ農商務卿ヘ具申スヘシ

第三條 開業ノ手續

第一節 發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタル時ハ直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ルコトヲ得

第二節 發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ程限ニ從ヒ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取ヲ撰任シ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方官廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ (十三年第十九號
布告ニテ改正ス)

第三節 此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公債證書 此公債證書ハ時々相
スヘシト雖モ明治七年大藏省乙第二
十八號達ノ價格ヨリ減少スヘカラス ナ其地方官廳或ハ國立銀行ニ預ケ公正ナル預リ證書ヲ乞受ケ其寫ヲ農商務卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求スヘシ

第四節 會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ始メテ之ニ從事スルコトヲ得

第四條 社印ノ用方并印鑑差出方等ノ手續

第一節 開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ

(五九)

(六九)

其印影ヲ一纏メニシテ農商務卿ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アルキハ其都度之ヲ差出スヘシ

第二節 會所ノ諸願伺届又ハ諸證書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ルマテ會所一般ニ關スル事ハ其會所ノ名義ヲ用非會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

第五條 役員ノ程限

第一節 會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ

頭取

副頭取

肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所ノ都合ニ任ス

第二節 會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルコトヲ許サス

第三節 右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ撰舉

シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推撰シ共ニ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳

ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受テ新舊交代セシムヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアル

ヘシ(十三年第十九號 布告ヲ以テ改正)

第六條 役員ノ職務

第一節 頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス

第二節 頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節 副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第四節 肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定メ社中差違ノ事ヲ判

決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取テントスル事柄アル時ハ之ヲ招集スルコトアルヘシ

第五節 肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員トナルヘシ

第六節 肝煎ハ其同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アルキハ臨時

委員ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ説ニ從ヒ之ヲ退職セシムルコト

得

第七條 株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節 株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高ニ應シタル株券ヲ所持シ以テ

株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時々ノ景況ニ着目シ金員及ヒ出納

勘定帳簿ヲ檢閲セント求ムルノ權アリ

第二節 株主ハ肝煎ノ承諾ヲ得テ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段證人ヲ要セスト雖モ通常

仲買人タルノ條件ニ適應スルヲ要ス(十三年第十九號 布告ニテ改正ス)

第三節 株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スコトヲ得ス

第四節 株主ハ肝煎ノ承諾ヲ受タル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スコトヲ

得ヘシ但其質入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノ時發言ノ權ナク又役員ノ撰舉ニ應スルコトヲ許

サス

第五節 株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ其賣買授受双方ヨリ連印ノ證書ヲ會所ニ

差出スヘシ會所ハ此證書ヲ請取リタル時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續キヲ爲サハル

間ハ證書賣買授受ノ効ナキ者トス

第八條 仲買人入社ノ手續

(七九)

第一節 仲買人タルヲ得ヘキ者ハ丁年ニシテ會所々在ノ地ニ於テ滿一年以上米商營業ヲ爲シタル者ニ限ル而テ仲買人トナラント欲スル者ハ身元金千圓以上ヲ出シ株主二名以上ノ保證ヲ以テ肝

(八九)

煎ニ申出テ其承認ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケテ其認許ヲ受クヘシ

身元金ハ現金又ハ日本政府ノ公債証書ヲ以テ會所ニ預ケ置クヘシ(十三年第十九號布告ニテ本節改正ス)

第二節 仲買人タルモノハ他人ノ依頼ヲ受ルニアラサレハ賣買取引ヲナスコトヲ得ス其賣買取引ニ付會所ニ對シ自己ノ名義ヲ以テシ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負擔スヘシ但一口ノ取引ニ付賣買双方ノ依頼ヲ受クルヲ得ス(十五年第二十六號布告ニテ改正ス)

第三節 仲買人ハ五名ヲ一組トシ組合中ヨリ一名ヲ推撰シ肝煎ノ承認ヲ得テ組頭トナシ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ(十三年第十九號布告ニテ改正ス)

第四節 仲買人退社セントスルハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認メタル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ證人ノ責任ヲ解クヘシ

第九條 商會所一般ノ規則(十五年第二十六號布告ニテ第一第二節ヲ改正シ第三節以下第六節ヲ追加セラレタリ)

第一節 外國人ヲ株主並仲買人ト爲スコトヲ得ス

第二節 會所ニ於テ賣買取引ヲ爲スモノハ其會所ノ仲買人ニ限ルヘシ

第三節 會所ニ於テハ貸附金ヲナスヘカラス又仲買人ノ身元金証據金ヲ使用スヘカラス

第四節 會所ハ此條例ノ旨趣ニ基キ賣買主雙方ノ約定ヲ履行セシムルノ責任アルモノトス

第五節 會所ハ左ノ場合ニ於テハ賣買ノ違約人トシテ會所限處分スルコトヲ得

第一 賣買主雙方若クハ一方其會所ニ差入ヘキ証據金ノ差入方ヲ怠リタルトキ

第二 賣買主雙方若クハ一方其取引約定ノ期日ニ至リ其約定ヲ執行セザルトキ

第三 會所ニ於テ定メタル現米検査ノ方法及方法受渡上ノ期約ニ背キタルトキ

第六節 會所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ會所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トキ其者ノ證據金及身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ會所ニ於テ其責ニ任スヘシ

第十條 賣買取引ノ手續

第一節 會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現米直取引ト定期トノ二様ニ分チ又其定期ヲ二種ト爲シ其一ヲ約定ノ期限ニ至リ現米金ノ受渡ヲ爲スモノトシ其二ヲ豫定ノ期限内ニ其取引ヲ完結シ又ハ解約スルモノトス(十三年第十九號布告ニテ改正ス)

第二節 現米直取引ハ見本米ヲ以テ會所内ニ於テ賣買ヲ爲シ其現石受渡ノ順序ハ會所ノ規則ニ從フヘシ(十三年第十九號布告ニテ改正ス)

第三節 定期賣買ヲ約定シタルハ會所ノ役員ニ届出テ賣買主双方ヨリ約定ノ証據金ヲ會所ニ差入ルヘシ此証據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ一ヨリ下ルヘカラス又此証據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニ因テハ追証據金或ハ期日前ニ至リ猶ホ其約定ヲ確固ナラシムル爲メ増証據金ヲ差入シムヘシ(十三年第十九號布告ニテ改正ス)

第四節 定期賣買約定ノ期限ハ三ヶ月ヨリ永カルヘカラス而シテ其期日ニ至レハ會所ノ役員立會ノ上必ス現米金ノ受渡シヲ爲シ其取引ヲ完結スヘシ但約定濟ノ分チ双方ノ都合ニヨリ其期限内ニ買戻シ又ハ買受ケタル分チ他人ヘ賣渡スコトヲ得(十三年第十九號布告ニテ改正ス)

第十一條 手数料ノ定規(十八年第三十六號布告ニテ本條各節改正ス)

第一節 會所ニ於テ賣買者双方ヨリ預收スヘキ手数料ハ會所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第二節 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ收受スルコトヲ得

(九九)

第十二條 會議ノ規則

第一節 會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節 肝煎會議ハ毎月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長ト爲ス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一人ニ付一説ト定メ衆說ヲ取リテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半ハスルキハ議長ノ判決ニ任カス

第三節 右會議ニ當リ出席定員ノ半ハニ充タサルモハ其議事ヲ始ムヘカラス但急遽ノ事件ハ格別ナリトス

第四節 株主ノ總集會ハ毎年一度又ハ數度例日ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ撰舉及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ主務トス

第五節 株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總集會ヲ開クヲ得

第六節 總集會ニ於テノ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節 總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ撰舉スルモ妨ケナシ

第十三條 資本金増減ノ手續

第一節 會所ニ於テ資本金高チ増減セントスル時ハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其次第ヲ詳記シ農商務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

但其資本金賣買取引ノ景況ニ對シ不適當ト認ルトキハ農商務卿ハ其適當ノ金額ニ増加スヘキ旨ヲ命スルコアルヘシ(十五年第二十六號布告ニテ但書追加ス)

第二節 右増減ノ許可ヲ得タル上ハ直ニ世上ニ公告シ其増減セシ名前書ヲ取纏メタル上農商務卿ニ届出且地方官廳或ハ銀行ニ預ケタル營業保證ノ金額ヲ増減スヘシ

第十四條 損益金計算ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其内税金并ニ積立金其他一切ノ社費ヲ引去

リ殘リ損益高チ以テ株數ニ割リ合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節 右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日内農商務卿ニ届出且世上ニ公告スヘシ

第十五條 納税及ヒ積金ノ規則(十八年第三十六號布告ニテ改正ス)

第一節 會所ハ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ税金ヲ納ムヘシ(十八年第三十六號布告ニテ改正ス)

第二節 株主等ハ配當スヘキ純益金一ケ年一割即百分ノ十以上ノ利息ニ當ルモハ肝煎ノ衆議ヲ以テ割賦高ノ内幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準備金ト爲スヘシ

第十六條 報告ノ定規(十五年第二十六號布告ニテ第一節ヲ改正シ第二第三節ヲ追加セラレタリ)

第一節 會所及仲買人ハ毎日取扱ノ事項并金穀出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テハ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第二節 會所及仲買人ニ於テ使用スル所ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務卿ニ届出ヘシ

第三節 會所ハ賣買實際ノ景況及金穀出納其他役員ノ進退并株主ノ異同仲買人ノ退社ヲ農商務卿ニ報告スヘシ

第十七條 官員検査規則

第一節 地方長官ハ時々官員ヲ派出シ會所及仲買人營業ノ模様其他諸帳簿并現米ノ所在其受渡ノ實況及會所ノ現金等ヲ査覈セシムヘシ又時トシテハ農商務省ヨリ官員ヲ派出シ之ヲ検査セシムルコトアルヘシ若シ右検査官員ヨリ疑問等アルトキハ會所ノ役員及仲買人等ハ逐一答辨ヲ爲サ

第十八條 諸願届其他ノ書類上達ノ定規

第二節 會所ヨリ農商務卿ニ差出スヘキ文書中諸願ハ一通其他ハ一通宛ニシテ其差出方ハ地方廳ヲ經由スヘシ(十五年第二十六號布告ニテ改正ス)

第十九條 罰則

(二〇一) 第一節 會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實証アルハ役員并ニ本人トモ其輕重ニヨリ三十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス(十三年第十九號布告ニテ追加ス)

第二節 (十三年第十九號布告ニテ追加ス)
(十六年第三十號布告ニテ削除ス)

第三節 官員檢査ノ節簿冊書類ヲ差出スヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辨ヲ爲サ、ル者アルハ頭取又ハ其主任者へ五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(十三年第十九號布告ニテ元第二節ヲ第

第四節 會所ノ規約ニ背犯シタル役員株主仲買人ヲ會所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過意料ヲ取立ルニ止ルモノトス

但其過意料ハ株金身元金ノ高ニ超ルヲ得ス(十五年第二十六號布告ニテ本節改正ス)

第二十條 (十五年第二十六號布告ニテ追加同)
(年第四十六號布告ヲ以テ削除ス)

米穀金銀等竊ニ賣買取引ヲ爲ス者ノ處分十三年四月第二十一號布告

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ内タリニ竊ニ米穀並金銀貨幣及株式ノ限月若クハ現場定期ヨリ起リタル現場ヲ云フ賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲ス可シ

但本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタルハ其罪ヲ問ハス

米商會所及株式取引所ノ賣買上ニ付テノ處分十五年八月第四十六號布告

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景况穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿ハ其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルヲアル可シ

但本年第二十六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

米商會所又ハ株式取引所ノ賣買ニ倣フタル者ノ處分十六年一月第四號布告

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似ノ方法ヲ用ヒズ物品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ總テ明治十三年四月第二十一號布告ニ依リ處分スヘシ

米商會所又ハ株式取引所ノ仲買人ニシテ竊ニ米穀等ノ賣買取引ヲ爲ス者ノ處分十六年八月第二十九號布告

米商會所及株式取引所ノ仲買人ニシテ竊ニ米穀並金銀貨幣公債証書株式ノ限月若クハ現場定期ヨリ起リタル現場賣買又ハ其類似ノ取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ五十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ米商會所條例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム

米商會所并株式取引所收稅規則明治十八年十一月第三十八號布告

但明治十一年九月第三十號布告明治十五年十二月第六十五號布告及同年同第六十七號布告ハ明治十八

(三〇一) 年十二月一日ヨリ廢止ス

(四〇一)

米商會所并株式取引所收稅規則

第一條 會所并取引所ノ税金ハ左ノ割合ニ從ヒ每一ヶ月分ヲ翌月十日マテニ地方廳ニ上納スヘシ

米穀定期賣買

賣買各約定代金高

萬分ノ六(明治廿一年第七十五號ニテ改正)

賣買各約定代金高

萬分ノ三

公債証書定期賣買

賣買各約定代金高

萬分ノ六

諸株式定期賣買

第二條 定期内ニ轉賣又ハ買戻チ爲ス者ハ其轉賣買戻ニ係ル税金ハ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其税金ハ之ヲ還付セス

第四條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢査セシムヘシ

第五條 會所并取引所ニ於テ賣買約定ノ代金高ヲ詐リ脫稅シタルトキハ頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其會所并取引所ヨリ其脫稅ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ

遺失物取扱規則明治九年四月第五十六號布告

遺失物取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

遺失物取扱規則

第一條 凡ソ遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルコトヲ覺ラス及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルコトヲ證明スルニ於テハ直チニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第二條 凡ソ遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年内其主ナキハ之ヲ得者ニ給ス

榜示シ一年内其主ナキハ之ヲ得者ニ給ス

第三條 凡ソ遺失者ハ其遺失スル物品ノ摸樣員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ但シ得者ヨリ其返還ヲ得ルキモ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條 凡ソ遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルコトヲ得且ツ得者ニ報勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價額ヲ爭フキハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條 凡ソ遺失物ヲ得ルニ物品盜賊ニ係ルモノハ直チニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止々其費用ノミヲ償ハシム

第六條 官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルキハ之ヲ地主ト中分セシム(明治十四年第二號布告ニテ世書共改)

但シ盜賊ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

第七條 凡ソ遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサルキハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルコト第二條ノ如シ

第八條 凡ソ家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルコトヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルコト第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スルキハ律ニ照ラシテ處分ス

第九條 凡ソ逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シ八日内其主ナク

レハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルコト第二條ノ如シ

(五〇一)

分スルコト第二條ノ如シ

第十條 凡ソ遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヲ私物ニ異ナルヲナシ

(六〇一)

第十一條 凡ソ警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハズ遺失物ヲ得レハ速カニ之ヲ官ニ送り全ク其主ニ還附シ其主ナケレハ之ヲ官ニ没ス

第十二條 凡ソ一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セズ並ニ官ニ没ス

第十三條 凡ソ公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條 凡ソ遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若シハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

●賣藥印紙稅規則 明治十五年十月
第五十一號布告

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

一定價壹錢迄	印稅壹厘
一全 貳錢迄	全 貳厘
一全 三錢迄	全 三厘
一全 五錢迄	全 五厘
一全 拾錢迄	全 壹錢
以上總テ五錢毎ニ五厘ヲ增加ス	

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	淡黑色
貳厘	青色
三厘	黃色
五厘	茶褐色
壹錢	赭色
貳錢	綠色
三錢	濃青色
四錢	橙黃色
五錢	紫色
拾錢	深紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器及ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(七〇一)

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス
(印紙貼用雛形略之)

賣藥自用者無印紙賣藥買受所持者等處分明治十九年十月大藏省令第三十一号

賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受ケ讓受ケ預置キ又ハ所持スルヲ得ス犯ス者ハ金一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

○鐵道犯罪罰例明治六年三月第百一号布告

壬申第四百四十七號布告鐵道犯罪罰例別紙ノ通改正相成候條此旨相違候事

(別紙)

鐵道犯罪罰例

第一條 鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中醉ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ廿五圓以内ノ

罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アルキハ其事情ニ依リ

五百圓以内ノ罰金又ハ三月以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス(十二年第十二号布告ニテ禁綱ヲ禁獄ト改ム)

第二條 規則第四條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處

ス(十二年第十二号布告ニテ改正)

第三條 規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ十圓以内ノ罰金ニ處ス

第四條 規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第五條 規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ十圓以内ノ罰金ニ處ス

第六條 規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以

内ノ禁獄ニ處ス(十二年第十二号布告ニテ禁綱ヲ禁獄ト改ム)

第七條 規則第九條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五十圓以内ノ罰金又ハ六週間以内ノ懲役或ハ禁

獄ニ處ス(十二年第十二号布告ニテ禁綱ヲ禁獄ト改ム)

第八條 規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第九條 規則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス(十二年第十二号布告ニテ改正)

第十條 規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第十一條 規則第十七條ニ記スル所ノ諸荷物品書其外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品物書ヲ

出ス者ハ三箇月以内ノ懲役又ハ禁獄或ハ其品物一噸千七百斤ヲ云毎ニ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス一噸

以下八十圓以内ノ罰金高五百圓ニ過キス(十二年第十二号布告ニテ改正)

第十二條 鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照シ罰ヲ科スルノ外其毀損物ノ代價ヲ償ハシムル

トアルヘシ

但其償金ノ追徴モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フルハ法官ニ於テ追徴スヘシ

●傳染病豫防規則明治十三年七月第三十四号布告

明治十二年八月第卅二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺腸室扶私赤痢實布埵利亞發疹室扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルトキハ地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防法ヲ施行

スヘシ

(〇一一)

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戸長ニ通知スルヲ要ス戸長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳東京府下ハ府廳及ヒ警視本署ニ届出ヘシ(十八年第二十四號布告ニテ衛生委員トアルヲ總テ戸長ト改ム以下倣之)

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ戸長ニ通知スルモ妨ナシ
地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治愈死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘシ(十三年第五十四號布告ニテ本項追加)

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ(三十二年第五十四號布告ニテ削除ス)

第四條 (十三年第五十四號布告ニテ削除)

第五條 諸官廳兵營軍艦監獄又ヒ官立ノ學校病院製作所等ニ於テ傳染病者アルキ其主長ハ該地方官ト協議シ此ノ規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺赤痢發疹室扶私痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ其病院ヲ要スヘキト認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ戸長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難キト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムヘシ(十五年第四十七號布告ヲ以テ病名票トシムヘシ 貼付ノ機當分實施セサル旨達セラル)

但患者治愈死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

ムヘシ

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且ツ他ニ改葬スルヲ許サス
但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ授受賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ヒ厠園、芥溜、下水、溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナルキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルコトヲ得

此場合ニ於テハ醫師タルモノ吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病ヲ診斷スルトキハ總テ檢疫委員ニ届出ヘシ(十五年第四十八號布告ニテ本項但書共通加ス)

(一一一)

但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルコトヲ得

(二一一)

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサ、ル様
遮斷シ得ヘキモノト見認ムルトキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲ス
一ヲ得(十四年第五十八號布告本)
(項但書トモ追加セラル)

但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸室扶私病

第十六條 腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

實布埤里亞病

第十八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若ク

ハ埋却セシムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 發疹室扶私病者アルトキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條

第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ(十三年第五十四號布告ニテ改正)

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用

ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病アルトキハ第十條第十一條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシム

ヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ(十五年第四十八號布告ニテ改正ス)

罰則

第二十二條 醫師戶長此規則ニ違背シタルトキハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルトキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルトキハ一圓五十錢以内ノ科料ニ處ス

◎電信條例明治十八年五月第八號布告

電信條例別冊ノ通改定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年九月第九十八號布告十二年五月工部省第九號布達其他本條例ニ抵觸スル從前ノ布告布達

ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

(別冊)

電信條例

一章 電報

第一條 凡電報別テ三種ト爲ス

一 官報

二 局報

三 私報

第二條 官報局報私報各別テ七類ト爲ス

一 通常電報

二 至急電報

三 追尾電報

四 同文電報

五 照校電報

(三一)

六 受信電報

七 返信料前納電報

(四一一)
第三條 電報ヲ傳送スルノ順序ハ官報ヲ先トシ局報之ニ次キ私報又之ニ次クモノトス
第四條 電信局長ニ於テ法律規則ニ違背シ又ハ治安ヲ妨害シ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル私報ハ其傳送ヲ止ムヘシ

第五條 政府ハ時機ニ依リ線路又ハ地方又ハ語辭ヲ限リ私報ヲ停止スルコトアルヘシ

第二章 電報書法

第六條 凡電報ヲ書載スルニハ普通辭又ハ秘辭隱語ヲ問ハス和文ハ片假名及數字ヲ用ヒ歐文ハ羅馬字及亞刺比亞數字ヲ用フヘシ

第七條 電信局長ニ於テ私報ニ用フル秘辭隱語ノ解釋又ハ其台符原本ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ

第三章 電報料

第八條 凡電報料ハ國內ヲ通シテ同一ト爲ス但一市内及壹岐對馬ニ發着スルモノハ此限ニアラス

第九條 電報料及手數料ノ金額ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 電報料及手數料ハ電信切手ヲ以テ納ムルモノトス其切手ハ願信紙ニ貼付スヘシ但返信電報料ノ前納及尋問電報料ノ假納ハ貼付スルノ限ニアラス

第十一條 電信中央局及分局並電信切手賣下所ノ設ケアラサル地ヨリ郵便ニ付シテ電報ヲ發出スル時ハ郵便切手ヲ以テ電信切手ニ代用スルコトヲ得其郵便切手ハ願信紙ニ貼付セサルモノトス

第十二條 電報料及手數料ニ用ヒタル電信切手ハ電信中央局及分局ニ於テ消印スヘシ

第十三條 電報料及手數料ハ過納アルモ己ニ電信切手ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

未タ傳送セサル電報ヲ返還スルトキ己ニ消印シタルモノ亦同シ

第十四條 第四條ニ據リ私報ノ傳送ヲ止ムルトキハ其既ニ納メタル料金を還付セス

第十五條 電報取扱ノ過失ニ因テ甚シク遅延シ若クハ到達セサルモノハ其料金を還付ス照校電報ニシテ傳送ノ際誤謬ヲ生シテ其用辨ヲ闕キタルコト判然タルモノ亦同シ

第十六條 料金を還付ノ請求ハ發信ノ日附ヨリ六十日以内ニ電信局長ニ申出ヘシ此期限ヲ過クルトキハ一切之ヲ受理セス

第十七條 電報料及手數料ニ不足アルトキハ電信中央局及分局ニ於テ其電報ヲ傳送スルモ其不足ノ料金を二倍ヲ發信人ヨリ追納セシムヘシ

第十八條 發信人又ハ受信人ヨリ納ムヘキ料金を七日以内ニ徵收シ難キトキハ發信人ノ納メサルモノハ受信人ヨリ受信人ノ納メサルモノハ發信人ヨリ徵收スヘシ

第四章 電信切手

第十九條 電信切手ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ

第二十條 電信切手ハ電報料及手數料納濟ノ證トナスモノトス

第二十一條 電信切手ヲ賣ル者ハ電信局長ノ免許ヲ受ケ電信切手賣下所ノ標札ヲ掲クヘシ

第二十二條 電信切手ハ電信中央局及分局並電信切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第二十三條 電信切手ハ其額面ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第二十四條 返信電報料ノ前納及尋問電報料ノ假納ニ充ツル電信切手並電信切手ニ代用スル郵便切手ヲ願信紙ニ貼付シタルモノハ各其効用ヲ失フ

(五一一)

第二十五條 電信切手ノ汚斑毀損又ハ不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ但其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ證人ヲ立テ其理由ヲ證明シタルトキハ電信中央局及工部卿ノ告示ヲ以テ定メタ

ル分局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ

(六一一) 第二十六條 電信中央局及工部卿ノ告示ヲ以テ定メタル分局ニ於テハ四枚以上連續シタル電信切手ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第五章 電報發送

第二十七條 電報ノ傳送ハ電信中央局及分局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第二十八條 電信中央局及分局ノ廢置並開局時間ハ工部卿之ヲ告示スヘシ

第二十九條 電報ヲ依テスル時間ハ開局時間ニ限ルヘシ但至急官報ハ此限ニアラス

第三十條 發信人ノ請求アルニ非サレハ電報ノ受取證書ヲ交付セス之ヲ請求スルトキハ其手数料ヲ納ムヘシ

第三十一條 官報ハ官廳又ハ官吏ノ印ヲ捺捺スヘキモノトス但官報タルノ確證アルトキハ此限ニアラス

第三十二條 官報ノ原信ヲ證據トシテ差出ストキハ其返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得

第三十三條 電信中央局及分局ニ於テ私報ノ發信人タルノ證據ヲ要スルトキ其發信人ハ賴信紙ノ端末ニ署名捺印スヘシ

第三十四條 電報ハ其宛名ノ家又ハ本人ニ之ヲ配達スヘシ但受取ルヘキ人名ノ指定アルモノハ此限ニアラス

第三十五條 電報ヲ受取タル者ハ電報受取紙ニ時刻ヲ記入シ記名ノ下ニ捺印シ直ニ之ヲ配達人ニ交付スヘシ

第三十六條 宛名ノ家又ハ本人ニ屬セサル電報ノ配達ヲ受取タル者ハ其由ヲ附箋シ直ニ之ヲ着信局ニ返付スヘシ

其電報ヲ誤テ開封シタル者ハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書スヘシ

第三十七條 電信中央局及分局ヨリ一里ヲ越ヘサル地ニ配達スル電報ハ手数料ヲ要セス但別使配達島嶼配達船配達ハ此限ニアラス

第三十八條 電信中央局及分局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ配達スル電報ニシテ發信人ヨリ其配達方ヲ指定セサルモノハ先拂郵便ヲ以テ遞送スヘシ

第三十九條 郵便ニテ遞送スル電報ハ其郵便稅ヲ納ムヘシ
別使又ハ船船ヲ以テ配達スル電報ハ手数料ヲ納メ島嶼ニ配達スル電報ハ實費ヲ納ムヘシ

第四十條 受信人ニ配達シ能ハサル電報ハ着信局ニ留置キ本人或ハ其委任ヲ受ケタル代人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ若シ着信ノ日ヨリ六十日以内ニ請求スル者アラサルトキハ之ヲ沒書トナスヘシ

第四十一條 未タ傳送セサル電報ハ其發信人タルノ證據ヲ以テ返還ヲ請求スルトキハ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第四十二條 電報ノ傳送ヨリ生シタル損失又ハ異議アルモ電信局ハ一切其責ニ任セス

第六章 尋問改正

第四十三條 受信人電報ノ字句ニ疑惑アリテ尋問ヲ要スルトキハ其電報ヲ受取リタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ請求スルコトヲ得但其料金ヲ假納スヘシ

電信中央局及分局ニ於テハ其請求ニ應シ電報ヲ校正シ通信上ニ誤謬ナキトキハ假納ノ料金ヲ收スシ若シ誤謬アルトキハ之ヲ還付スヘシ

(七一) 第四十四條 發信人電報ノ字句ニ改正ヲ要スルトキハ其電報ヲ依テシタル時ヨリ七十二時以内ニ之ヲ請求スルコトヲ得但發信人タルノ證據ヲ差出スヘシ

第七章 閱覽正寫

(八一) 第四十五條 發信人又ハ受信人ハ電報發着ノ日ヨリ三十日以内ニ本人又ハ其代人タルノ證據ヲ以テ發着局ニアル原信ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得又其原信ニ相違ナキノ證印アル正寫ヲ請求スルコトヲ得其期限ヲ過キタルトキハ更ニ六十日以内ニ之ヲ電信局ニ請求スルコトヲ得此期限ヲ過クルトキハ一切之ヲ許サス原信ノ正寫ヲ請求スルトキハ其手数料ヲ納ムヘシ

第八章 電機私設

第四十六條 凡電氣ノ機器ヲ以テ通信傳話及號報ヲサントスル者ハ工部卿ニ願出ヘシ
第四十七條 私設ノ電線ハ官設ノ電線アラサル地ニ於テ一人又ハ兩人ノ用ニ供スル者ニ限り許可スル者トス但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ官設ノ電線アル地ニ於テモ許可スルコトアルヘシ
第四十八條 電線私設ノ許可ヲ得タル者ハ電信局ニ於テ定メタル規約ニ從フヘシ
第四十九條 私設ノ電線ハ最寄電信分局ニ連續設置スヘシ但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ此限ニアラス

第五十條 私設ノ電線ハ他人ノ電報ヲ傳送スルコトヲ許サス

第九章 海外電報

第五十一條 海外電報ハ同盟諸國ノ會議ヲ以テ定ムル所ノ萬國條約書ニ據リテ取扱フヘシ

第十章 罰則

第五十二條 第七條ヲ犯シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 第二十二條第二十三條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 第三十五條第三十六條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 第四十六條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其機器ヲ沒收ス

第五十六條 第四十八條第四十九條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其情狀ニ依リ

電線私設ヲ禁止ス

第五十七條 第五十條ヲ犯シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上百圓以下ノ罰金

ヲ附加シ其機器ヲ沒收ス

第五十八條 電線ヲ切斷セスト雖モ電氣ヲ吸引シ易キ物ヲ纏繞シテ不通ニ致シ若クハ其効力ヲ妨害シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十九條 疎虞懈怠ニ因リ電信ノ器械柱木條線ヲ損壞切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シ或ハ其効力ヲ

妨害シタル者ハ二十圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

其水底電信線ニ係ルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 電信ノ柱木條線ニ紙蓋ヲ懸ケ若クハ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ又ハ柱木及測量標木ニ獸類ヲ繫キ若クハ貼紙シ戲書シ又ハ柱木ノ記號及測量標木ヲ毀棄汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十

五錢以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 政府ノ指定シタル水底電信線路内ニ於テ艦船ヲ繫泊シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ土砂ヲ掘鑿シ又ハ電信線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其號標ヲ毀棄シタル者ハ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス政府ノ指定シタル電信線ノ號標距離内ニ於テ前項ノ所爲ヲ行ヒ又ハ航行シタル者亦同シ

第六十二條 偽計又ハ威力ヲ以テ電報ノ傳送配達及架線其他ノ工事ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(九一一) 第六十三條 己レニ屬セサル電報ヲ開封シ若クハ私用シ或ハ毀棄汚穢抑留隱匿シ若クハ受取人ニ非サル者ニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ收受シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 電信切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十五條 已ニ貼用シタル電信切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十六條 電信事務ヲ奉スル者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十七條 電信局長ノ許可ヲ得スシテ通信室ニ入りタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ入レタル者ハ一等ヲ加フ

第六十八條 電信事務ヲ奉スル者私報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但法律規則ニ從ヒ開披説明スルハ此限ニアラス

官報及局報ノ旨意ヲ漏泄シタル者ハ一等ヲ加フ

第六十九條 電信事務ヲ奉スル者賴信紙ニ貼用シタル切手ヲ剝取タルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印チナサ、ル切手ヲ剝取タル者ハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第七十條 電信事務ヲ奉スル者故ナクシテ通信ノ依托ヲ拒ミタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十一條 疎虞懈怠ニ因リ電報ヲ遺失シ又ハ傳送配達ヲ延滞シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第七十二條 配達人謝儀若クハ不當ノ賃錢ヲ要求シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第七十三條 第五十八條第六十二條第六十四條第六十五條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七十四條 第六十四條第六十九條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

勅令第二十一號 明治十九年四月

明治十八年五月第八號布告電信條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第七十一條ハ軍用電信ニ亦之ヲ適用ス

軍用電信事務ヲ奉スル者電信條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又電報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ電信條例第六十八條第二項ニ依リ處斷ス

電信條例第五十八條第六十二條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

裁判所呼出遲不參罰例 明治十年一月第五號布告

凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタルモノ疾病等ノ事故アリテ遲參又ハ不參スルキハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限迄ニ其裁判所ニ届出ヘシ若シ右刻限ヲ過キテ届出ルカ又ハ無届ニテ遲參不參スルキハ裁判官ニ於テ直ニ五錢以上十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

蠶種檢査規則 明治十九年八月農商務省令第九號

蠶種微粒子病(一名黑痣病)豫防ノ爲メ蠶種檢査規則左ノ通相定メ原種ノ檢査ハ明治二十年檢査期ヨリ施行シ製絲用種ノ檢査ハ同二十一年檢査期ヨリ施行ス

第一條 凡ソ蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣セントスル者ハ管轄廳ニ願出テ鑑札ヲ受クヘシ

(二二一)

第二條 蠶種ヲ製造スル者ハ此規則ニ從ヒ其検査ヲ受シヘシ
第三條 検査證印ナキ蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス
第四條 蠶種検査所ハ管轄廳ニ於テ管内便宜ノ地ニ之ヲ設置スヘシ
但地方ノ狀況ニ由リ巡回検査ヲナスモ妨ケナシ

第五條 蠶種検査員ハ管轄廳ニ於テ之ヲ命スヘシ
但検査ノ方法ハ別ニ訓令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 春蠶種ノ検査ハ毎年十月一日ヨリ始メ夏蠶種秋蠶種ノ検査期日ハ管轄廳ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス

第七條 蠶種ヲ製造スル者ハ春蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造額ヲ毎年七月三十一日マテニ夏蠶種秋蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造豫算額ヲ検査期日ヨリ三十日以前ニ管轄廳ニ届出ツヘシ

第八條 蠶種ニハ製造人ノ住所氏名又ハ會社若クハ組合ノ名稱ヲ記シ之ヲ原種販賣用種ノ製造ニ用フルモノヲ云フ製絲用種トニ區別シテ検査所ニ差出スヘシ

第九條 病毒ノ歩合原種ニ於テハ百分ノ五以下製絲用種ニ於テハ百分ノ十五以下ノモノニ検査證印ヲ付シ其以上ニ及フモノニハ都テ廢棄證印ヲ付スルモノトス

第十條 廢棄證印アル蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス

第十一條 蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣スル者廢業スルカ他ノ管轄地ニ寄留若クハ轉籍スルトキハ其管轄廳ニ届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

但寄留若クハ轉籍地ニ於テ營業セントスルトキハ第一條ニ據ルヘシ

第十二條 第一條第三條第十條ニ違ヒタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
●牛馬賣買規則明治五年十一月第三百三十號布告

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管内共區々ノ取計無之様可致候事

(別紙)

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀辛未十二月相達候處此度御詮議之次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ處置可致事

壬申十月

大 藏 省

(別紙)

牛馬賣買規則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬壹鼻綱ニ付免許鑑札一枚相渡可申事
但シ壹鼻綱ハ牛馬共七匹ニ限リ鑑札一枚ヲ所持スル者旅行ノキハ七匹以内二枚ヲ所持スル者ハ十四匹ニ限ル可シ其餘准之可申事

第二條 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事(七年第四十五號布告ニテ改正ス)

第三條 免許鑑札万一燒失流失盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札一枚ニ付一ケ年税金壹圓上納可致事

(三二一)

但シ右税金前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限各管轄廳へ取立租稅察へ上納可致尤モ新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致候事(八年第百十五號布告ニテ但書改正
十一年第四號布告ヲ以テ納期改正セラル)

第五條 免許鑑札燒印並ニ押切判ハ雛形ノ通り其管轄所ニテ製造致シ各稼人共ハ相渡可申事

(四二一)

但シ鑑札相渡次第縁人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添へ當省へ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上免許稅十倍ノ科料可申付事

但シ密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主へ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二褒美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代金並ニ科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行ニ付諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

第九條 免許鑑札ハ貸借決シテ不相成候事

但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡候者ハ免許稅五倍ノ科料可申付事(七年第百三十一號布告ニテ但書共追加ス)

右ノ鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其旨管轄廳へ届出新規鑑札可申受事

但手數料トシテ鑑札一枚ニ付金二十錢可相納事(八年第百六十六號布告ニテ但書トモ追加ス)
(雛形略之)

●危害品積込規則明治六年八月 第二百九十二號布告

危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚シキハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件ノ法測ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事

一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液并腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致候時ハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危險請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或

ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

一 尋常ノ物品トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受候時ハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラス何地ヲ論セス直チニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事

但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之時ハ船主會社等ノ入費ヲ以テ故ノ如ク荷造可致然レモ其荷物中ニ危害品有之時ハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事

一 此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社ノ倉庫等ニ於テ見出ス時ハ之ヲ安全ノ場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所へ可届出事

但安全ノ場所ニ之ヲ移スノ費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

一 此危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全ノ場所ニ保チ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保證人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ着港ノ上直ニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄廳或ハ裁判所へ可届出事

但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主ノ損失ヲ辨償スルニ不及事

一 船長及ヒ運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出ストイヘトモ官ニ訴へ出サル時ハ金二百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

●脚本樂譜條例明治二十年十二月 勅令第七十八號

朕脚本樂譜條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

脚本樂譜條例

(五二一)

第一條 演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ依リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得

第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權(即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルハ權)ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ

(六二一) 樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ
 第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スヲ得
 第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ
 第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

●郵便條例

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス

(別冊)

郵便條例目次

第一章 郵便物	自第一	至第十	七六
第二章 郵便稅	自第十一	至第二十	七六
第三章 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙	自第二十一	至第三十	七六
第四章 免稅郵便	自第三十一	至第四十	七六
第五章 書留郵便	自第四十一	至第五十	七六
第六章 郵便物遞送配達	自第五十一	至第六十	七六
第七章 別配達郵便	自第六十一	至第七十	七六
第八章 郵便私書函	自第七十一	至第八十	七六
第九章 留置郵便	自第八十一	至第九十	七六
第十章 貨幣封入郵便	自第九十一	至第一百	七六

第十一章 郵便沒書	自第一百	至第一百	七六
第十二章 郵便爲換	自第一百	至第一百	七六
第十三章 驛遞局貯金	自第一百	至第一百	七六
第十四章 外國郵便	自第一百	至第一百	七六
第十五章 罰則	自第一百	至第一百	七六

郵便條例

第一章 郵便物

第一條 凡郵便物別テ四種ト爲ス

一 書狀

二 郵便葉書及往復葉書(十七年第三十三號布告ニテ及己下五字ヲ追加)

三 毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附録

四 書籍帳簿各種ノ印刷物寫眞書畫繪圖野紙營業品ノ見本及雛形農産物種子(明治廿二年第廿一號ニテ改正)

第二條 何品ヲ問ハス此條例ニ抵触セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條 第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合装スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ

第五條 第二類郵便物左ニ記載シタル所爲アルモノハ第一種郵便物トナスヘシ

一 截斷又ハ破却シタルモノ

一 稅額印面ニ文字ヲ書シタルモノ

一 稅額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ

一 紙配達又ハ返戻ノ爲其他ノ品ヲ貼付シタルモノ

(八二一)

一 葉ヲ折リ之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ
一 表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ

第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ證シテ驛遞總官ノ認可ヲ受ケ驛遞局認可
ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ
其附録ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサスシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重
量ニ超過セサルモノニ限ルベシ

第七條 第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス

第八條 第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

第九條 營業品ノ見本及雛形ハ双方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ

第十條 營業者ニアラサルモノ、間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ

第十一條 異種ノ郵便物ヲ合裝スルトキハ總テ其種類中高額稅ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第
四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラズ

第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

第十三條 第三種第四種郵便物營業品ノ見本及雛形ヲ除クハ一個ノ重量三百目ニ超過スヘカラス

第十四條 營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量百匁ニ超過スヘカラス(明治二十二年第二十一號ニテ改正)

第十五條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス

第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

一 毒藥、劇藥、爆發燃燒シ易キ物品(十九年第四號布告ニテ本大項ヲ改正追加)

一 流動物、流動腐敗シ易キ物、膨化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷

害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵便局若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケタル後郵便ニ差出ス

モノハ此限ニアラス

一 風俗ヲ害スヘキ文書畫圖寫眞及物品

一金銀寶玉

一 貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便稅

第十七條 郵便稅ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物重量ニ匁ニ未滿亦同シ 貳錢

第二種郵便物(往復書一葉ニ錢) (十七年第三十三號布告ニテ往復以下八字ヲ追加ス)

第三種郵便物(一號一個ハ三匁十六匁毎ニ十六匁未滿亦同シ) (明治廿二年第廿一號ニテ改正)

第四種郵便物(三號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ十六匁未滿亦同シ) (明治二十二年第二十一號ニテ改正)

第十八條 郵便稅ハ郵便切手ヲ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタル者トス郵便封皮葉書往

復葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但驛遞總官ト約定アルモノハ此限ニアラス(七十

年第三十三號布告ニテ葉書ノ下往復葉書ノ四字ヲ加フ以下做之)

第十九條 納稅ニ用ヒタル郵便切手并封皮葉書往復葉書帶紙ノ稅額印面ハ郵便局ニ於テ消印スヘ

シ

第二十條 郵便稅ニ過納アルモ已ニ其稅額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第二十一條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

受取人其郵便物ヲ受取リタルトキハ其納稅ヲ拒ムヘカラス

受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徵收スヘシ

(九二一)

第二十二條 未納税又ハ不足税ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徵收

スヘシ差立前ニ係ル未納税又ハ不足税ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ

(三) 第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納税又ハ

不足税ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便税ハ郵便税完納ニ限ルヘシ

未納税又ハ不足税ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十五條 未納税又ハ不足税ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手

ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第三章 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙

第二十六條 郵便切手封皮郵便封皮郵便葉書往復葉書帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘ

シ

第二十七條 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ハ郵便税納ノ證トナシ又郵便切手ハ書留手數料并別

配達料納濟ノ證トナスモノトス

第二十八條 郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ依テ税額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ

以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條 郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ税額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第三十條 郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一個ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモ

ノニ限ルヘシ

第三十一條 郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ驛遞局ニテ賣下クヘシ

第三十二條 郵便切手封皮葉書往復葉書ヲ賣ルモノハ驛遞總官ノ免許ヲ受ケ郵便手切賣下所ノ標

板ヲ掲クヘシ

第三十三條 郵便切手封皮葉書往復葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘ

カラス

第三十四條 郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書往復葉書ノ印面税額ヨリ低價

ヲ以テ賣ルヘカラス

第三十五條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ノ税額印面ヲ切取り郵便切手ニ代用スルモ其効用ヲ有セ

ス

第三十六條 郵便切手並封皮葉書往復葉書帶紙ノ汚斑毀損捺印アルモノ及税額印面不明瞭ナルモ

ノハ其効用ヲ失フ然レモ其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ證人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラ

シムルトキハ驛遞局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ

第三十七條 驛遞局及一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手並封皮葉書往復葉書帶紙

ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第四章 免稅郵便

第三十八條 郵便、郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其税ヲ免除ス

第三十九條 免稅郵便物ハ驛遞局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所並以上各廳派出官吏相互ノ間

又ハ之ト往復スルモノニ限ルヘシ

(一三) 第四十條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ

第四十一條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ派出官

吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十二條 人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四十三條 免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ附シタルモノハ相

當種類ノ郵便稅ヲ徵收スヘシ

第五章 書留郵便

第四十四條 書留郵便物ハ郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受授ヲ證スルモノトス

第四十五條 書留手數料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラヌ六錢トス

第四十六條 書留郵便物ハ郵便稅手數料共前納ニ限ルヘシ

第四十七條 書留手數料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第四十八條 書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ郵便局若クハ郵便受取所ニ於テ之

ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局若クハ郵便受取所ノ印及主務者ノ印ヲ捺セル受取證
書ヲ受領スヘシ

第四十九條 書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタ

ル受取證書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五十條 免稅郵便物ハ書留手數料ヲ納ムルニ及ハス

第六章 郵便物遞送配達

第五十一條 郵便物遞送配達ハ郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第五十二條 郵便局ノ廢置ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十三條 郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛タルモノハ其内ノ一名ニ配達スヘシ肩書

寄附所ノ類以下之ニ依テアルモノハ其肩書ノ家ニ配達スヘシ

第五十四條 完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免稅郵便物亦同シ但市外別配

達料船船料貨幣遞送配達賃ニ追納アルモノハ此限ニアラス

第五十五條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物受取人ニ於テ其稅ヲ納メサルトキハ之ヲ受取ルヲ得ス

第五十六條 郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脱シ或ハ音信文ヲ讀過スルトキハ之ヲ受取リ

タルモノトナスヘシ但第百十五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五十七條 郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人

ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出スヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ

留メ置クモ日數三十日ニ過クヘカラス

第五十八條 其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルキハ其由ヲ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第五十九條 配達シ能ハス或ハ未納稅又ハ不足稅ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其差出人

ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ之ヲ其内ノ一名ニ還付スヘシ

第六十條 第十三條第十四條第十五條ニ背戾スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第六十一條 差立前ニ係ル郵便物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第六十二條 第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ

第六十三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラス

第六十四條 郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委託スヘカラス又集配人ハ其委託

ヲ受クヘカラス

第六十五條 郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之ヲ秤量ヲナサス

第六十六條 郵便物ノ損害紛失及其損害紛失又ハ遲達ヨリ生シタル損失ハ驛遞局之ヲ償フノ責ニ

(三三一)

任セス

第六十七條 書狀ハ郵便局ヲ經由セサレハ之ヲ送達シ又ハ送達セシムヘカラス但左ニ記載シタル

(四三一)

モノハ此限ニアラス

- 一 送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ
- 一 郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ
- 一 貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀

第六十八條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル軍送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

- 一 第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額
- 一 第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セサル額

第六十九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便局ニ届出ツヘシ

第七十條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラス

第七十一條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ

第七十二條 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラサレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七十三條 郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便局ニ於テ調査ノ爲メ其郵便物ノ封皮帶紙又ハ葉書往復葉書ノ交付ヲ求メラルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章 別配達郵便

第七十四條 別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラズ別ニ急速ノ配達ヲナスモノトス

第七十五條 別配達別テ二類ト爲ス

- 一 市内郵便局所在地別配達
- 一 市外郵便局未設地別配達

第七十六條 市外別配達料ハ東京京都及大阪ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス

第七十七條 市外別配達料ハ配達ノ郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス十八町未満亦同シ

第七十八條 別配達ハ郵便税并別配達料共前納ニ限ルヘシ

第七十九條 別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第八十條 市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徴収スヘシ

第八十一條 市外別配達料不足額ヲ徴収スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第八十二條 船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ船料受取人ヨリ徴収スヘシ

第八十三條 市外別配達料不足額又ハ船料ヲ受渡人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

(五三一)

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徴収スヘシ

第八十四條 別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ船料ノ納付ヲ拒ムヘカ

(六三一)

第八十五條 別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス
 第八十六條 甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナスヘシ
 第八十七條 市内別配達其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ
 第八十八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ其郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八十九條 別配達トノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達スヘシ

第九十條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ
 第九十一條 免稅郵便物ハ別配達料船料ヲ納ムルニ及ハス

第八章 郵便私書函

第九十二條 郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條 私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セス私書函ニ入置クヘシ

第九十四條 私書函貸與料ハ一ヶ月金三圓以下ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第九十五條 私書函貸與期限ハ一ヶ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九十六條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入レスシテ其住所ニ配達スヘシ

第九十七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一個ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條 私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章 留置郵便

第九十九條 留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ

第一百一條 留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ

第一百二條 留置郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ

第一百三條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第一百四條 留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ

留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章 貨幣封入郵便

第一百五條 貨幣封入郵便物ハ驛遞總官ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムルモノトス

第一百六條 貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣遞送賃ハ差出人ニ於テ前納シ配達賃ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第一百七條 貨幣遞送賃及配達賃額ハ驛遞總官各郵便局ニ揭示スヘシ

第一百八條 封入ノ金額ハ三十圓ニ超過スヘカラス

第一百九條 封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ

第二十條 貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ

第七三 第一百一條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ

第百十二條 貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ證トシテ受授スヘシ

(八三一) 第百十三條 貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便局ニ設ケアル員數證書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印刷ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送賃ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取證書ヲ受領スヘシ

第百十四條 本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上添捺スヘシ

第百十五條 貨幣封入郵便ニアラサル郵便物中貨幣封入アル郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送賃及配達賃ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第百十六條 貨幣遞送賃又ハ配達賃ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額并還付ノ貨幣遞送賃及配達賃ヲ徴收スヘシ

第百十七條 貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞送賃及前後ノ配達賃ヲ徴收スヘシ

第百十八條 貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第百十九條 貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送賃又ハ配達賃ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第百二十條 貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クル者アルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百二十一條 郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第百二十二條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ強盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ

能ハサル實證アルモノ、外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第十一章 郵便沒書

第百二十三條 郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ没入スルモノトス

第百二十四條 驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第百二十五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ保存スヘシ

沒書中貨幣或ハ諸證書又ハ有價ノ物品アルトキハ驛遞局ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ

第百二十六條 沒書ヲ一ケ年内ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ没入スヘシ

第百二十七條 沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸證書ハ手数料ヲ徴收セスト雖モ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十分一ヲ手数料トシテ徴收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第百二十八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ但驛遞局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章 郵便爲替

第百二十九條 郵便爲替ハ驛遞總官ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フモノトス

第百三十條 爲替ヲ取扱フ郵便局ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

(九三一) 第百三十一條 爲替證書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第百三十二條 爲替料ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便局ニ揭示スヘシ

第四百三十三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出
ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス

第四百三十四條 爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替
料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替證書ヲ受領スヘシ

第四百三十五條 爲替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第四百三十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セス

第四百三十七條 爲替受取人其爲替證書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナルトキ又
爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ驛遞局ニ其證書ヲ納付シテ書
換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル證書ヲ受クルヲ得

第四百三十八條 爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替證書ト引替ニ限ルヘシ
但郵便局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第四百三十九條 爲替受取人ハ其爲替證書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ
爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受ルトキ亦同シ

第四百四十條 爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金ヲ受取ルヲ得ス

第四百四十一條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ル者ハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且
代人ハ第四百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第四百四十二條 官衙社寺會社ニ宛テタル爲替金ヲ受取ルトキハ其爲替證書ノ裏面ニ官衙社寺會社
ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第四百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第四百四十三條 官衙社寺會社ノ受取ルヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其所屬人
ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハス又第四百四十一條ニ依ル能ハサルトキハ第四百四十二條ニ
依ルヲ得

第四百四十四條 官衙社寺會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル爲替金ノ返戻ヲ受クルトキモ
第四百四十二條第四百三十四條ノ手續ニ依ルヘシ

第四百四十五條 爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ百二十日ヲ限リトス

第四百四十六條 効用ヲ失ヒタル爲替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ驛遞局ニ納付シ其書換ヲ請求ス
ヘシ

第四百四十七條 爲替證書効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ケ年以内ニ其書換ヲ請求セサルトキハ驛遞總官
新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年以内ニ爲替證書ノ書換ヲ請求スルトキハ其爲替金十分ノ一ヲ手数料トシテ
徴收スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年ヲ過ルモ尙ホ其爲替證書ノ書換ヲ請求セサルモ其爲替金ヲ没入スヘシ

第四百四十八條 爲替證書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚損毀損シ判明ナラサルトキハ差出人ニ於テ證人ヲ
立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ證書ヲ請求スヘシ

第四百四十九條 爲替金ヲ返戻シ又ハ證書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ證書ヲ交付スルハ其原證書ニ對スル
報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ

第四百五十條 爲替證書ノ書換又ハ再度ノ證書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘシ但郵
便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

爲替證書ノ書換及再度ノ證書ヲ同時ニ請求スルモ兩様ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハス
第四百五十一條 再度ノ爲替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替證書ヲ見出シタルトキハ之ヲ驛

(一四一)

遞局ニ納付スヘシ

(一四二) 第百五十二條 爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルコアルヘシ
第百五十三條 爲替證書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書未達ノトキハ爲替金ノ拂渡ヲ延引
スヘシ

第百五十四條 爲替金ノ受渡ニ属スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス
第百五十五條 郵便爲替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス
第百五十六條 此章ノ規則ニ從ヒ爲替金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其
責ニ任セス

第十三章 驛遞局貯金

第百五十七條 驛遞局貯金ハ驛遞總官ノ指定スル貯金預所ニ於テ取扱フモノトス
第百五十八條 貯金預所ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百五十九條 一人一度ノ預ケ金額ハ十錢以上トシ端數ハ厘位ヲ限リトス
一日ノ預ケ金額ハ五十圓以下トス

第百六十條 一度ニ五十圓以上ヲ預ケントスルモノハ其都度貯金預所ニ設ケアル願書用紙ニ式ノ
如ク記載調印シ驛遞總官ノ認可ヲ請フヘシ

第百六十一條 貯金ニハ利子ヲ付ス其利子ノ割合ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ且貯金
預所ニ揭示スヘシ但十錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ付セス

第百六十二條 貯金ヨリ生シタル利子ハ毎年六月十二月ニ於テ之ヲ元金ニ加ヘ驛遞局ノ原簿ニ登
記スヘシ

第百六十三條 貯金ハ預リタル月ト拂戻ス月ハ利子ヲ付セス但驛遞局ヨリ拂戻證書ヲ發シタル月

ヲ以テ拂戻月トナスヘシ

第百六十四條 貯金ヲ拂戻ストキ厘位未滿ノ端數ハ切捨ツヘシ

第百六十五條 始テ預ケ金ヲナスモノハ貯金預所ニ設ケアル預ケ願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ
之ヲ其貯金預所ニ出スヘシ但印判ヲ所持セサルモノハ引受人ヲ立ツヘシ

第百六十六條 貯金預ケ人ハ貯金預所ニ於テ貯金通帳ヲ受領シ其表紙ニ式ノ如ク記載調印シ此通
帳ヲ預ケ金ヲ爲ス毎ニ預ケ金ト共ニ貯金預所ノ主務者ニ交付シ預ケ金ノ記入ヲ受ケ其通帳ヲ所
持スヘシ

第百六十七條 貯金通帳ハ預ケ金受授ノ證トナスヘシ

第百六十八條 貯金預所ニ於テ預ケ金ヲ受取ルトキハ通帳ニ其金額及年月日ヲ記入シ貯金預所ノ
印ヲ捺シ且主務者記名調印スヘシ

第百六十九條 一人ノ貯金預所ヨリ受領シタル通帳ヲ以テ何レノ貯金預所ニモ預ケ金ヲナスヲ得
第百七十條 既ニ貯金通帳ヲ受領シ所持セルモノハ何レノ貯金預所ニ於テモ別ノ通帳ヲ受領スル
ヲ得ス

第百七十一條 貯金通帳金額記載ノ部餘白ナキニ至リ更ニ通帳ヲ要スルトキハ驛遞局ニ其通帳ヲ
差出シ再度ノ通帳ヲ請求スヘシ

第百七十二條 貯金預ケ人ハ滿六ヶ月毎ニ驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ原簿照合及利子記入ヲ受ク
ヘシ

(一四三) 第百七十三條 預ケ金ヲナストキハ驛遞局ノ原簿ニ登記シ且貯金領收通知書ヲ其預ケ人ニ送達ス
ヘシ

第百七十四條 貯金預ケ人ハ預ケ金ヲナシタル日ヨリ左ノ期日內ニ貯金領收通知書到達セザルト

(四四一)

キハ其期日ヨリ十五日内又到達スルモ記載ノ金額并年月日ニ相違アルトキハ到達ノ日ヨリ十五日内ニ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ但申告書ハ郵便局ニ出シ其受取證書ヲ受領スヘシ

一東京

十日

一東京ヨリ百里未満

三十日

一東京ヨリ百里以外

六十日

第百七十五條 第百七十四條ノ申告書ヲ出サ、ルトキハ其預ケ金額驛遞局ノ原簿ニ登記ナキカ或ハ原簿登記ノ金額年月日ト其預ケタル金額年月日ト符合セサルモ驛遞局ハ原簿ニ登記シタルモノ、外其責ニ任セス

第百七十六條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金預所ニ於テモ其貯金金額若クハ幾分ノ拂戻ヲ請求スルヲ得但赤タ元金ニ加ヘサル利子ハ貯金ノ全額ヲ拂戻ストキニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス

第百七十七條 貯金拂戻願人ハ貯金預所ニ設ケアル拂戻願書用紙ニ金額其他式ノ如ク記載調印シ通帳ヲ添ヘ貯金預所ヲ經由シテ驛遞局ニ出スヘシ但貯金預所ヨリ通帳ノ受取證書ヲ受領スヘシ

第百七十八條 第百七十七條ノ拂戻願書及通帳ヲ驛遞局ニ於テ領收シタルトキハ貯金拂戻證書ヲ拂戻願人ニ送達スヘシ

第百七十九條 貯金ノ全額ヲ拂戻ストキハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻スルハ驛遞局ニ於テ其通帳ニ拂戻金額及年月日ヲ記載シ官印ヲ捺シ且主務者調印シ貯金預リ所ヲ經由シテ返付スヘシ

第百八十條 貯金拂戻願人ハ拂戻證書ニ式ノ如ク記名調印シ貯金預所ニ交付シ拂戻金ヲ受取ルヘシ

第百八十一條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ルモノハ拂戻證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第百八十條ノ手續ヲナスヘシ

第百八十二條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日附ヨリ左ノ期日内ニ受取ルヘシ期日ヲ失スルトキハ更ニ驛遞局ニ其證書ノ書換ヲ請求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス

一東京

十五日

一東京ヨリ百里未満

廿五日

一東京ヨリ百里以外

四十日

第百八十三條 貯金預ケ人死亡シタルトキハ其相續人ニ於テ證人ヲ立テ相續人タルヲ證スル書面ヲ出シ且其相續人ハ第百七十七條ノ手續ヲナシ貯金拂戻ヲ請求スヘシ

第百八十四條 預ケ金ヲナストキ引受人ヲ立ツルモノハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ氏名ヲ記シ其引受人亦記名調印スヘシ

第百八十五條 社寺會社ノ名ヲ以テ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且擔當者一名記名調印スヘシ

第百八十六條 二人以上共同シテ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ其總代人一名記名調印シ且共同者中ノ一名記名加印スヘシ

第百八十七條 社寺會社及共同ノ貯金ハ其社寺會社若クハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト看做スヘシ

第百八十八條 貯金預ケ人氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ其屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百八十九條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者氏名變換改印轉籍轉住スルハ貯金預ケ人連印引受人アル貯金預ケ人ハ氏名ノ逆記ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者變更アルトキハ後任者及貯金預ケ人連印引受人アル貯金預ケ人ハ氏名ノ逆記ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

(五四一)

(六四一)

第百九十一條 共同貯金ノ總代人ヲ變更セントスルトキハ前任後任ノ總代及加印者連印ノ願書ヲ

驛遞局ニ出スヘシ但前任ノ總代人連印スル能ハサルトキハ證人ヲ立ツヘシ

第百九十二條 貯金預ケ人其引受人ヲ解カントスルトキハ印鑑ヲ添ヘ其引受人連印ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十三條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ速ニ其屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十四條 貯金通帳又ハ貯金拂戻證書ヲ失ヒタルトキ或ハ汚斑毀損シテ判明ナラサルトキハ

證人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ再度ノ通帳又ハ拂戻證書ヲ請求スヘシ

第百九十五條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ再度ノ通帳ヲ發シタル日ヨリ九十日間其貯金ノ拂戻ヲ

請求スルヲ得ス

第百九十六條 再度ノ貯金通帳ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル通帳ヲ見出シタルキハ舊通帳ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百九十七條 驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ又ハ再度ノ通帳或ハ貯金拂戻ヲ請求シタル場合ニ於テ

第百七十四條ニ記載シタル期日内ニ通帳返付ナキカ又ハ再度ノ通帳或ハ拂戻證書到達セザルト

キハ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ

第百九十八條 貯金通帳ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ許サス

第百九十九條 驛遞局又ハ貯金預所ニテ證人ヲ要スルトキハ貯金預ケ人之ヲ拒ムヘカラス

第二百條 貯金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第二百一條 貯金拂戻方延滞シ爲メニ預ケ人ノ損失ヲ生スルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第二百二條 此章ノ規則ニ從ヒ貯金ヲ拂戻シタル後ハ其拂戻方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第十四章 外國郵便

第二百三條 凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

一 書狀

二 郵便葉書及往復葉書(十七年第三十三號布告ニテ及以下五字ヲ追加ス)

三 書籍、各種ノ印刷物、寫眞、畫圖

四 詞訟上及商用上ノ書類

五 商品ノ見本

第二百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ抵觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

トナスヘシ

第二百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

トナスヘシ

第二百七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合装スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

スヘシ

第二百八條 第三項第四項郵便物ハ一個重量ニ「キログラム」凡五百三十二ニ超過スヘカラス

第二百九條 第五項郵便物ノ大サハ長二十「センチメートル」凡四尺六寸幅十「センチメートル」凡三寸

厚五「センチメートル」凡一寸六分又其重量ハ二百五十「グラム」凡五分五厘ニ超過スヘカラス

第二百十條 第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

(七四一)

第二百十一條 第二項郵便物ハ萬國郵便聯合葉書往復葉書ヲ用ユヘシ

(八四一)

第二百十二條 第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百十三條 第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百十四條 左ニ記載スルモノハ外國ニ差立郵便物トナスヘカラス

一 貨幣又ハ高價ノ物品

一 關稅ヲ拂フヘキ物品

一 流動物、流動腐敗シ易キ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷

害スヘキ物品(十九年第四號布告ニテ本項及次項ヲ改正追加ス)

一 第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

第二百十五條 郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便税ノ一部分ヲ前納

シタルモノニ限ルヘシ

第二百十六條 郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便税完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘ

キ郵便税ハ此限ニアラス

第二百十七條 第二百八條第二百九條第二百十條第二百十三條第二百十五條第二百十六條ニ背展

スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納税又ハ不足税ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條 書留郵便物ハ郵便税書留手数料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條 郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取證書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキ

ハ郵便税書留手数料ノ外増手数料ヲ前納スヘシ

第二百二十條 郵便税書留手数料及増手数料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條 郵便税書留手数料増手数料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ驛遞總官公告スヘシ

第二百二十二條 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ内國又ハ同

上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノ、外之ヲ紛失シタル國ノ驛遞局ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十フランク(一)フランクハ凡金貨二十錢若クハ他ノ貨幣ニテ同

額ノ償金ヲ拂フヘシ

書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ内國ニ到達スル書留郵便物ヲ内國遞送中紛失シタルトキ亦同シ

第二百二十三條 軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送貨額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ

之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一 第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セサル額

一 第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル事

第二百二十四條 第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條

ノ規則ハ此章ノ郵便葉書往復葉書ニ亦適用スヘシ

第二百二十五條 第十二條第十九條第二十條第二十一條第三項第二十二條第二十五條第四

十四條第四十八條第五十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條第二百十二條ノ

除ク第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第百條及第十一章ノ規則ハ内國ヨ

リ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

(九四一)

第二百二十六條 第二十一條第一項第二項第二十五條第四十四條第四十九條第五十一條第五十三

條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第六十三條第六十六條第二百二十二條第七十三條第九十九條第一百條第一百零一條第一百零四條第一百零七條第一百零八條第一百零九條第一百十一條第一百十二條第一百十三條第一百十四條第一百十五條第一百十六條第一百十七條第一百十八條第一百十九條第一百二十條第一百二十一條第一百二十二條第一百二十三條第一百二十四條第一百二十五條第一百二十六條第一百二十七條第一百二十八條第一百二十九條第一百三十條第一百三十一條第一百三十二條第一百三十三條第一百三十四條第一百三十五條第一百三十六條第一百三十七條第一百三十八條第一百三十九條第一百四十條第一百四十一條第一百四十二條第一百四十三條第一百四十四條第一百四十五條第一百四十六條第一百四十七條第一百四十八條第一百四十九條第一百五十條第一百五十一條第一百五十二條第一百五十三條第一百五十四條第一百五十五條第一百五十六條第一百五十七條第一百五十八條第一百五十九條第一百六十條第一百六十一條第一百六十二條第一百六十三條第一百六十四條第一百六十五條第一百六十六條第一百六十七條第一百六十八條第一百六十九條第一百七十條第一百七十一條第一百七十二條第一百七十三條第一百七十四條第一百七十五條第一百七十六條第一百七十七條第一百七十八條第一百七十九條第一百八十條第一百八十一條第一百八十二條第一百八十三條第一百八十四條第一百八十五條第一百八十六條第一百八十七條第一百八十八條第一百八十九條第一百九十條第一百九十一條第一百九十二條第一百九十三條第一百九十四條第一百九十五條第一百九十六條第一百九十七條第一百九十八條第一百九十九條第二百條

第十五章 罰則

第二百二十七條 第十六條第三十三條第三十四條第六十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條 第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス 遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條 第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買若クハ牙保ヲナシタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 郵便事務ヲ奉スルモノハ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條 疎虞懈怠ニ因リ郵便物ヲ失ヒタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス 書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條 有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐偽ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物ノ未納稅又ハ不足稅ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十八條 不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

行フ處不良ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條 驛遞總官ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ驛遞局認可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦同シ

第二百四十條 未納稅又ハ不足稅及ヒ別配達料船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徴收スヘキ郵便稅別配達料船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ徴收セサルトキ亦同シ

第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(四五一)

- 一 航行シ得ヘキ場所ノ定限
- 一 證書有効期限
- 一 汽船ニハ左ノ事項ヲ加フ
- 一 公稱馬力
- 一 汽機ノ種類
- 一 汽罐ノ種類
- 一 最大汽壓
- 一 旅客定員

第八條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ不適當ト認ムルトキハ其修理ヲ命シ或ハ出航ヲ差止ムヘシ

第九條 検査證書ノ効力ハ其船ノ現状ニ依リ六箇月十二箇月ニ區別ス

第十條 検査證書ハ船内最モ見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ

第十一條 検査證書ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ其理由ヲ詳記シ再渡ヲ願出ヘシ

第十二條 船名船主及ヒ定繫場ヲ變更シタルトキハ農商務省又ハ地方廳ニ届出ヘシ

第十三條 船體若クハ汽機汽罐其他要部ノ修理若クハ變更ヲナシタルトキハ更ニ検査ヲ受クヘシ

第十四條 船舶航行ノ用ヲ爲サ、ルニ至リタルトキ又ハ除籍トナリタルトキハ直ニ検査證書ヲ農

商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ

第十五條 検査證書ノ有効期限内ト雖モ検査官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨檢スルコト

アルヘシ

第十六條 船舶ノ検査ヲ受スシテ航行シ又ハ無効ノ検査證書ヲ使用シ又ハ検査證書ニ記載セル最

大汽壓ヲ超過シ或ハ場所ノ定限ヲ越エテ航行シ又ハ検査官吏ノ命ニ違背シ修理セスシテ出航シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ出航シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 検査證書ニ記載セル端船其他必要ノ所屬品ヲ具ヘヌ又ハ旅客定員ヲ超過シテ航行シ又

ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 検査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セス

第二十條 第十一條第十二條第十四條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 検査細則及ヒ施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム

●專賣特許條例明治十八年四月
第七號布告

專賣特許條例別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但明治四年四月七日布告專賣零規則及明治五年三月第百五號布告ハ廢止ス

(別冊)

專賣特許條例

第一條 有益ノ事物ヲ發明シテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ農商務卿ニ願出其特許ヲ受クヘシ

農商務卿ハ其專賣ヲ特許スヘキモノト認ムルトキハ專賣特許證ヲ下付スヘシ

第二條 專賣特許ヲ願出ルニハ其願書ニ發明ノ明細書并必要ノ圖面ヲ添フヘシ但時宜ニ依リ其現

品又ハ雛形ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第三條 專賣特許ノ年限ハ專賣特許證ノ日附ヨリ起算シ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 左ノ諸項ニ觸ル、モノハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス

- 一 他人ノ既ニ發明シタルモノ

(五五一)

但他人ヨリ讓受ケタルモノハ此限ニアラス

- 二 專賣特許願出以前公ニ用ヒラレ又ハ公ニ知ラレタルモノ
- 三 治安、風俗、健康ヲ害スヘキモノ
- 四 醫藥

第五條 軍用ニ必要ナリト認メ又ハ廣ク用ヒシムルコトヲ必要ナリト認ムル發明ニハ農商務卿ニ於テ專賣特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタルモノト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ其發明者ニ下付スヘシ

第六條 專賣特許ヲ願出ルノ權及專賣ノ權ハ相續者ニ傳ハルヘキモノトス

相續者ニ於テ專賣ノ權ヲ相續シタルトキハ三ヶ月以内ニ農商務省ニ届出ヘシ

第七條 專賣ノ權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ農商務卿ニ届出ヘシ

第八條 專賣人其發明ヲ改良シタルトキハ追加專賣特許ヲ願出ルコトヲ得但追加特許ハ原專賣特許ノ年限ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 專賣人ノ發明ヲ改良シテ專賣特許ヲ得ント欲スル者ハ專賣人ノ承諾ヲ經ヘシ

專賣人其承諾ヲ拒ミ農商務卿ニ於テ改良ニ妨アリト認ムルトキハ其發明ヲ改良ノ部分ト合セ使用スルノ特許ヲ改良者ニ與フルコトアルヘシ

第十條 前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ改良者ヨリ專賣人ニ與ヘシムヘシ

第十一條 專賣人ハ其發明品ニ專賣特許證ノ年月日及年限ヲ標記スヘシ品柄ニ由リ標記スルコトヲ得サルモノハ其上包等ニ標記スヘシ

第十二條 專賣人ノ名簿及發明ノ明細書圖面等ハ農商務省ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スヘシ

第十三條 專賣特許證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ農商務卿ニ届出ヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ專賣特許無効ニ歸シ其特許證ヲ返納セシムヘシ

一 第四條ノ諸項ニ觸レタルコトヲ發見シタルトキ

二 願書并明細書圖面等ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ專賣ノ權ヲ失フ

一 專賣特許證ノ日附ヨリ二年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セス又ハ事故ヲ届出スシテ二年間之ヲ中止シタルトキ

二 專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シタルトキ

第十六條 專賣特許證ヲ下附シタルトキ及專賣特許無効ニ歸シタルトキ又ハ專賣ノ權ヲ失ヒタル者アルトキハ農商務省ヨリ之ヲ廣告スヘシ

第十七條 專賣特許ニ係ル願書ニハ左ノ區別ニ從ヒ證券印紙ヲ貼用スヘシ (明治二十年勅令第八號ニテ本條改正ス)

- 一 專賣特許、追加特許 金三圓
- 二 專賣權ノ讓與分與 金五圓
- 三 專賣特許證ノ再渡 金一圓

- 一 五年ノ專賣特許 金十圓
- 二 十年ノ專賣特許 金十五圓
- 三 十五年ノ專賣特許 金二十圓

第十七條 專賣特許ヲ願出ル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ但願書ヲ却下スルルハ之ヲ返付スヘシ

- 一 五年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金十圓

(八五一)

二十年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金十五圓
 十五年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金二十圓
 四 讓與分與ヲ願出ル者 金五圓
 五 追加特許ヲ願出ル者 金五圓
 六 專賣特許證ノ再渡ヲ願出ル者 金一圓

第十八條 專賣特許ノ事務ニ關スル官吏ハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス
 第十九條 專賣人其專賣權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ并要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得但第十條ノ標記ヲ爲サ、ルトキハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス
 第二十條 專賣特許ノ發明品ヲ偽造シ若クハ外國ヨリ輸入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二十一條 專賣特許ノ機械又ハ方法ヲ以テ製造シタル物品ト同一種類ノ物品ニ專賣人ノ記號ニ紛ラハシキ記號ヲ用ヒタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二十二條 第二十條第二十一條ノ犯罪ニ係ル物品ヲ情ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十三條 第二十條第二十一條第二十二條ノ場合ニ於テハ其物品及犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收シテ專賣人ニ給付シ其既ニ賣却キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス
 第二十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二十五條 第六條第二條第十二條ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

ノ科料ニ處ス
 第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
 第二十七條 第二十條第二十一條第二十二條ノ犯罪ハ專賣人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 第二十八條 專賣人告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

◎船燈信號器製造販賣規則 明治十九年七月 逓信省令第十九號
 船燈信號器製造販賣規則左ノ通相定ム

但明治十四年農商務省甲第四號布達ハ廢止ス

船燈信號器製造販賣規則

第一條 船燈船燈發火信號器星火ヲ發スル榴彈或ハ火筒信號器ヲ製造セントスル者ハ其管轄廳ヲ經テ製造品ノ見本ヲ差出シ逓信省ノ許可ヲ受クヘシ
 第二條 發火信號器ノ許可ヲ乞フトキハ製造人又ハ代理人各種共十箇以上ノ見本ヲ携帶シテ逓信省ノ試験ヲ受クヘシ但試験入費ハ出願人ヲシテ負擔セシム
 第三條 逓信省ハ船燈發火信號器ノ見本ヲ合格ト見認ムルトキハ管轄廳ヲ經テ製造免許證ヲ下付スヘシ
 第四條 免許製造ノ船燈、發火信號器ニハ其製造人ノ氏名ヲ彫刻又ハ貼付スヘシ
 第五條 免許製造ノ船燈、發火信號器ヲ販賣セントスル者ハ其管轄廳ノ許可ヲ受クヘシ但免許製造人ニ於テ販賣スルハ此限ニアラス
 第六條 船燈發火信號器ノ製造又ハ販賣免許ヲ受ケタル者ハ各其氏名製造所又ハ販賣所名ヲ新聞紙ニテ廣告シ且ツ其製造所、販賣所ニハ看板ヲ掲クヘシ

(九五)

(一六一)

第七條 免許製造人其籍ヲ轉シ若クハ氏名ヲ變スルトキハ管轄廳ヲ經テ免許證ノ書換テ願出ツヘシ但其廢業死亡ノ時ハ免許證ヲ返納スヘシ

第八條 船燈、發火信號器製造人ノ員數ハ遞信省ニ於テ之レヲ制限ス其販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應シ管轄廳ニ於テ之ヲ増減スルヲ得ヘシ

第九條 遞信省又ハ地方廳ニ於テハ免許製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ派出シ其製造ノ適否ヲ監査シ場合ニ依リ之ヲ實試スルコトアルヘシ

第十條 不合格ノ製器ハ監査官吏ニ於テ其改造ヲ命シ或ハ販賣若クハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 不合格ノ船燈、發火信號器ヲ製造又ハ販賣スル者アルトキハ遞信省又ハ地方廳ニ於テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

第十二條 第四條第五條ヲ犯スモノハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

● 酢元用酒類製造規則 明治十六年十二月二十二號布告
製造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒類稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該規則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價追徴ス

● 西洋形日本船各開港場出入規則 明治八年十一月三十一號布告
明治七年十一月三十一號布告國內回漕規則來ル十二月一日ヨリ當分停止シ西洋形日本船各開港場出入規則別紙ノ通相定右同日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別紙)

西洋形日本船各開港場出入規則

第一條 凡ソ西洋形日本船ハ蒸氣風帆ノ別ナク橫濱神戸大坂長崎箱館新瀉ノ六港ニ入津スルトキハ其投錨時刻ヨリ十二時間ニ第一號書式ノ通リ其港稅關ヘ届出ヘキ事

但シ風潮ノ不順等ニ因リ一時無餘儀入港シ十二時間ニ出港スルモノハ届書ヲ出スニ及ハス

第二條 貨物ノ積卸ハ其港稅關ノ免許ヲ受ケタル後チニアラサレハ一切相成ラサル事

第三條 輸入稅未納ノ外國貨物及ヒ貨主外國人ニテ輸出稅未納ノ内國貨物回漕ノ儀ハ本年第二十號布告ニ照ラシ夫々手數致スヘキ事

第四條 出港セントスル時ハ必ラス二時間前マテニ第二號書式ノ通リ稅關ニ届出ヘキ事

第五條 出入港ノ届ヲ等閑ニスル者ハ左ノ通リ科料申付タヘキ事 (九年第二十九號布告)
ニテ各項共改正ス

蒸氣船 三百噸マテ金五圓
三百噸以上三百噸毎ニ五圓ヲ加フ

風帆船 三百噸マテ金三圓
三百噸以上三百噸毎ニ三圓ヲ加フ

(書式畧之)
● 請願規則 明治十五年十二月五十八號布告
請願規則左ノ通制定ス

請願規則
第一條 人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ルヘシ
第二條 郡區長及ヒ戶長職務内ノ事件ハ郡區長戶長ニ請願スヘシ郡區長戶長ノ指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ府知事縣令ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル

(二六一)

ル者ハ太政官ニ請願スルヲ得
 府知事縣令警視總監職務内ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ府知事縣令警視總監ノ指
 令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルヲ得
 各省卿職務内ノ事件ハ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルヲ得
 第三條 凡ソ請願スル者ハ書面ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サス官署ノ求メニ應シテ開陳スル
 ハ此限ニ在ラス
 第四條 請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請願スル者ヲ除クノ外住所戸長ノ
 奥印ヲ受クヘシ其連名ヲ以テ請願スルモノハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請
 願發起人アルキハ其由ヲ肩書スヘシ戸長ノ奥印ヲ受ルハ前ノ例ニ同シ
 第五條 府縣郡區總代又ハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス
 但成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニアラス
 第六條 請願書ヲ上呈スルニハ代人ヲ以テスルヲ許サス數人連名スル者ハ請願人中ニ於テ三名
 以下ノ總代人ヲ撰ヒ之ニ委託スヘシ
 第七條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得
 第八條 上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ添フヘシ
 第九條 請願書ノ郵達ヲ得タル官省若シ其主務ニ非サルハ直ニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人
 ニ通知スヘシ
 第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルキハ主務官ニ付シテ處分セシムヘシ
 第十一條 太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルヲ得ス又裁判所ニ訴フルコトヲ得ス
 第十二條 請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ス

(三六一)

第十三條 凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セス
 第十四條 行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス
 第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ經ス及ヒ第三條第四條第五條第六條第八條第十一條ノ規程ニ循
 ハサル者ハ受理セス
 第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及ヒ第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理
 セス
 第十七條 條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ願フ者ハ十一日以上一年以下ノ輕
 禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上
 二年以下ノ輕禁錮ニ處シ若シ請願人ノ外致唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ス其囑聚ニ涉ル
 者ハ刑法ニ依テ處分ス
 第十八條 請願人官吏ニ對シ抗論シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
 其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス
 第十九條 請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルヲ許サス犯ス者ハ罪前條第一項ニ全シ
 第二十條 請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法ニ依テ處分ス
 內務省令第二號明治二十年九月廿九日
 凡ソ意見ヲ建言シ又ハ各自ノ利害ニ關シ請願スル者ハ明治十三年第五十三號布告及十五年第五十
 八號布告ニ依遵スヘキ處近來建言ヲ名トシ官吏ニ面謁口陳ヲ求メ從テ抗論喧擾ニ涉ル者アリ右等
 ハ何等ノ名義ヲ用ユルニ拘ラス其違犯者ハ總テ十五年第五十八號布告ニ依リ處分スヘシ
 ●石油取締規則明治二十年九月廿六號布告
 明治十四年八月第四十號及ヒ同年九月第五十號布告石油取締規則左ノ通改定ス

石油取締規則

(四六一)

- 第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焔試驗法ヲ用ヒ攝氏驗温器三十度(攝氏八十六度)以上ノ温度ニ達セサルハ發焔セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焔スルモノヲ第二種トス
- 第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工藝上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス
- 第三條 石油營業者ヲ分テ曠業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳東京府下ハ警視廳ノ許可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルハ別ニ其許可ヲ受クヘシ
- 第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於テ検査員ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ
- 石油ハ検査済ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但曠業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限リニアラス
- 第五條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ
- 第六條 石油營業者前條制限外ノ石油并検査未済ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳東京府下ハ警視廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス
- 第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取り置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日出ヨリ日没マテトス
- 第九條 石油ヲ運搬スルキハ其石油タルヲ表記スヘシ但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス
- 第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

●船稅規則 明治十六年四月十三號布告

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス
但船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

(別冊)

船稅規則

第一章 鐵札 稅率 免稅

- 第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス
- 第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出検査ヲ受ケ鐵札ヲ乞フヘシ
- 第三條 新製造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出検査ヲ受ケ假鐵札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鐵札ト引換ヲ乞フヘシ
- 第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出検査ヲ受ケ鐵札ノ引換ヲ乞フヘシ
- 第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方廳ニ願出鐵札ノ引換ヲ乞フヘシ
- 第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ
西洋蒸氣船 百噸ニ付一年金十五圓
同風帆船 同 金十圓
日本形船積石五十五石以上 百石ニ付同金二圓

(五六一)

(六六一)

同積石五十石未滿
解漁船小廻船積石ニ拘ラス

長自船梁三間迄ハ一年金三十錢

但三間以上一問ヲ加フル毎ニ金十五錢ヲ増加ス

遊船

長自船梁三間迄ハ一年金五十錢

但三間以上一問ヲ加フル毎ニ金二十五錢ヲ増加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五十石未滿ノ船並解漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時

ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ

倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船

水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「バッテリー」船ノ類

第二章 納稅

第十一條 稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スル者トス其前半年分

ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新製造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ稅

ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所在ノ地方廳ニ届出

納稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシム

ヘシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人

ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其稅金ヲ追徵ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ其脫稅高五倍ノ料料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ貳圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲシ犯タル者及第十條ノ免稅船

ニ烙印ヲ受ケサル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ料料ニ處スル者ハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發

ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

●民事訴訟用印紙規則明治十七年二月 第五號布告

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定メ明治十七年四月一日ヨリ施行ス

(七六一)

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定メ明治十七年四月一日ヨリ施行ス

但明治八年十二月第百九十六號布告訴訟用紙規則ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

(別紙)

(八六一)

民事訴訟用印紙規則

第一條 凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ其受付ノ時ニ於テ印

紙ヲ貼用スヘシ

金額五圓マテ

二十錢

全十圓マテ

三十錢

全二十圓マテ

六十錢

全五十圓マテ

一圓五十錢

全七十五圓マテ

二圓二十錢

全百圓マテ

三圓

全二百五十圓マテ

六圓五十錢

全五百圓マテ

十圓

全七百五十圓マテ

十三圓

全千圓マテ

十五圓

全二千五百圓マテ

二十圓

全五千圓マテ

二十五圓

全五千圓以上ハ千圓マテ毎ニ二圓ヲ加フ

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼スシ

第三條 八事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ

但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戸長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スルコトアルヘシ

第四條 左ノ書類ニハ正本一通ニ付二十錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

答辨書證據物寫辨駁書辨論書上申書陳述書

證人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書

審判ノ延期ヲ請求スル願書

第五條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付五十錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書

財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書

執行命令書ヲ請求スル願書

身代限ノ處分ヲ請求スル願書

第六條 裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ

但裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚十二行一行十二字諸其他ノ謄本ハ壹枚二十行一行十八字詰トス

第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時二十錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第八條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者ニ辨償スヘキモノトス

第九條 印紙ノ種類定額及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ發賣スルコトヲ得ス

(九六一)

第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

●銃砲取締規則 明治五年正月二十八號布告

銃砲取締規則別紙之通被定候條來ル四月ヨリ規則之通可相守事

(別紙)

銃砲取締規則

第一則

一 大小銃並ニ彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致間敷右定員ノ商賣ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ニ於テ管轄スヘキ事

免許商賣ノ定員

一 府下

各五員

一 縣下

各三員

一 鎮臺本分營下

各一員

但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケス

一 開港場

各五員

右免許差遣候商賣ノ姓名住所等東京武庫司ヘ届クヘキ事

第二則

一 免許商人タリル軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照ラシ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳ヘ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ヘ願出可申事

一 免許商人ハ陸海軍准士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入レントスルハ買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事(明治十三年三月第八號布告ニテ本項追加ス)

第三則

一 免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ者ハ免許手形相添毎月其管廳ヘ差出ス可シ其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ管轄鎮臺ヘ差送可申事

但諸鎮臺ヨリ每歲正月七月兩度半ケ年明細帳ヲ以テ東京武庫司ヘ差送り可申尤東京大阪ノ儀ハ武庫司ニ於テ取締可致事

第四則

一 彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミナ計リ勝手ノ場所ヘ差置間敷兼テ其地方管廳ヘ願出差圖ヲ受相圖可申事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ヘ願出ヘキ事

第五則

(一七二) 一 華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲并彈藥類ビストールニ至ル迄私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出東京大阪ハ武庫司ヘ持出別紙銃砲改刻印式ノ通番號官印ヲ受可申他人ヘ讓與ヘ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ

但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通りタルヘシ

銃砲改刻印ノ式

于支何番 武庫司或ハ何府縣

右所持ノ人名番號等逐一書記シ置管轄鎮臺へ届出鎮臺ヨリ東京武庫司へ差送可申事

免許ノ銃類

一和銃四文目八分玉以下

一各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレハ霰彈ヲ用ユルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管轄へ届出其應ヨリ東京武庫司へ差出シ可申

東京大阪ハ所持ノ者ヨリ万一軍用獵用銃ノ差別難相辨者官へ尋出候得ハ檢査ノ上免許ノ證印ヲ据

直ニ武庫司へ届出ヘシ

第六則

(明治六年第二十五號布告鳥獸)

第七則

一銃砲彈藥下々ニ於テ猥リニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作致度者ハ其管轄へ

相願管轄鎮臺へ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司へ差送り檢査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西

洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄銃砲並彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄處へ爲指出其應ヨリ東

京武庫司へ可差出事

但東京大阪ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ武庫司へ可届出事

右之通ニ候事

銃砲取締規則違犯者處分方明治五年九月 第二百八十二號布告

銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥ヲ窃ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五

十錢ノ過料可申付候事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金可被下候事

一免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事(明治七年十二月 第三百三十二號布

告ニテ)

追加)

但書同前 右取上候品東京大阪ハ武庫司其他ハ所管ノ鎮臺へ可差出事

●車稅規則明治八年二月 第二十七號布告

明治六年一月第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月卅一日限り相廢シ

尤遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年二月第二十一號布告舩漁船并ニ海川小廻船等船稅規則ニ照

準收稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

車稅規則

第一則

一馬車二正立以上

一箇年稅金三圓

一同 一正立

一箇年稅金貳圓

一荷積馬車

一箇年稅金壹圓

一人力車貳人乘

一箇年稅金貳圓

一同 壹人乘

一箇年稅金壹圓

一牛車

一箇年稅金壹圓

(四七一)

- 一 荷積大七八車 一箇年税金壹圓
- 一 荷積中小車但大六以下 一箇年税金五拾錢
- 第二則
- 一 新調ノ車ハ總テ其都度區戸長へ届出檢印可申受事
但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事
- 第三則
- 一 新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納税シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納税候儀ト可相心得事
- 第四則
- 一 右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戸長へ取集メ其管轄廳へ可相納事
但前半年分ハ一月卅一日限後半年分ハ七月卅一日限リ其管轄廳へ可相納事(十一年第四號布告ニテ納税期改正)
- 第五則
- 一 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免税タルヘキ事
- 第六則

一 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脱税高ノ五倍科料タルヘキ事
附則 (二十一年勅令第七號ニテ追加同年七月一日ヨリ施行ス)

北海道廳管内ニ限リ第一則ニ掲クル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七八車荷積中小車ハ當分ノ内税金ヲ免除ス

●集會條例 明治十三年四月
第十二號布告
集會條例別冊之通被定候條此旨布告候事

(別冊)

集會條例

- 第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ
- 第二條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政治ニ關スル事スル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルトキモ同様タルヘシ此届出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルコトアレハ社中ノ事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ
- 前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サントスルトキハ仍ホ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ(十五年第二十七號布告ニテ本條ヲ改正追加ス)
- 第三條 講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ定規アル者ハ其定期ヲ初會ノ三日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルキハ爾後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖モ之ヲ變更スルトキハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第四條 管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ認可セス又ハ認可スルノ後ト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ(十五年第二十七號布告ニテ改正ス)
- 第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可ノ證ヲ檢査シ會場ヲ監視セシムルコトアルヘシ

(五七一)

警察官會場ニ入ルトキハ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問アルトキハ結社集會ニ關スル事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ(十五年第二十七號布告ニテ本項ヲ追加)

第六條 派出ノ警察官ハ認可ノ證ヲ開示セサルトキ講談論議ノ届書ニ掲ケサル事項ニ亘ルトキ又

(六七一)

八人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキ及ヒ集會ニ臨ム
ヲ得サル者ニ退去ヲ命シテ之ニ從ハサルトキハ全會ヲ解散セシムヘシ(但書ハ十五年第二十七號)
前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命シタルトキ地方長官(東京ハ警視長官)ハ其情狀ニ依リ演說者ニ對シ一箇年以内
管轄内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止シ其結社ニ係ル者ハ仍ホ之ヲ解散セシムルヲ得
内務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シ一箇年以内全國内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ
禁止コトヲ得(十五年第二十七號布告)

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍人警察官
官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルヲ得ス(十二年
第三十一號
ニテ改正ス)

第八條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆
ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連結通信スルコトヲ得ス(十五年第二十七號
布告ニテ改正ス)

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催スヲ得ス
第十條 第一條ノ認可ヲ受ケスシテ集會ヲ催スモノ會主ハ貳圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一
日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ貸シタル者并ニ會長幹事及ヒ其講談論議者ハ各二圓以上
二十圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ亦本條ニ依ル

第十一條 第二條第一項ノ規程ニ背キテ届出ヲ爲サス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルトキ社
長ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ詐欺ノ届出ヲ爲シ又ハ尋問ヲ得テ偽答スルトキ社長ハ右
罰金ノ外尙ホ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス(十五年第二十七號
布告ニテ改正ス)

第十二條 第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席ヲ肯セス又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサルトキ會
主會長及社長幹事ハ各五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ警察

官ノ尋問ニ答ヘス又ハ偽答スル者ハ同罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ
二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス(十五年第二十七號
布告ニテ改正ス)

第十三條 派出ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙退散セサル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若ク
ハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若ク
ハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シ
テ入社シ又ハ臨會スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金若ク
ハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ脅迫スル者
及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹
事ハ一年以上五年以下ノ結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ多衆集會スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持
スルニ必要ナリト認ムルトキハ之ニ監視スルコトヲ得若シ其監視ヲ肯セサルトキハ第十二條ニ
依テ處分ス

第十七條 學術會ニノ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルヲアルトキハ第十條ニ依テ處分ス(十五年第七號布告
ニテ本條改正追加ス)

第十八條 前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルトキハ第六條ニ依テ處分ス(十五年第二十七號布告
ニテ本條以下追加ス)

第十九條 凡ソ結社若クハ集會スル者内務卿ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ禁止スル
コトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハス又ハ仍ホ秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰
金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

(七七二)

第十九條 戒法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラス

●酒造稅則 明治十三年九月 第四十号布告

(八七一) 今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告

候事 (別冊)

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡酒類ヲ製造シ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ク

第二條 酒類ヲ分ツテ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造酒

二類 蒸溜酒 燒酎(酒糟再溜酒)其他蒸溜シタルモノヲ云フ

三類 再製酒 「十五年第十七号布告ヲ以テ」ノ文字ヲ追加ス
銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ
又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付 金三十圓

酒類造石稅 (十五年第六十一號 布告ニテ改正ス)

一類一石ニ付 金四圓

二類一石ニ付 金五圓

三類一石ニ付 金六圓

第四條 免稅ハ其年十一月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス (十五年第六十一號布告)ニテ本項以下追加ス

清酒 百石

濁酒 十石

一類 清酒濁酒 二類三類 五石

新ニ酒造營業ヲサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ (十五年第六十一號 布告ニテ改正ス)

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納稅 造石檢査

第八條 免許稅ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石稅ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ二月中檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數 (十五年第十七號 布告ニテ改正ス)

第二期 七月卅一日限

三月一日ヨリ六月中檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數 (十五年第十七號 布告ニテ改正ス)

第三期 十月卅一日限 (十九年勅令第七十九號ニテ 九月三十日トアルヲ改正ス)

七月一日ヨリ皆造檢査濟石數ニ係ル稅額并前納額ノ殘數

(九七一)

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ハ申出檢査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出検査ヲ受ケ現石數ニ付納稅スヘシ(十五年一號布告ニテ本項以下追加ス)

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒類ニ變製スル時ハ造石稅ハ其類ニニ類ヲ三類ニ變製スル類シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石稅ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石稅ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石稅ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許稅ヲ納ムヘシト雖モ造石稅ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もト其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳ヘ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳ヘ届出シ可シ(十六年第二十六號布告ニテ本項以下改正追加ス)

造酒着手後造石稅完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得シテ諸器械ヲ酒造場外ヘ移スヲ許サス酒造用諸器械ヲ賣與讓與貸與及ヒ所持主ヘ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラズ検査済ニ係ル造石稅ヲ完納ス可シ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もトヲ販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もトノ不用ニ属シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニアラス(十五年第一號布告ニテ但書追加ス)

第二十二條 他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス(十五年第六十一號布告ニテ改正ス)

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス(十五年第六十二號布告ニテ本項以下改正ス)

検査既済ノ酒類ヘ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒蒸溜器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ属スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

(二八一) 第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ没收シ免許稅額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒類石數ノ檢査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一號布告)

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一號布告)

第三十三條 檢査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタルモノハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(十五年第六十一號布告)

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(十五年第六十一號布告)

ニ處ス(十五年第六十一號布告)

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス(十六年第二十六號布告)

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條 酒類營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

●酒造稅則附則(十九年七月勅令第六十號ニテ改正ス)

明治十五年^{十二}第六十一號布告酒造稅則附則左ノ如ク改正シ明治十九年十月一日ヨリ施行ス

第一條 自家用料ノ酒類(飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ)ヲ製造セント欲スル者ハ其旨管廳ヘ届出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八十錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

(三八一) 第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

一酒類受卸小賣營業者

一飲食店又ハ旅館屋營業者

一前二項ノ營業者ト同居ノ者

(四八一) 第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高一石(二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス)ヲ超ユルヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌シテ得ス

第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡シタル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セ

ザル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ニ同シ

第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

大政官第四十三號布告明治十六年十二月

酒造稅則營業稅則賣藥印紙稅則煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料

スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證據取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ證據ヲ携帶スヘシ

大藏省第七十七號達明治十六年十二月

本年第四十三號布告ニ依リ人民ノ家宅内ニ立入り證據取調ノ處分ヲ爲スハ日出後日没前ニ於テシ其地戶長若クハ用掛隣佑ノ内ヲシテ立會ハシノ候樣取計フヘシ此旨相達候事

大藏省令第二十七號明治十九年八月

勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

第一項 酒造稅則附則第一條ノ屆書ニハ該期造酒ノ種目及ヒ製造見込石高ヲ記シテ差出スヘシ

第二項 前項届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々管廳へ届出ヘシ

第三項 免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四項 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セシトキハ其旨管廳ニ届出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第五項 第一項免許届書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル

第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●營業稅則明治十三年九月

營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

(五八一)

第一條 凡ソ營業稅ノ製造酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

警務營業稅 金五十圓

(一八六) 第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス
第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ
第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ
第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月
中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受ケヘシ

管廳及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ(十五年第六十二號布告ニテ本項追加ス)

第六條 免許鑑札ヲ賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ警務賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス警務營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違反スル者ハ科料トシテ一圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 警務營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣警務受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類(警務ヲ除ク)ヲ製造スルヲ許サス(十五年第六十二號布告ニテ本條以下追加ス)

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但シ本法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 警務營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル者ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

質屋取締條例明治十七年三月九號布告

質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス

(別冊) 質屋取締條例

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳東京府ハノ管轄廳ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物貸金質入主及質入受戻ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ但證人ヲ要スルトキハ質入主及證人ノ實印ヲ押捺セシメ置クヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴瘋癲者及雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非ラサレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サル、コトアルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡査ニ密告スヘシ